

## 1. 対象の防火設備

ドアクローザー (ハイブリッドドアコン NK シリーズ (NK1型))

## 2. 対象の防火設備の仕様

## 2-1. 対象の防火設備の仕様及び形状等

対象の防火設備の仕様及び形状等を表1に示す。

表1 仕様及び形状等

項目	仕様
閉じ力	30.7N{3.13kgf}以下 扉重量(kg)×係数 (片引き: 0.0145、引分け: 0.0174)
レール勾配	片引き戸 15/1000 引分け戸 18/1000
閉鎖保持力	10~14kg
作動速度	0.08~0.18m/秒
最大作動速度	0.2m/秒
適用する扉条件	180kg 以下、片引き戸、引き分戸 (扉面積は 3m <sup>2</sup> 以下) (対象の扉の適用範囲表を表2に示す。)

## 2-2. 当該資材に関する連絡先:

株式会社豊和 ドアシステム事業部 TEL0120-198-551

## 2-3. 当該防火設備の設置、形状等

当該防火設備の設置状況を図1~図4に示す。

対象の防火設備の写真を写真1~4に示す。

対象の防火設備の図面を図5~図6に示す。

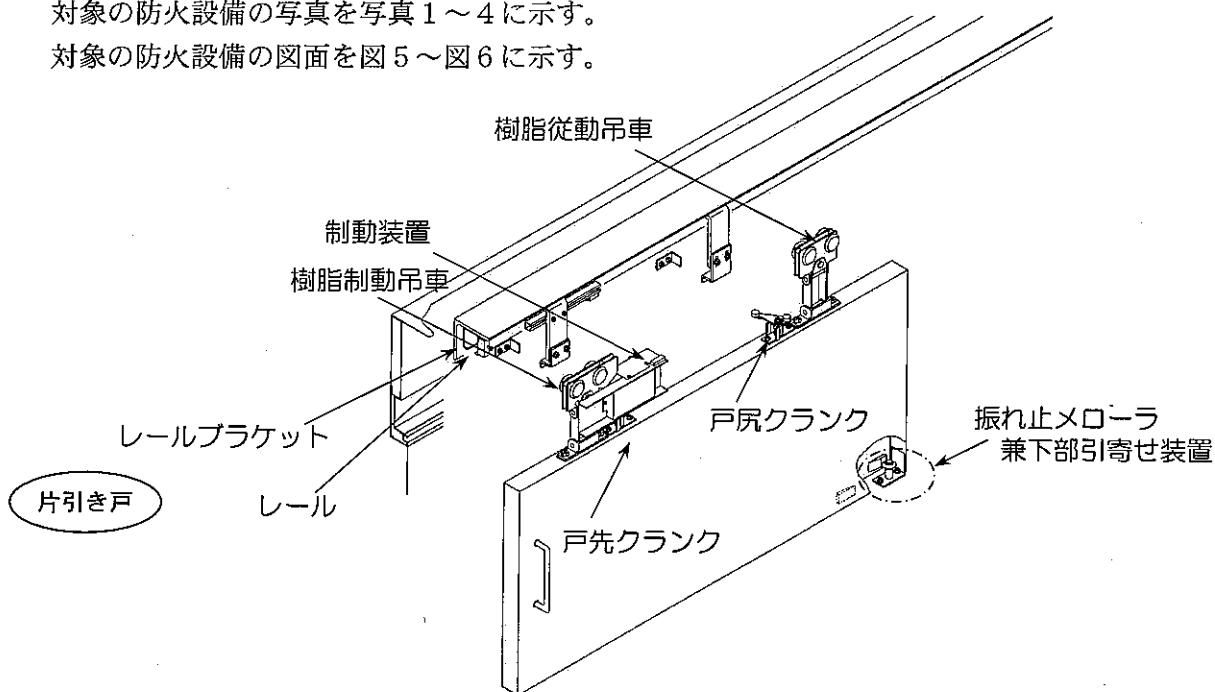


図1 ドアクローザー設置状況 (片引き戸 常閉)

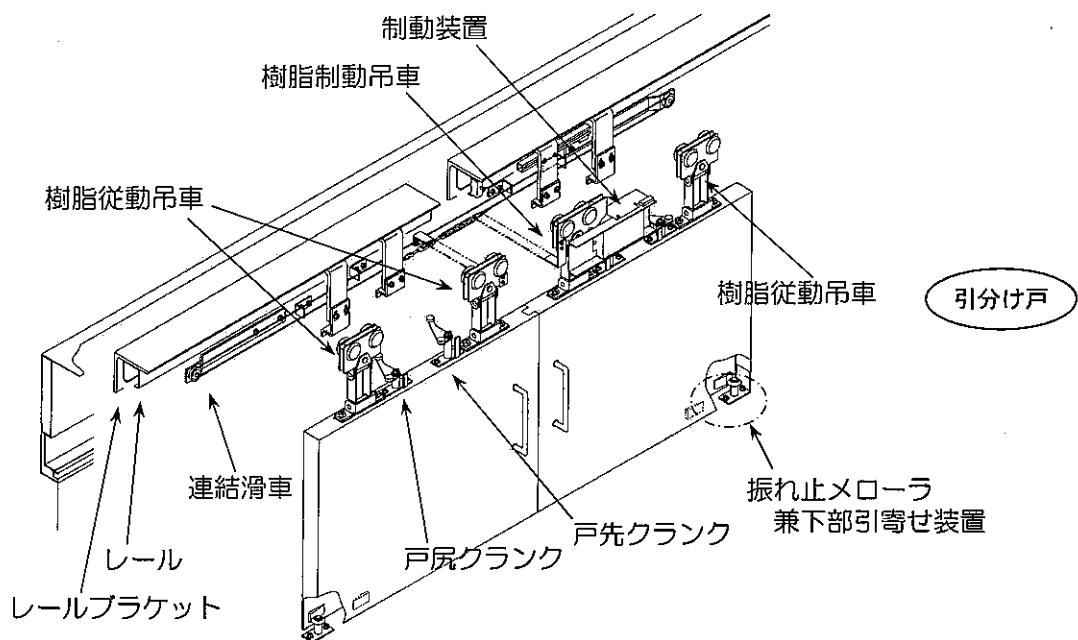


図2 ドアクローザー設置状況（引分け戸 常閉）

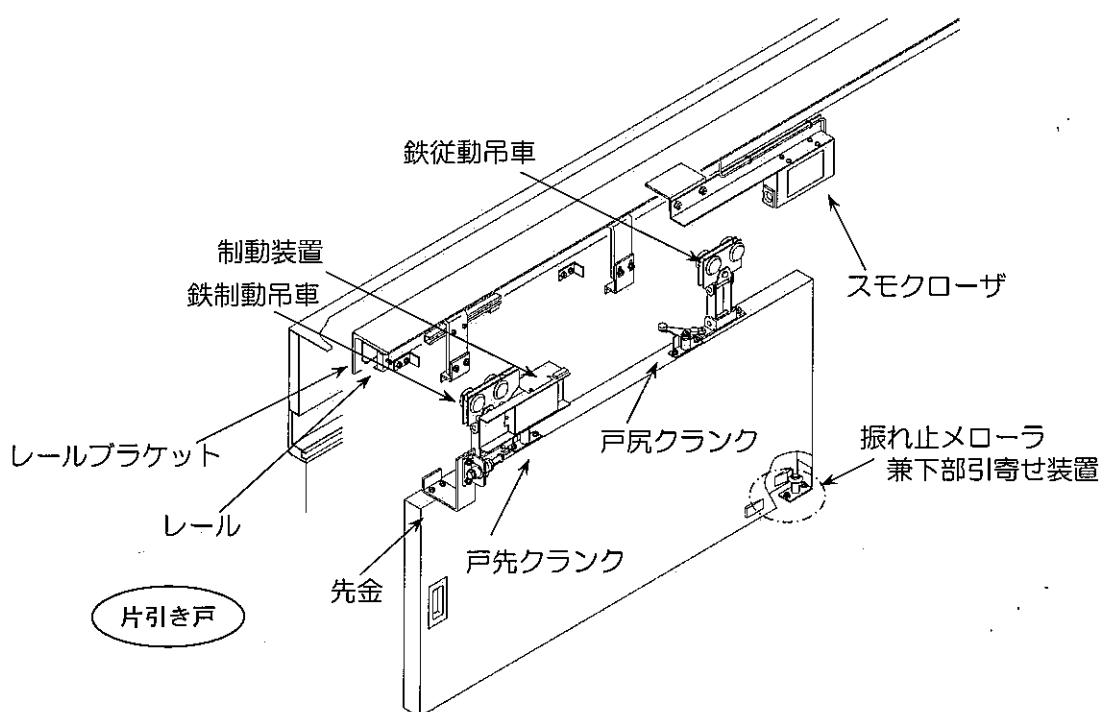


図3 ドアクローザー設置状況（片引き戸 隨閉）

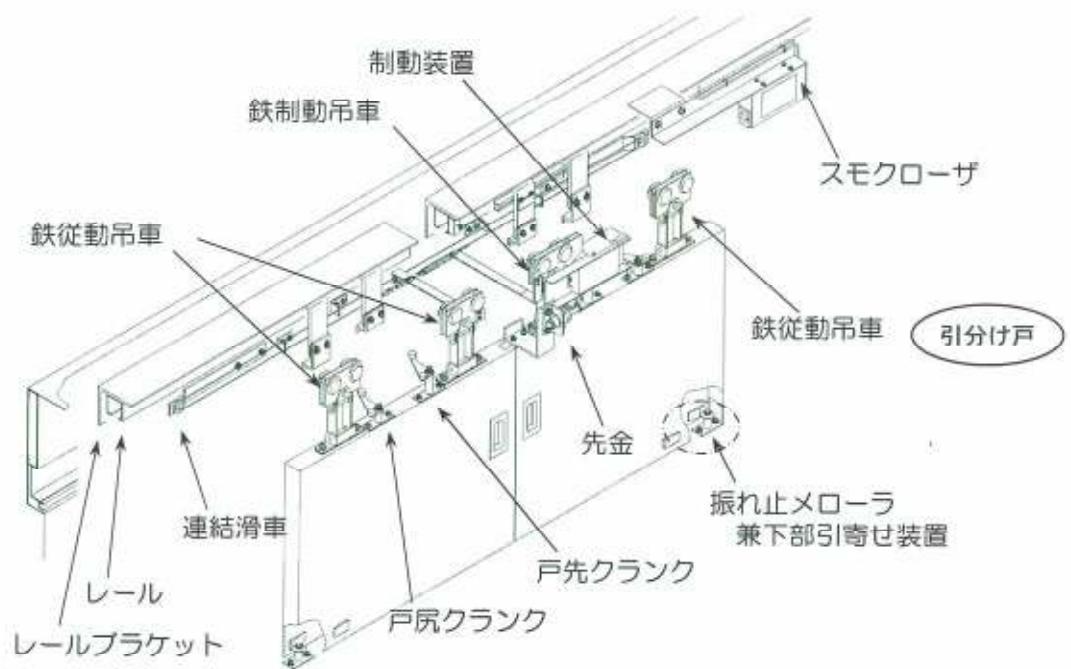


図4 ドアクローザー設置状況（引分け戸 随閉）



写真1 製品姿写真（制動装置）

写真2 製品写真（側面）



写真3 製品写真（正面）



※速度調整方法シール最下段に  
「B」+3桁の数字  
の記述があること。

側面が点検口から正面になるよ  
う設置されていること。

写真4 製品写真（上面）



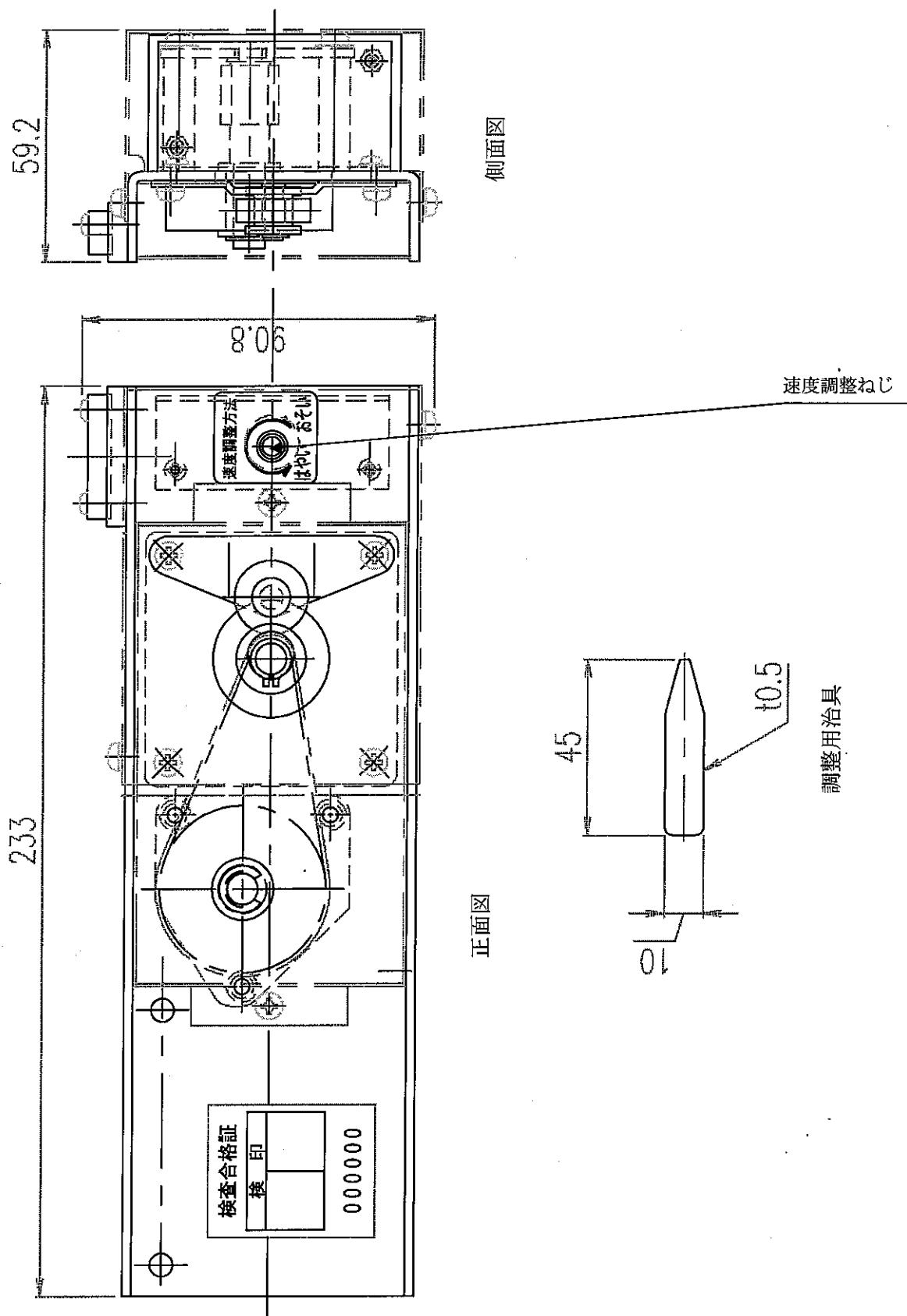


図5 製品図

DKS02 : POM(ポリアセタール樹脂)

樹脂歯車：POM（ポリアセタール樹脂）

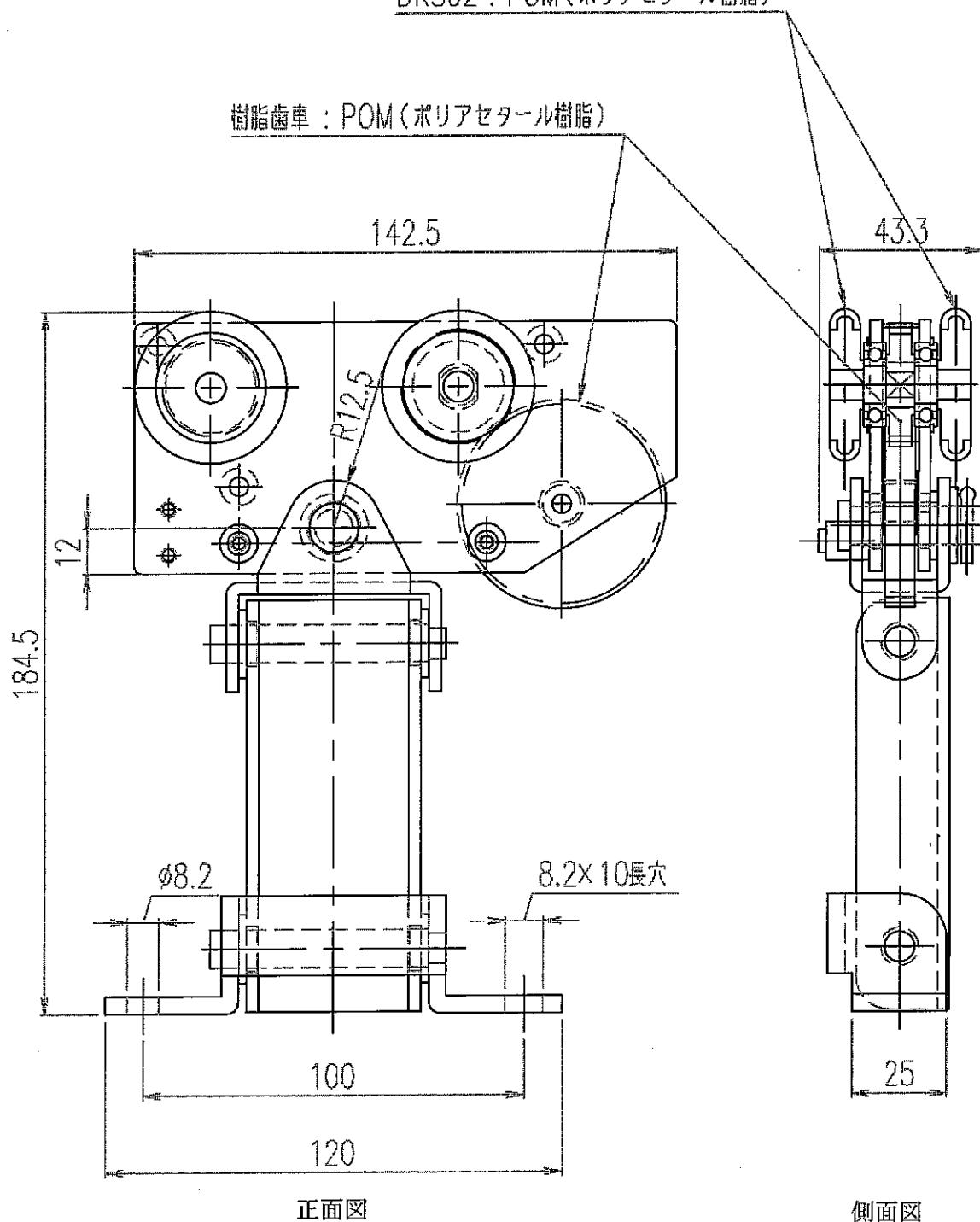


図6 製品図（制動吊車）

NKシリーズ NK1型適用サイズ及び扉重量(自抜き部分に適用。扉180kg以下)

		扉 高 (mm)		扉 幅 (mm)																			
		扉高 (mm)	扉幅 (mm)																				
		3500	120	133	146	160	159	186	206	215	226	239	257	266	278	292	306	319	332	359	372	396	
		3400	116	129	142	155	168	180	194	207	213	223	246	258	271	282	297	311	325	342	359	372	395
		3300	104	125	138	151	163	176	188	201	211	224	233	244	256	268	280	292	304	317	331	344	
		3200	101	122	134	146	158	170	180	195	207	219	224	235	248	268	280	292	304	317	331	344	
		3100	98	118	130	141	153	165	177	189	201	212	226	236	247	269	271	283	295	307	319	331	
		3000	95	114	125	137	148	160	171	180	194	205	217	228	239	251	274	285	296	307	319	331	
		2900	91	102	121	132	143	154	165	176	187	198	209	220	231	242	254	265	276	287	298	310	
		2800	88	98	117	128	138	149	160	170	180	192	201	213	223	234	245	255	266	278	289	301	
		2700	85	95	104	123	133	144	154	164	174	185	195	205	216	228	238	248	258	268	278	288	
		2600	82	91	100	119	128	138	148	158	170	178	183	198	203	217	227	237	247	257	267	277	
		2500	79	88	96	114	124	133	143	152	161	171	180	190	200	209	219	228	233	241	255	265	
		2400	76	84	92	101	119	128	137	146	155	164	173	180	192	200	210	219	223	227	235	243	
		2300	73	81	89	97	105	122	131	140	149	157	166	175	184	192	200	210	219	225	235	244	
		2200	69	77	85	92	100	117	125	134	142	151	159	167	176	184	192	200	208	217	224	232	
		2100	66	74	81	88	96	103	120	128	136	144	152	160	168	176	184	190	200	208	214	221	
		2000	63	70	77	84	91	98	114	121	129	137	144	152	160	167	175	180	191	203	211	219	
		1900	60	67	73	80	87	93	100	116	123	130	137	144	152	159	166	173	180	188	196	203	
		1800	57	63	69	76	82	88	95	101	116	123	130	137	144	151	157	164	171	178	185	193	
扉重量(kg)	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900	2000	2100	2200	2300	2400	2500	2600	2700	2800	2900		

表2 対象の扉の適用範囲表

### 3. 対象の防火設備の取付手順

対象の防火設備の取付は、別添1の以下の書類に基づいて行う。

- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| ドアコンシステム NK1型 | 取付説明書（片引き戸現場施工用）常時閉鎖タイプ |
| ドアコンシステム NK1型 | 取付説明書（引分け戸現場施工用）常時閉鎖タイプ |
| ドアコンシステム NK1型 | 取付説明書（片引き戸現場施工用）随時閉鎖タイプ |
| ドアコンシステム NK1型 | 取付説明書（引分け戸現場施工用）随時閉鎖タイプ |

### 4. 対象の防火設備の定期的保守

対象の防火設備の定期的保守は、別添2の以下の書類に基づいて行う。

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 常時閉鎖型遮煙引き戸（常閉）       | NK1型ドアコンシステム 取扱説明書 |
| 煙（・熱）煙感知器連動遮煙引き戸（隨閉） | NK1型ドアコンシステム 取扱説明書 |

別添1

## 取付説明書

(株) 豊和仕様

## 取付説明書 (片引き戸現場施工用)

品名	ドアコン遮煙引き戸 駆動部 ドアコンシステム NK1型
----	--------------------------------

常時閉鎖タイプ

○ 株式會社 豊和  
技術部

(株) 豊和仕様

## ドアコンシステムNK1型 取付説明書

### 片引き戸 現場施工用

この説明書は、ドアコンシステムNK1型（常時閉鎖タイプ）の片引き戸（D t : 45）の現場での施工（取付け）を説明するものです。よくお読みになりご理解されたうえで、正しく施工してください。

#### この説明書についての注意事項

- ◎ 説明文中、右引き勝手・左引き勝手と記載していますが、点検口カバー側から見て下記の通り定めています。
  - 引き戸が右方向へ開く —— 右引き勝手
  - 左方向へ開く —— 左引き勝手
- ◎ 添付図は、右引き勝手用を点検口カバー側から見たものを基準にしています。  
左引き勝手用は添付図の勝手違いとなります。

なお、扉吊込み前の作業はつぎのとおりです。

- 1) 3方枠の取付けおよびゴムの取付け  
(3方枠気密ゴムおよび戸尻たて枠の戸当りゴム)
- 2) ゴムポケットおよび戸尻等の吊込み後、仕上げ塗装不可部分の先行仕上げ塗装実施（別途工事：客先に依頼のこと）

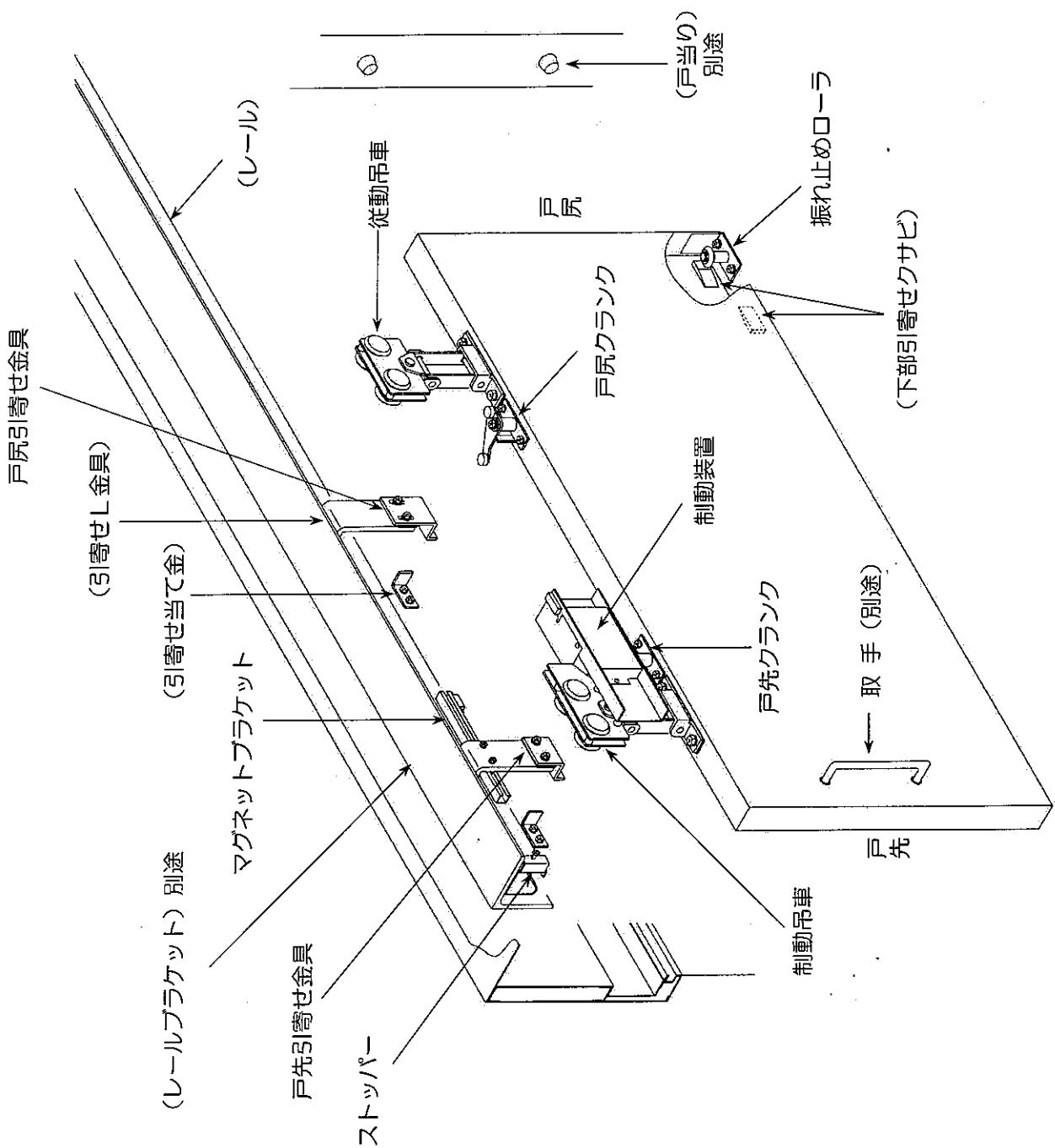
## 現場施工完成略図

(片引き戸用)

○部品名で( )内は工場施工済み品を示す。

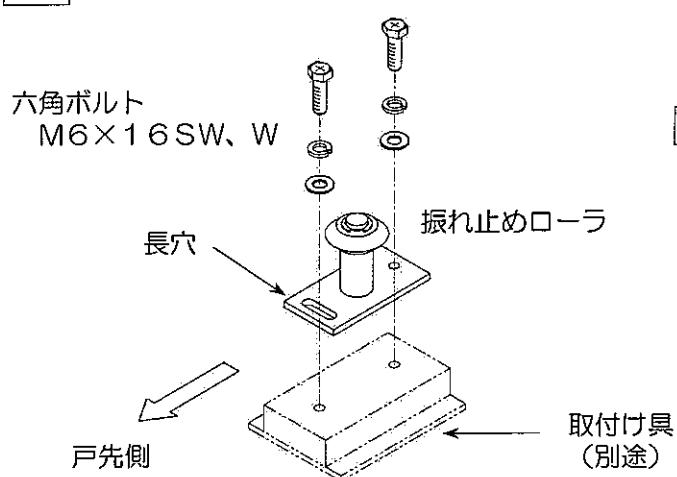
○本図は、右引き勝手を示す。

○左引き勝手は、本図の勝手違いとなる。



## 施 工

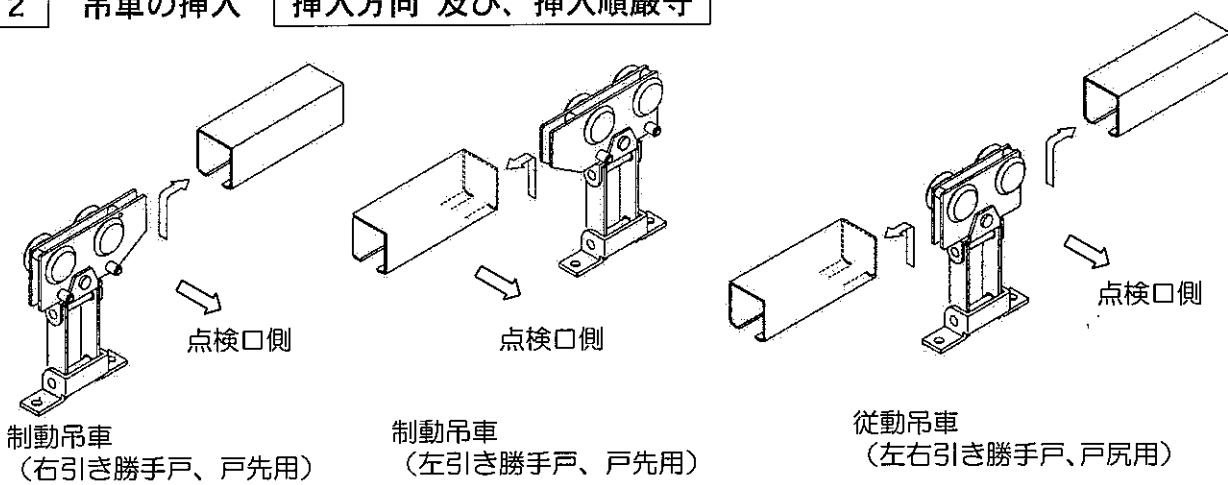
### 1 振れ止めローラの取付け



1) 振れ止めローラを床面の別途取付け具に固定する。長穴を戸先側にする。

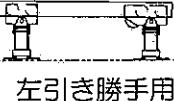
**注** 取付け関係位置は長穴の中心で固定してください。(別途設計図等に合わせてください。)

### 2 吊車の挿入 挿入方向 及び、挿入順厳守



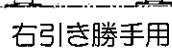
従動

制動



制動

従動



1) 従動吊車・制動吊車各1ヶを同順にてレールの → より挿入。

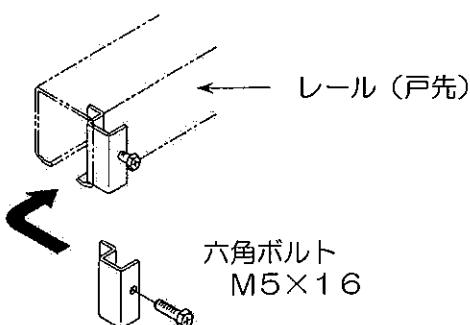
2) スッパーを挿入口に取付ける。

**注** 手順1) の時、レールに勾配がついているため、各吊車を落下させないようにしてください。

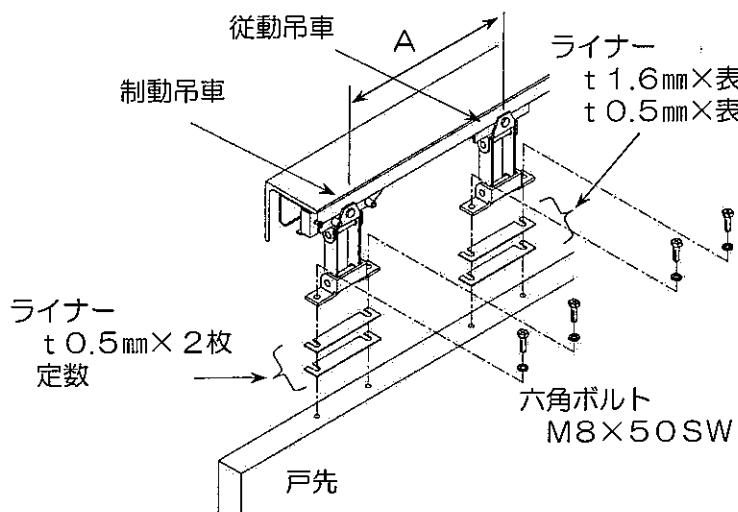
○各吊車に挿入方向、挿入順があります。

○制動吊車には歯車がついていますので、指づめ等、気を付けてください。

#### ストッパーの取付け



### 3 制動・従動吊車の取付け および、引き戸の吊り下げ



1) 従動吊車にライナーを下表の枚数差込み、吊り下げる。

2) 制動吊車に0.5mm×2枚(定数)差込み、吊り下げる。

- 注**
- DW寸法または、A寸法により戸尻吊車のライナー枚数は決まっています。
  - 制動吊車 每、0.5×4枚付属しています。
  - 従動吊車 每、1.6×1枚+0.5×2枚付属しています。

《引き戸・戸尻吊車のライナー枚数》

単位:mm

DW寸法	A寸法	戸尻吊車ライナー	DW寸法	A寸法	戸尻吊車ライナー
960≤DW<975	590	1.6×6枚+0.5×0枚	1270≤DW<1305	920	1.6×9枚+0.5×0枚
975≤DW<1010	625	1.6×6枚+0.5×1枚	1305≤DW<1340	955	1.6×9枚+0.5×1枚
1010≤DW<1050	660	1.6×6枚+0.5×2枚	1340≤DW<1380	990	1.6×9枚+0.5×2枚
1050≤DW<1085	700	1.6×7枚+0.5×0枚	1380≤DW<1415	1030	1.6×10枚+0.5×0枚
1085≤DW<1120	735	1.6×7枚+0.5×1枚	1415≤DW<1450	1065	1.6×10枚+0.5×1枚
1120≤DW<1160	770	1.6×7枚+0.5×2枚	1450≤DW<1490	1100	1.6×10枚+0.5×2枚
1160≤DW<1195	810	1.6×8枚+0.5×0枚	1490≤DW<1525	1140	1.6×11枚+0.5×0枚
1195≤DW<1230	845	1.6×8枚+0.5×1枚	1525≤DW≤1550	1175	1.6×11枚+0.5×1枚
1230≤DW<1270	880	1.6×8枚+0.5×2枚	—	—	—

### 4 引き戸・建付けの調整

1) 制動吊車のライナー増減で調整する。

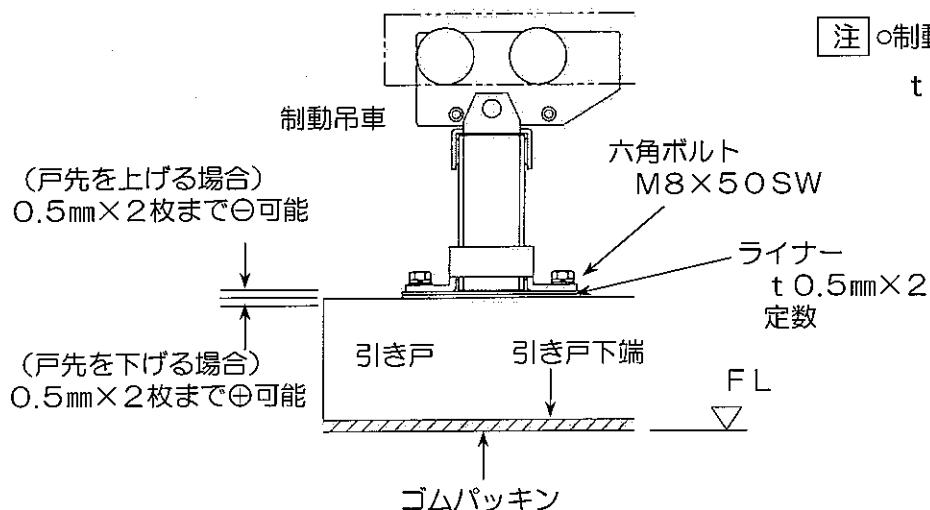
2) 引き戸を上げる場合

六角ボルト(M8)ゆるめ、ライナー(0.5mm)を適度に取除く。(最大1.0mm調整可)

3) 引き戸を下げる場合

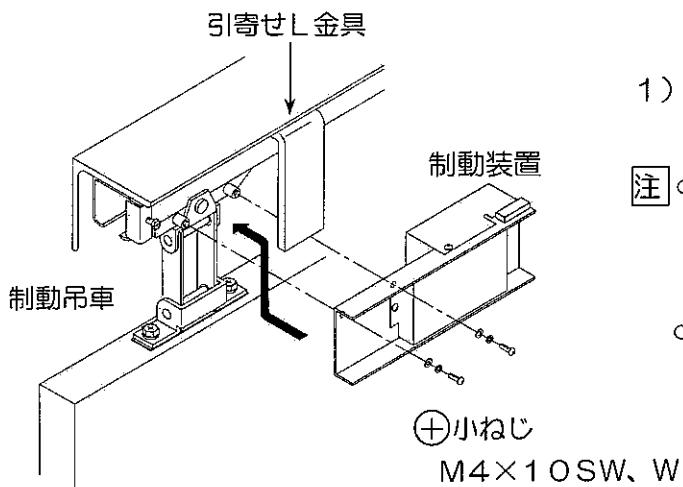
六角ボルト(M8)ゆるめ、ライナー(0.5mm)を適度に加える。(最大1.0mm調整可)

4) 調整後は必ず六角ボルト(M8)を確実に締め付け固定する。



- 注**
- 制動吊車に使用するライナーはt 0.5mm×4枚付属しています。

## 5 制動装置の取付け



1) 制動装置を制動吊車に引寄せし金具をくぐらせて固定する。

**注**○制動装置 および、制動吊車には、歯車があります。噛み合わせを確認して取付けを行ってください。

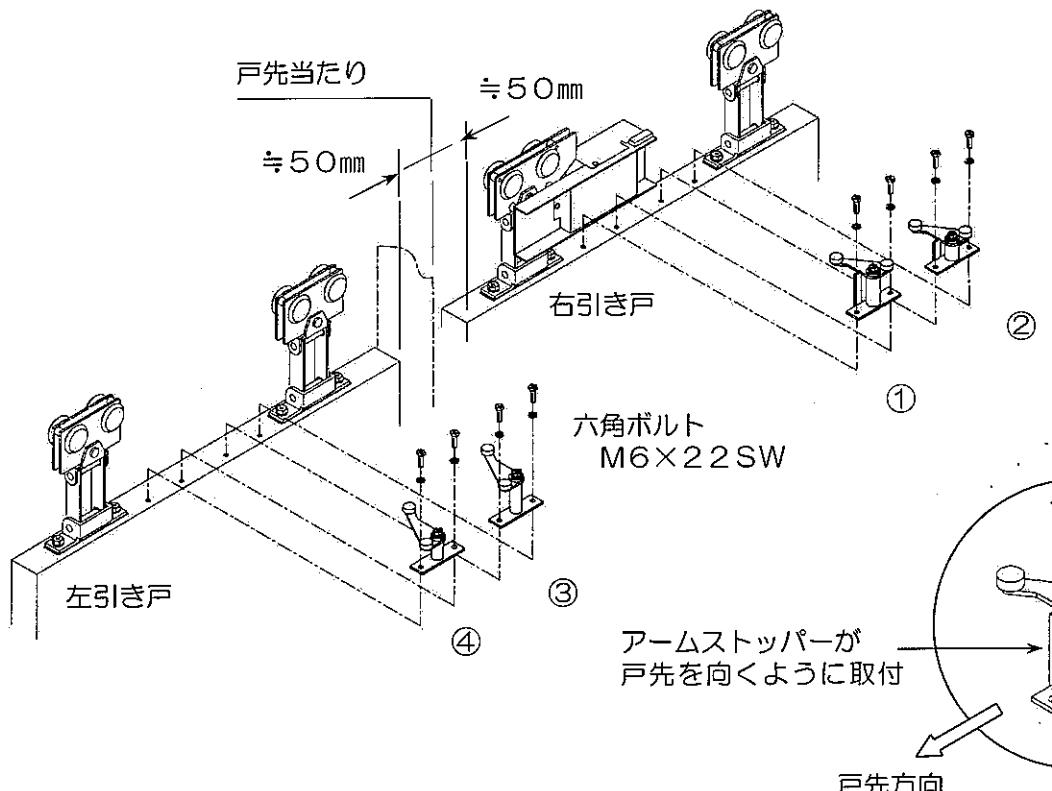
○制動吊車には歯車がついていますので、指つめ等、気を付けてください。

## 6 戸先・戸尻クランク（R・L）の取付け

- 1) 戸先当たりより開方向へ $\approx 50\text{mm}$ 移動した位置に、引き戸をくさび等で固定する。
- 2) 左引き勝手の引き戸は、戸先に戸先クランク（L）、戸尻に戸尻クランク（L）を固定する。
- 3) 右引き勝手の引き戸は、戸先に戸先クランク（R）、戸尻に戸尻クランク（R）を固定する。

**注**○引き勝手により戸先・戸尻の2種類付属しています。

- |            |   |
|------------|---|
| 右引き勝手の時、付属 | ①戸先クランク（R）・・・右引き戸・戸先用<br>②戸尻クランク（R）・・・〃・戸尻用 |
| 左引き勝手の時、付属 | ③戸先クランク（L）・・・左引き戸・戸先用<br>④戸尻クランク（L）・・・〃・戸尻用 |



## 7 戸先・戸尻引寄せ金具の取付け

1) 戸先・戸尻引寄せ金具と引寄せL金具(2ヶ)の間に引寄せライナー(t 1.0mm×2枚)を差込み、固定する。

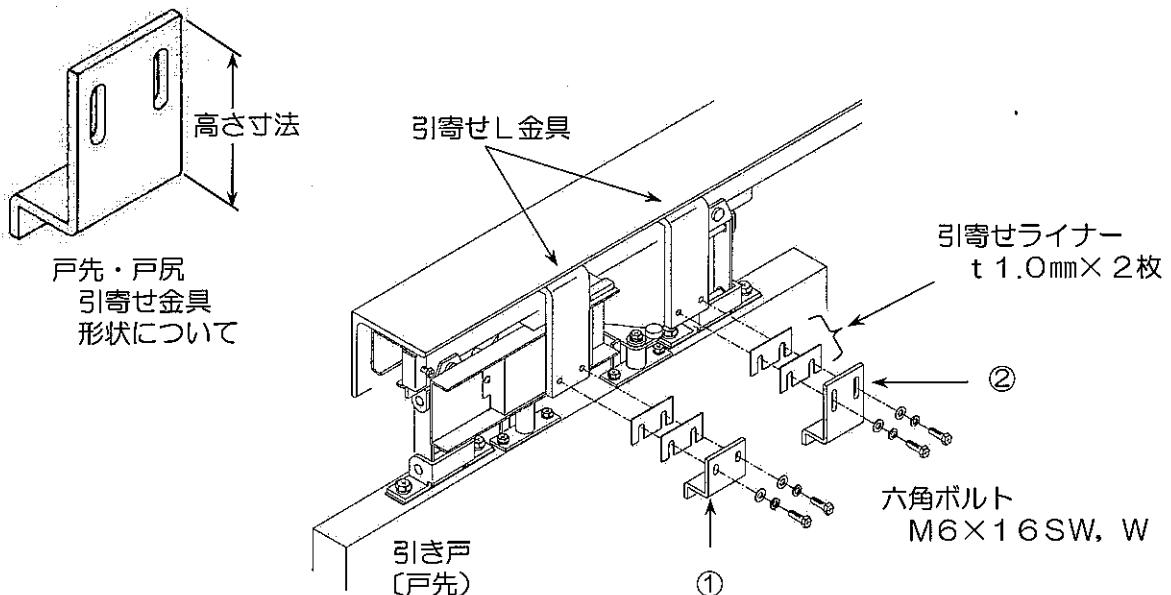
**注**○2種類の引寄せ金具を付属しています。

①戸先引寄せ金具・・・引き戸・戸先用(高さ寸法=短い)

②戸尻引寄せ金具・・・〃・戸尻用(高さ寸法=長い)

○引寄せライナーは、引寄せ金具毎、4枚付属しています。(合計8枚)

(2×2=4枚使用し、4枚は調整用の予備)

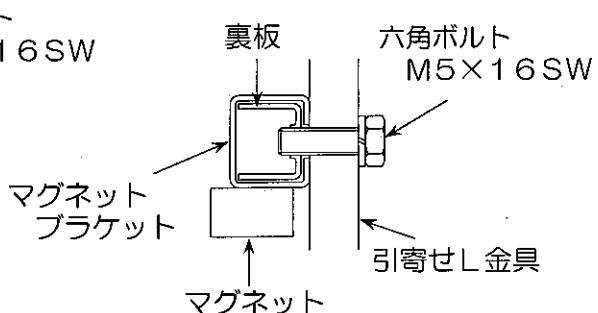
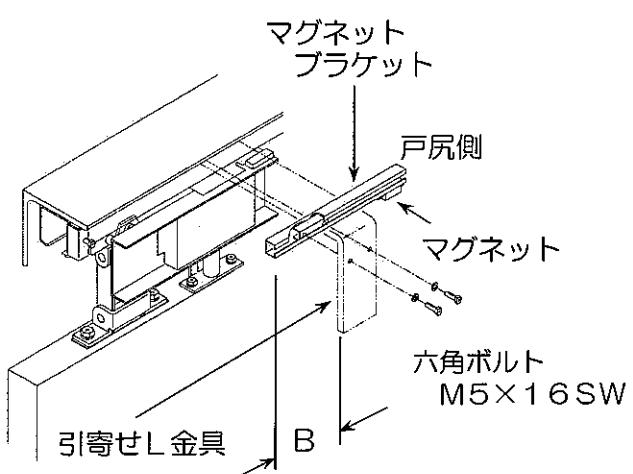


## 8 マグネットブラケットの取付け

1) マグネットブラケットに組込み済の六角ボルトを取り外す。

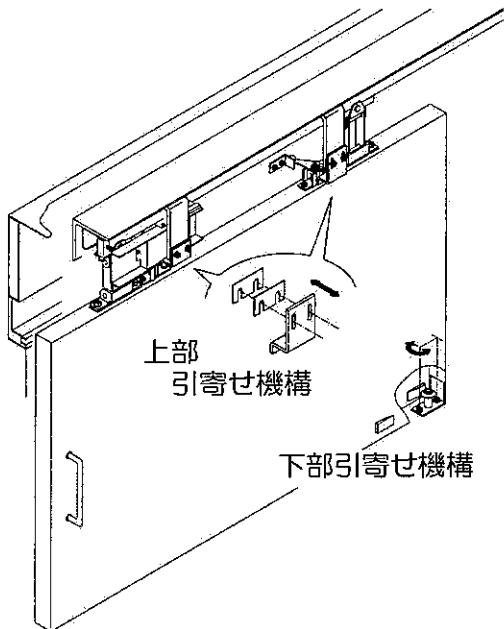
2) マグネットブラケットを引寄せL金具と裏板でマグネットが戸尻側になるよう固定する。  
(B寸法=30mmに固定する。)

**注**○レールと平行に取付けしてください。



## 9 引き戸引寄せの調整

- 1) 引き戸全閉時、引き戸が枠側に5mm寄せられ、枠とのスキマが2mm（パッキン除く）になるよう調整してください。
- 2) 上部引寄せ機構調整は戸先・戸尻引寄せ金具の六角ボルトをゆるめ引寄せライナー（t1.0mm）の増減で調整してください。
- 3) 下部引寄せ機構調整は振れ止めローラの六角ボルトをゆるめ ←→ 方向で調整してください。



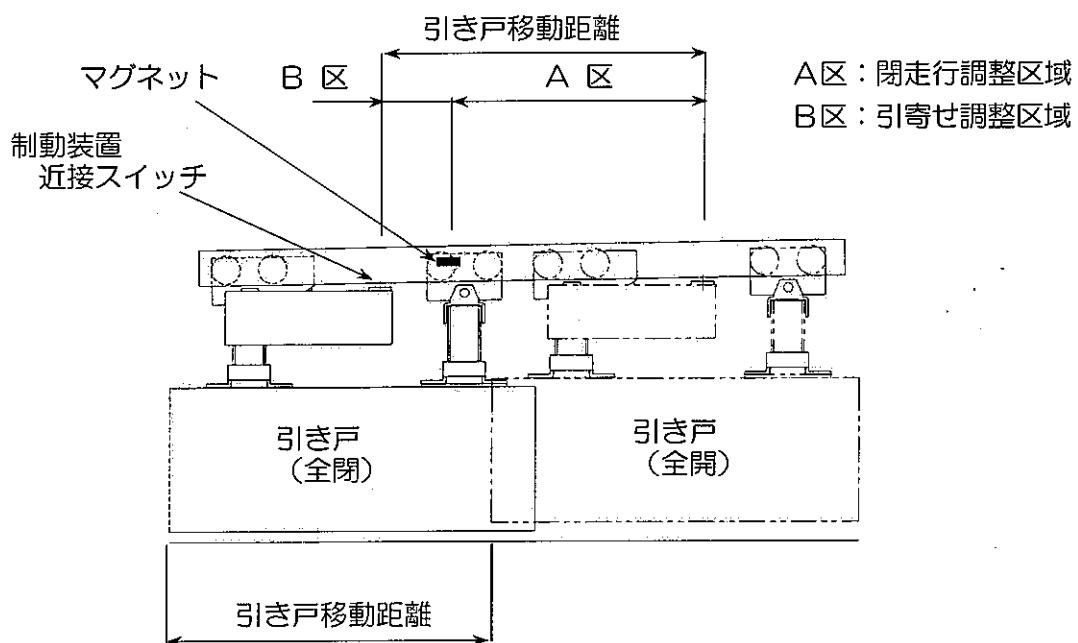
- 4) 調整後、六角ボルトは確実に締め付けてください。

**注**○上部引寄せ機構調整は、1mm単位で前後2mm調整可能です。  
(引寄せ金具1ヶ毎、引寄せライナー1mm×4枚付属しています。)  
又、前後2mmにて対応できないときは、引寄せ当て金(P2参照)を左右に移動することにより若干の引寄せ量調整が可能です。

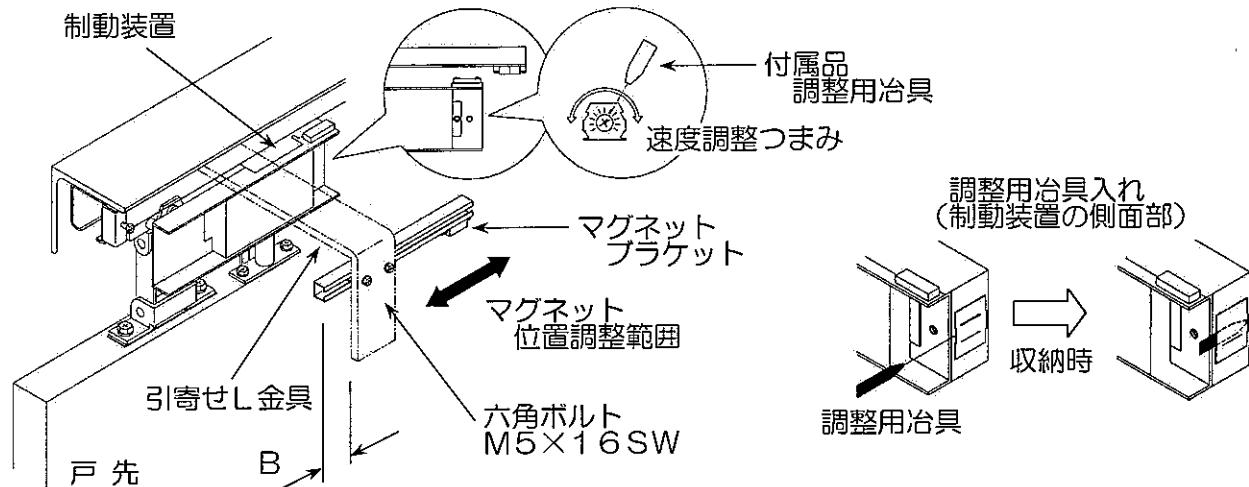
◎以上で片引き戸現場施工においての各部品の取付けは完了です。

## 開速度の制御説明

- 1) 引き戸閉走行時の動きは、つぎのとおりとなりなす。
- 2) 調整等に際して参考としてください。



## 閉速度調整方法 A区域 および、B区域の調整



1) 全閉（閉鎖）状態になるようA区域およびB区域で調整を行う。

### 【A区域における閉鎖速度の調整】

- ① A区域の走行速度は、1.2.5cm／秒（8秒／m）以下を目安とします。
- ② 全閉可能な範囲で、最も遅い速度になるよう調整して下さい。

○調整は制動装置についている速度調整つまみを、調整用治具で回転させる。

左方向回転・・・速くなる

右方向回転・・・遅くなる

○調整用治具は、制動装置の側面部にあるシールのスキマに収納して下さい。

### 【B区域における閉鎖力の調整】

- ① B区域は上図B寸法30mmを目安とします。（0mm～90mmまで調整可能）
- 調整は六角ボルトM5×16 SW（2本）をゆるめ、マグネットブラケットを左右に移動させる。  
調整後、六角ボルトは確実に締め付ける。

戸先方向移動・・・閉鎖力が弱くなる（引き戸がはね返るときに移動する方向）

戸尻方向移動・・・閉鎖力が強くなる（引き戸が全閉しないときに移動する方向）

### ② B区域における閉鎖力の調整例

#### ○B寸法0mmの時

引き戸が全閉しない・・・施工 [9] に戻り、上部引寄せ機構の引寄せライナー1枚を増やし、再度B区域調整を行う。最大2枚増やしても全閉しない時は、引寄せ当て金（P2参照）を戸先方向に移動させる。

引き戸がはね返る・・・マグネットブラケットを戸先方向へ移動させ、再度B区域調整を行う。  
又は振れ止めローラーの寄せ位置を調整する。

#### ○B寸法90mmの時

引き戸が全閉しない・・・マグネットブラケットを戸尻方向へ移動させ、再度B区域調整を行う。  
引き戸がはね返る・・・施工 [9] に戻り、上部引寄せ機構の引寄せライナー1枚を減らし、再度B区域調整を行う。最大2枚減らしてもはね返る時は、引寄せ当て金（P2参照）を戸尻方向に移動させる。  
又は振れ止めローラーの寄せ位置を調整する。

2) A区域およびB区域の調整後、閉鎖速度の計測を下記手順により行う。

- ① ドアコンの開口部床にスケールを置く。
- ② 全開状態から1mまで（又は途中の1m）の閉鎖速度をストップウォッチ（ストップウォッチ機能付腕時計または秒針付の腕時計でも可）で計測し記録を取る。  
(開口巾で1m取れない場合は50cmで行い、設定閉鎖速度は〇秒／mに換算する事。)
- ③ 手順②を3回計測し平均を出す。
- ④ 自主検査報告書の閉鎖速度欄にチェックを入れる。

## 確認 1

- 1) 引き戸の開放が手動でスムーズにできるか。
- 2) 引き戸全閉時、引寄せられているか。(三法枠戸当たりと扉のチリは2mmが標準)

以上

## 〈参考〉

片引き戸現場施工に際して、必要な工具類はつぎのとおりです。

### □□ 必要工具類一覧 □□

工具名・規格	
片引き戸現場施工	
(+)ドライバー	2番
スパナ (M5)	S8
スパナ (M6)	S10
スパナ (M8)	S13
調整用治具	梱包部品

注) 穴明け、ねじ切り、溶接および電気配線等に用いる工具類は除きます。

(株) 豊和仕様

取付説明書 (引分け戸現場施工用)

品名	ドアコン遮煙引き戸 駆動部 ドアコンシステム NK1型
----	--------------------------------

常時閉鎖タイプ

◎ 株式會社 豊和  
技術部

(株) 豊和仕様

## ドアコンシステムNK1型 取付説明書

### 引分け戸 現場施工用

この説明書は、ドアコンシステムNK1型（常時閉鎖タイプ）の  
引分け戸の現場での施工（取付け）を説明するものです。  
よくお読みになりご理解されたうえで、正しく施工してください。

#### この説明書についての注意事項

- ◎ 説明文中、右引き戸・左引き戸と記載していますが、  
点検口カバー側から見て、下記の通り定めています。  
    引き戸が右方向へ開く —— 右引き戸  
    左方向へ開く —— 左引き戸

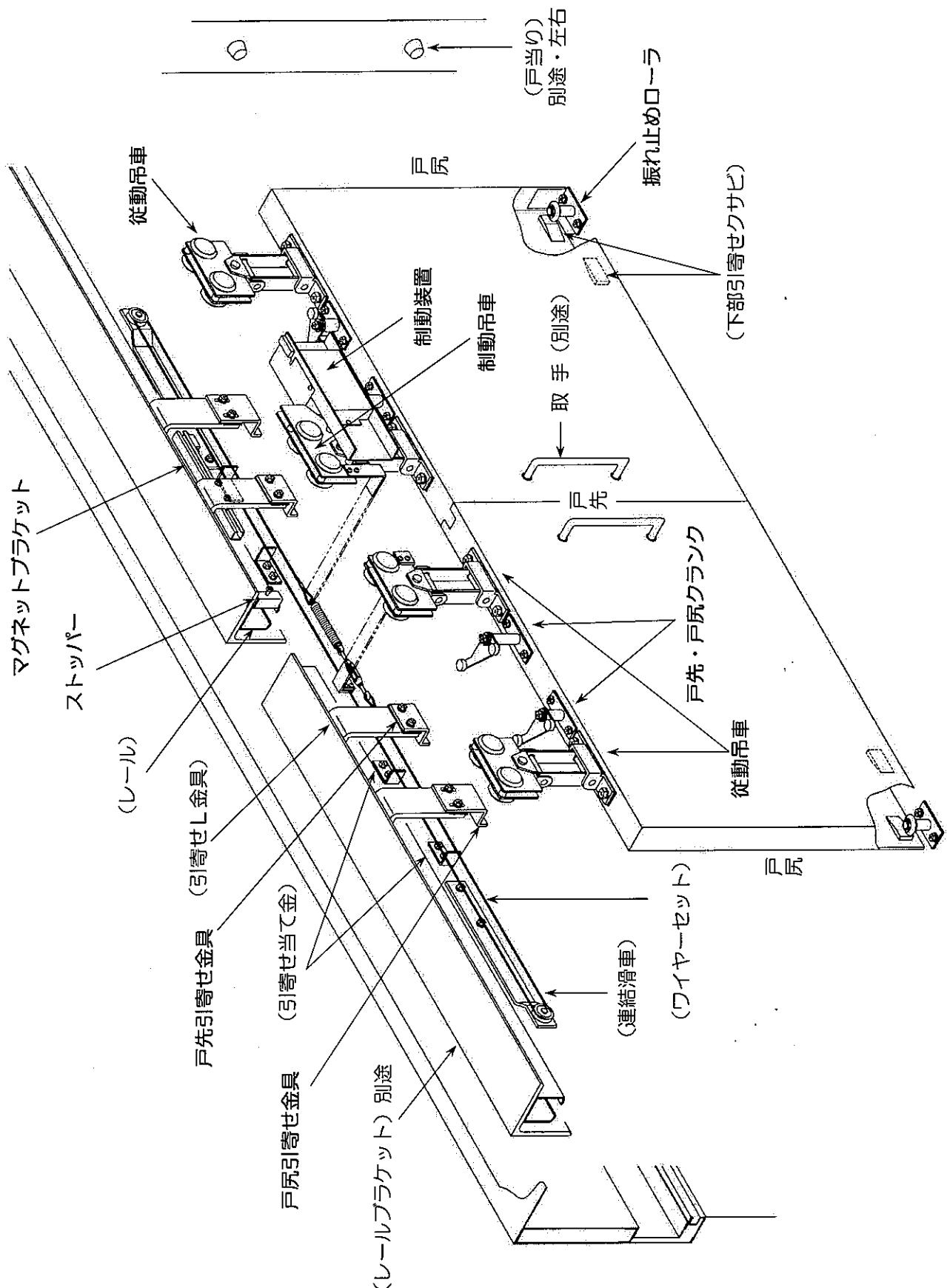
なお、扉吊込み前の作業はつぎのとおりです。

- 1) 3方枠の取付けおよびゴムの取付け  
(3方枠気密ゴムおよび戸尻たて枠の戸当りゴム)
- 2) ゴムポケットおよび戸尻等の吊込み後、仕上げ塗装不可部分の  
先行仕上げ塗装実施（別途工事：客先に依頼のこと）
- 3) 連結滑車ワイヤー張力の確認

現場施工完成略図

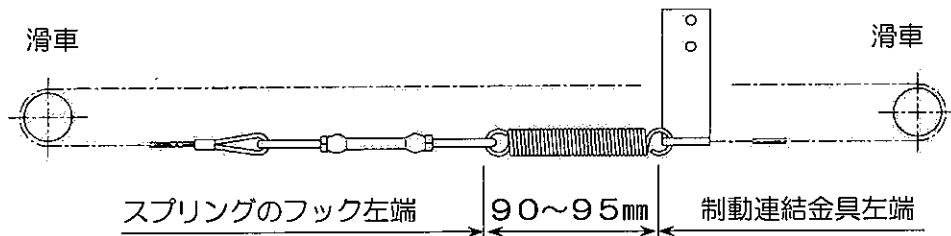
(引分け戸用)

○部品名で( )内は工場施工済み品を示す。



## 確認 1 連結滑車ワイヤーの張力

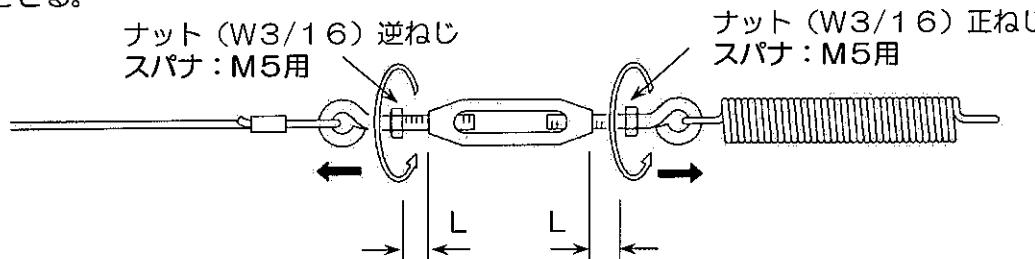
- 1) ターンバックル部分を連結滑車間中心に移動させ、制動連結金具の左端部とスプリングフック左端部寸法を測定する。寸法が90~95mmであれば適切な張り力です。



万一、不適切な張り力の場合、ターンバックル中心部を回しワイヤー張り力を調整する。

### ● 調整方法

- ① ナット(2ヶ)を 方向に回しゆるめ、さらに回して  $L = 10\text{mm}$ 以上 方向へ移動させる。



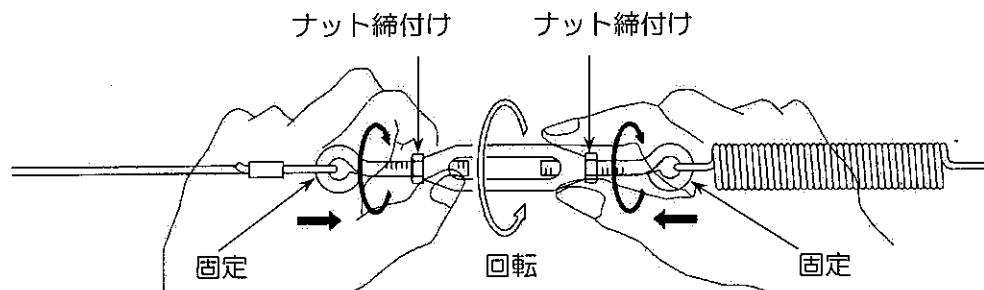
- ② 両手でターンバックルをつかみ両端部のねじ部が回転しないようにし、

- a) 張り力小(寸法90mmより小さい)の場合：

中心部のみ 方向へ回し、両端部を 方向へ縮ませワイヤーを張らせる。

- b) 張り力大(寸法95mmより大きい)の場合：

中心部を a) の逆方向へ回し、両端部を伸ばしワイヤーをゆるめる。

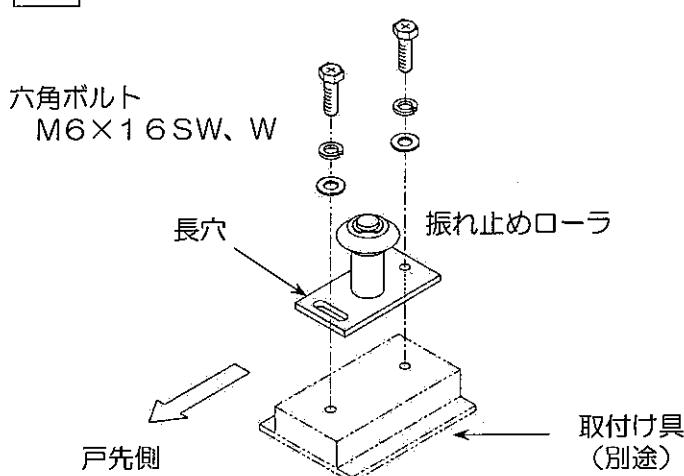


- ③ 所定の張りを確認したのち、両ナットを 方向に回し確実にロックさせる。  
(中心部スパナで固定)

**注**○調整時、ワイヤーをねじらないようにしてください。

## 施 工

### 1 振れ止めローラの取付け

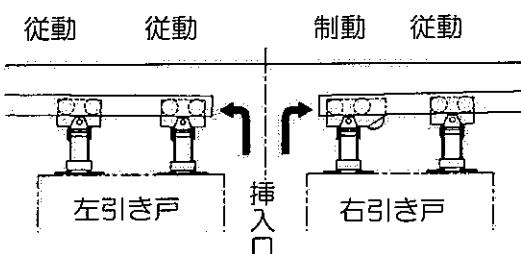
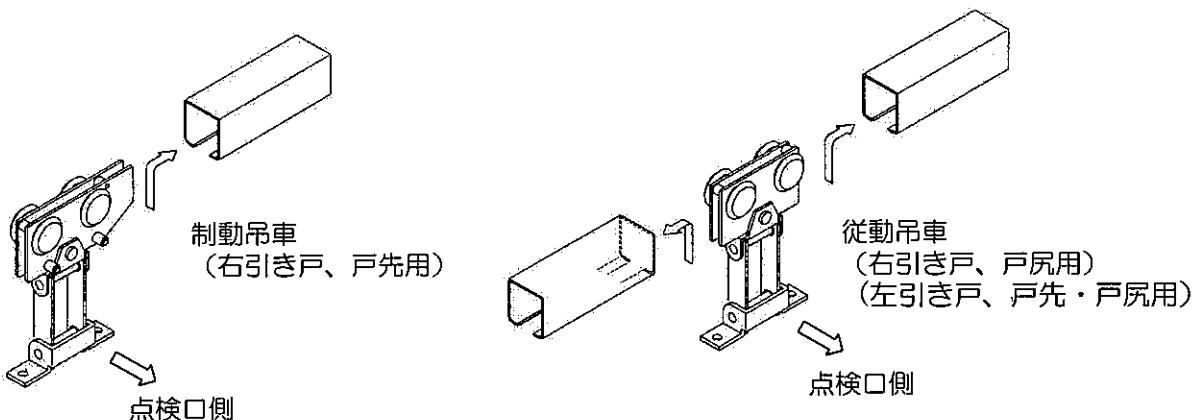


- 1) 振れ止めローラを床面の別途取付け具に固定する。長穴を戸先側にする。

**注**

- 取付け関係位置は長穴の中心で固定してください。(別途設計図等に合わせてください。)
- 左右に各1ヶ取付けてください。

### 2 吊車の插入 **插入方向 及び、挿入順厳守**



- 1) 右引き戸に従動吊車・制動吊車各1ヶを同順にてレールの → より挿入。

- 2) ストップバーを挿入口に取付ける。

- 3) 左引き戸に従動吊車2ヶをレールの → より挿入。

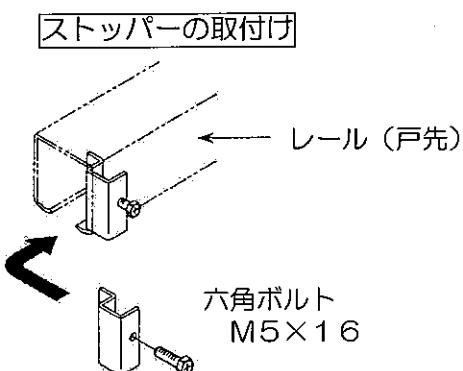
- 4) ストップバーを挿入口に取付る。

**注**

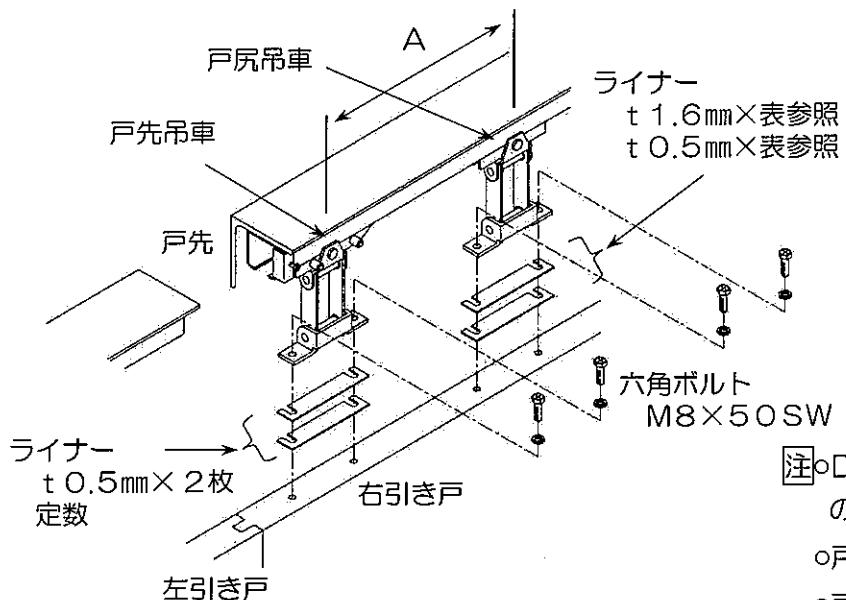
- 手順1) 及び3) の時、レールに勾配がついているため、各吊車を落下させないようにしてください。

- 各吊車に挿入方向、挿入順があります。

- 制動吊車には歯車がついていますので、指つめ等、気を付けてください。



### 3 制動・従動吊車の取付け および、引き戸の吊り下げ



- 1) 右引き戸・戸尻側の吊車にライナーを下表の枚数差込み、吊り下げる。
- 2) 右引き戸・戸先側の吊車に  $0.5\text{mm} \times 2\text{枚}$  (定数) 差込み、吊り下げる。
- 3) 左引き戸も、右引き戸と同順にて吊り下げる。

**注** DW寸法 又は、A寸法により戸尻吊車のライナー枚数は決まります。  
 ○戸先吊車毎、 $0.5 \times 4$  枚付属しています。  
 ○戸尻吊車毎、 $1.6 \times 7$  枚 +  $0.5 \times 2$  枚付属しています。

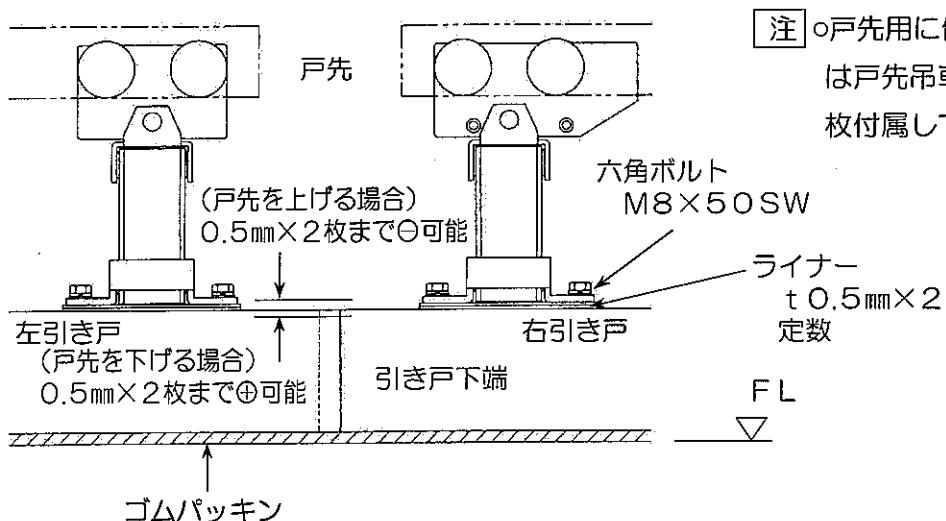
《引き戸・戸尻吊車のライナー枚数》

単位：mm

DW寸法	A寸法	戸尻戸車ライナー	DW寸法	A寸法	戸車(戸尻)ライナー
$640 \leq DW < 655$	305	$1.6 \times 4\text{枚} + 0.5 \times 0\text{枚}$	$775 \leq DW < 810$	455	$1.6 \times 5\text{枚} + 0.5 \times 2\text{枚}$
$655 \leq DW < 685$	335	$1.6 \times 4\text{枚} + 0.5 \times 1\text{枚}$	$810 \leq DW < 840$	490	$1.6 \times 6\text{枚} + 0.5 \times 0\text{枚}$
$685 \leq DW < 720$	365	$1.6 \times 4\text{枚} + 0.5 \times 2\text{枚}$	$840 \leq DW < 870$	520	$1.6 \times 6\text{枚} + 0.5 \times 1\text{枚}$
$720 \leq DW < 745$	400	$1.6 \times 5\text{枚} + 0.5 \times 0\text{枚}$	$870 \leq DW < 900$	550	$1.6 \times 6\text{枚} + 0.5 \times 2\text{枚}$
$745 \leq DW < 775$	425	$1.6 \times 5\text{枚} + 0.5 \times 1\text{枚}$	$900 \leq DW \leq 930$	580	$1.6 \times 7\text{枚} + 0.5 \times 0\text{枚}$

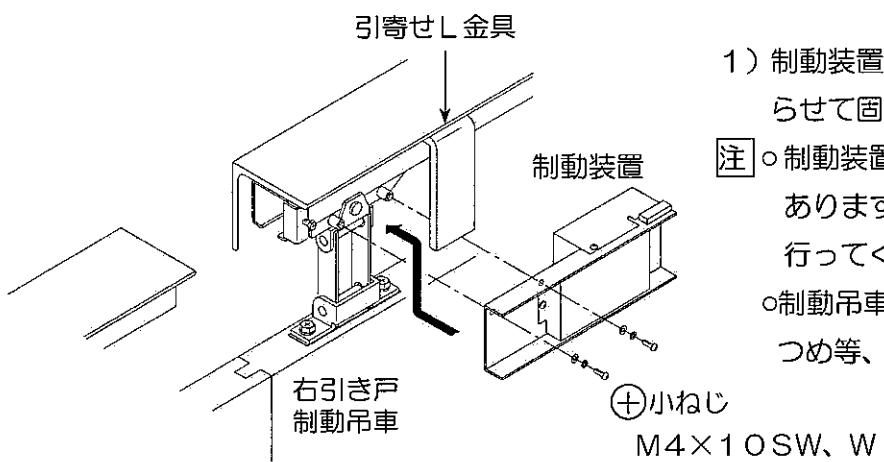
### 4 引き戸・建付けの調整

- 1) 各戸先吊車のライナー増減で調整する。
- 2) 各引き戸を上げる場合  
六角ボルト (M8) ゆるめ、ライナー ( $t\ 0.5\text{mm}$ ) を適度に取除く。(最大  $t\ 1.0\text{mm}$  調整可)
- 3) 各引き戸を下げる場合  
六角ボルト (M8) ゆるめ、ライナー ( $t\ 0.5\text{mm}$ ) を適度に加える。(最大  $t\ 1.0\text{mm}$  調整可)
- 4) 調整後は必ず六角ボルト (M8) を確実に締め付け固定する。



**注** ○戸先用に使用するライナーは戸先吊車毎、 $t\ 0.5\text{mm} \times 4$  枚付属しています。

## 5 制動装置の取付け



1) 制動装置を制動吊車に引寄せし金具をくぐらせて固定する。

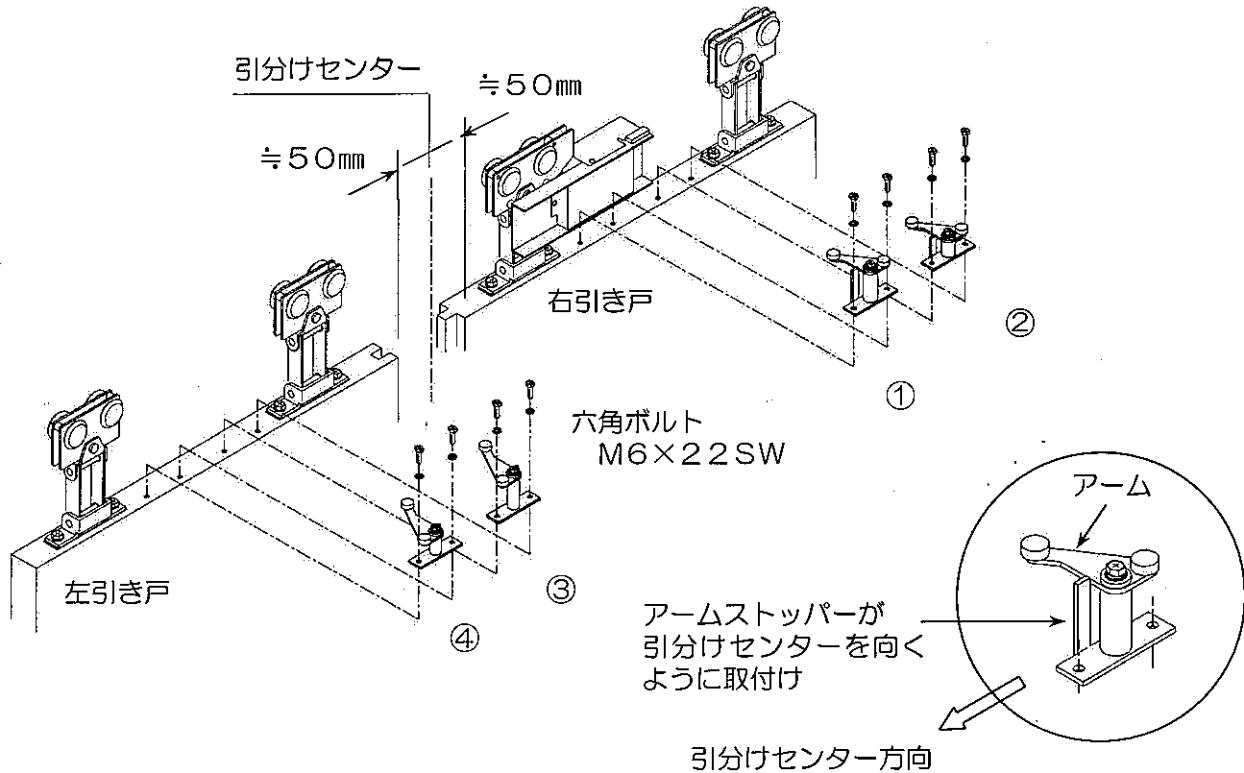
**注** ○ 制動装置 および、制動吊車には、歯車があります。噛み合わせを確認して取付けを行ってください。  
○ 制動吊車には歯車がついていますので、指つめ等、気を付けてください。

## 6 戸先・戸尻クランク (R・L) の取付け

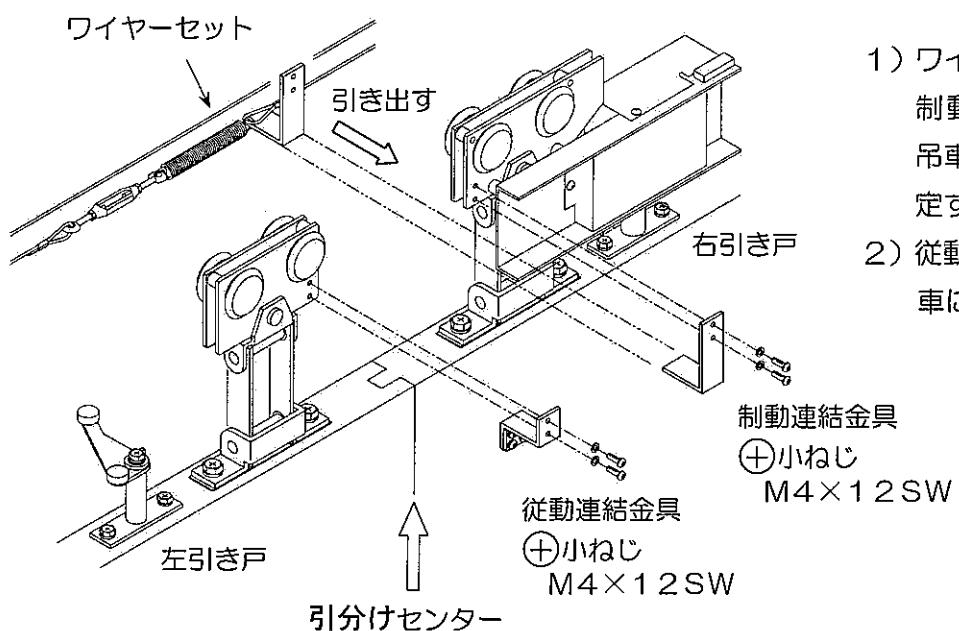
- 1) 引分けセンターより開方向へ ≈ 50mm 移動した位置で各引き戸を固定する。
- 2) 各引き戸に戸先クランク (R・L)、戸尻クランク (R・L) を固定する。

**注** ○ 4種類のクランクを付属しています。

- ① 戸先クランク (R) . . . 右引き戸・戸先用
- ② 戸尻クランク (R) . . . // . 戸尻用
- ③ 戸先クランク (L) . . . 左引き戸・戸先用
- ④ 戸尻クランク (L) . . . // . 戸尻用

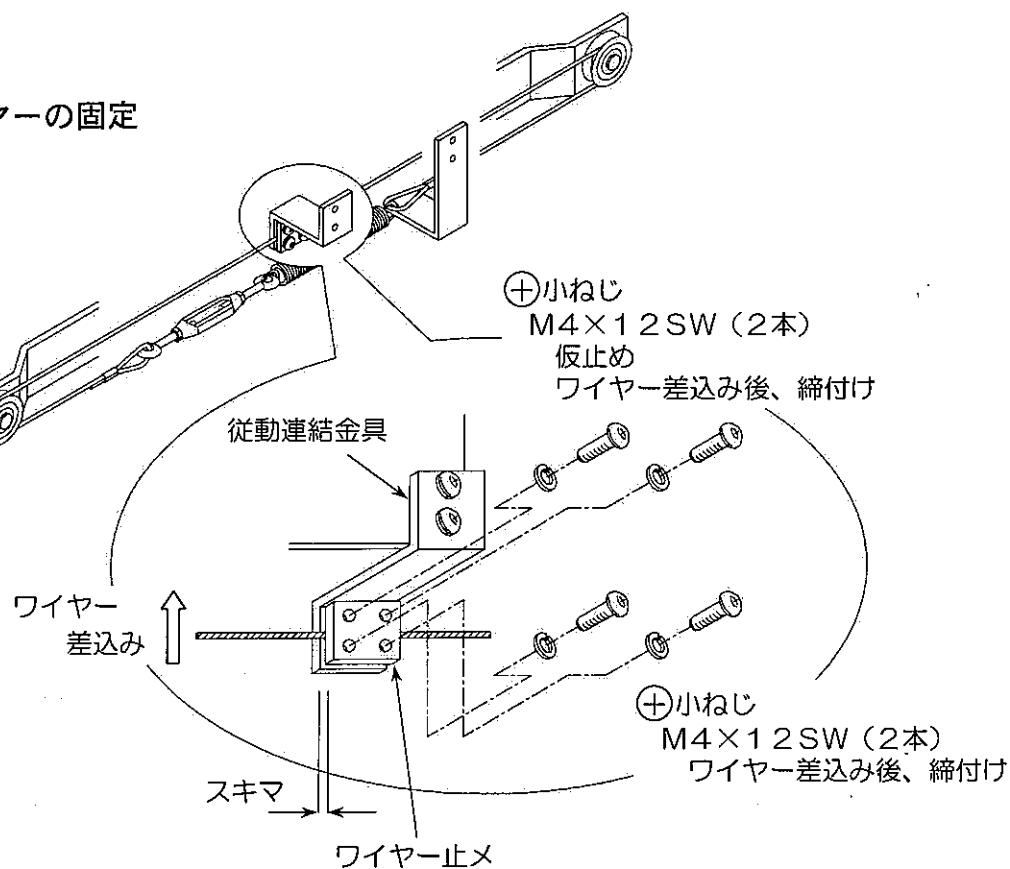


## 7 制動・従動連結金具の取付け



- 1) ワイヤーセットに付属している制動連結金具を右引き戸戸先吊車手前まで適量引き出し、固定する。
- 2) 従動連結金具を左引き戸戸先吊車に固定する。

## 8 ワイヤーの固定



- 1) 従動連結金具下端のワイヤー止メ取付ねじ（+）小ねじM4×12 SW (4本) の内、上部2本を仮止めし、従動連結金具とワイヤー止メとの間にワイヤーがはまり込むスキマを作り、ワイヤーを差し込む。

2) 上下、各2本の（+）小ねじを締め付けてワイヤーを固定する。

注○左・右引き戸の合わせは、引分けセンターの位置（全閉）でワイヤーを固定してください。

## 9 戸先・戸尻引寄せ金具の取付け

1) 戸先・戸尻引寄せ金具と引寄せL金具(4ヶ)の間に引寄せライナー(t 1.0mm×2枚)を差込み、固定する。

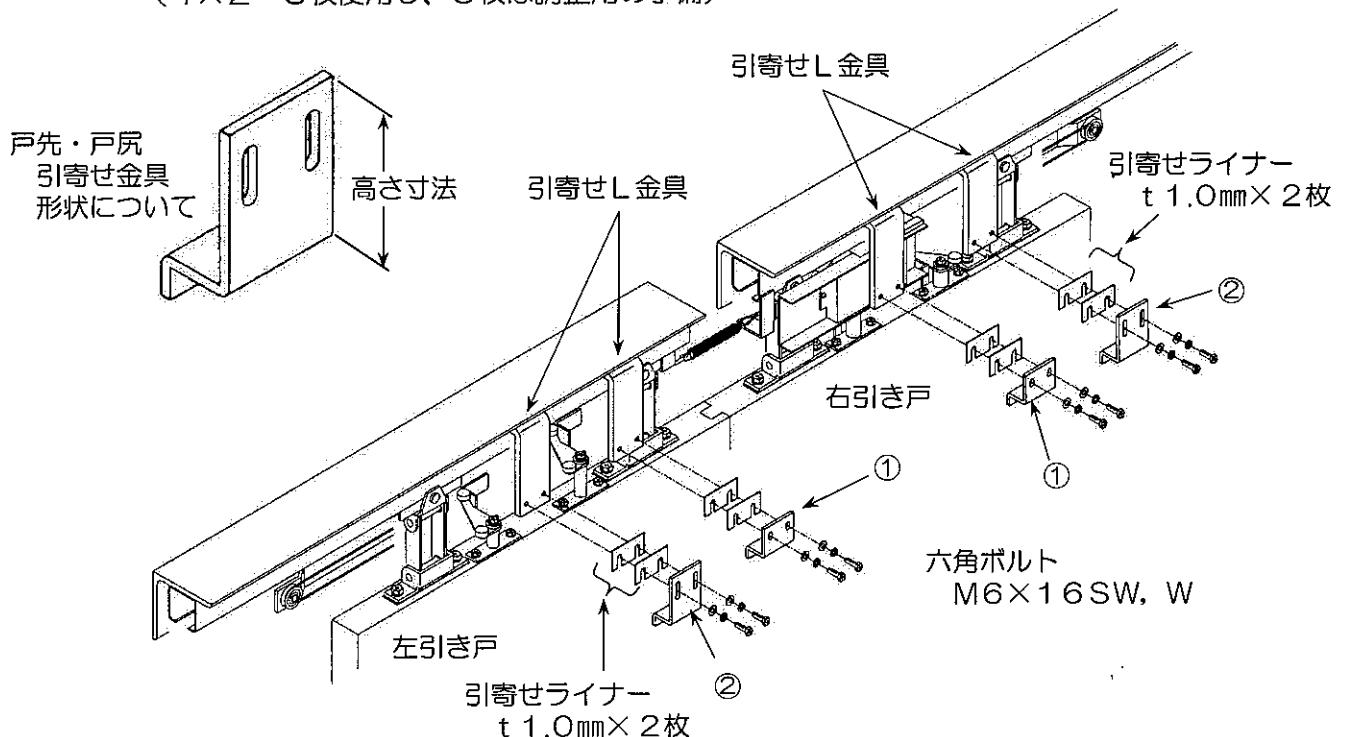
**注**○2種類の引寄せ金具を付属しています。

①戸先引寄せ金具・・・引き戸・戸先用(高さ寸法=短い)

②戸尻引寄せ金具・・・〃・戸尻用(高さ寸法=長い)

○引寄せライナーは、引寄せ金具毎、4枚付属しています。(合計16枚)

(4×2=8枚使用し、8枚は調整用の予備)

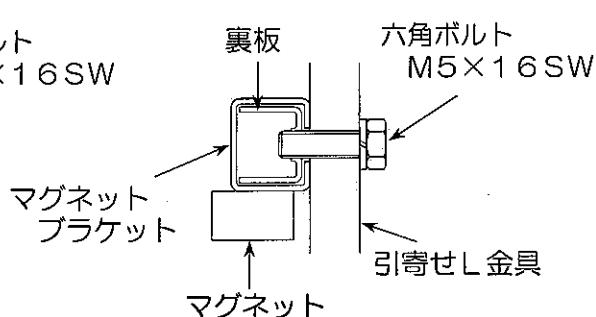
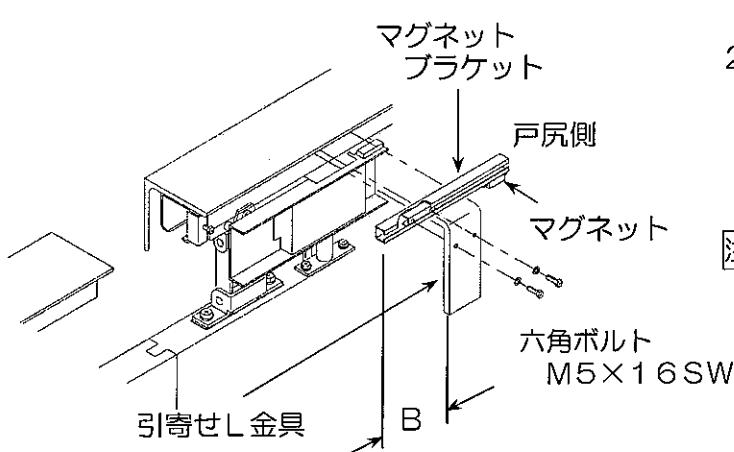


## 10 マグネットブラケットの取付け

1) マグネットブラケットに組込み済の六角ボルトを取り外す。

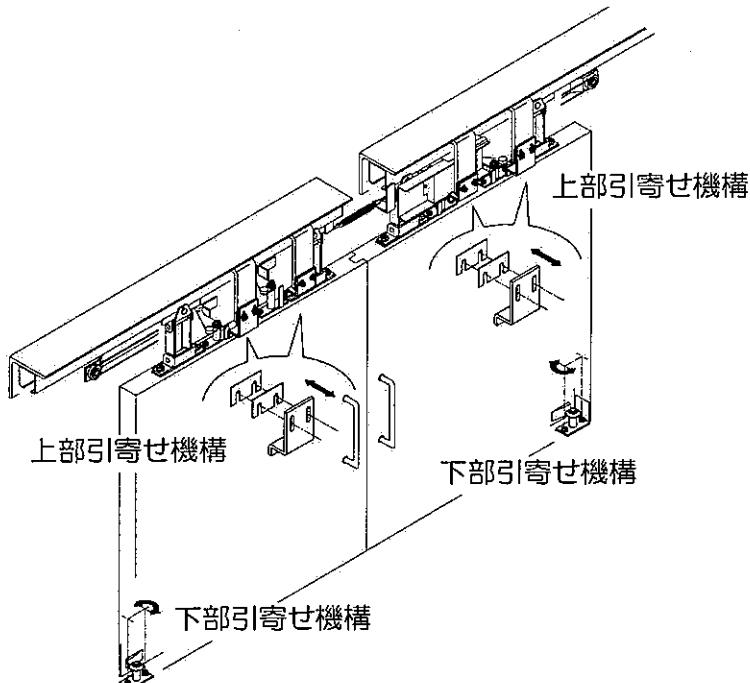
2) マグネットブラケットを引寄せL金具と裏板でマグネットが戸尻側になるよう固定する。  
(B寸法=30mmに固定する。)

**注**○レールと平行に取付けしてください。



## 1.1 引き戸引寄せの調整

- 1) 引き戸全閉時、引き戸が枠側に5mm寄せられ、枠とのスキマが2mm（パッキン除く）になるよう調整してください。
- 2) 上部引寄せ機構調整は戸先・戸尻引寄せ金具の六角ボルトをゆるめ引寄せライナー（t1.0mm）の増減で調整してください。
- 3) 下部引寄せ機構調整は振れ止めローラの六角ボルトをゆるめ➡方向で調整してください。



- 4) 調整後、六角ボルトは確実に締め付けてください。

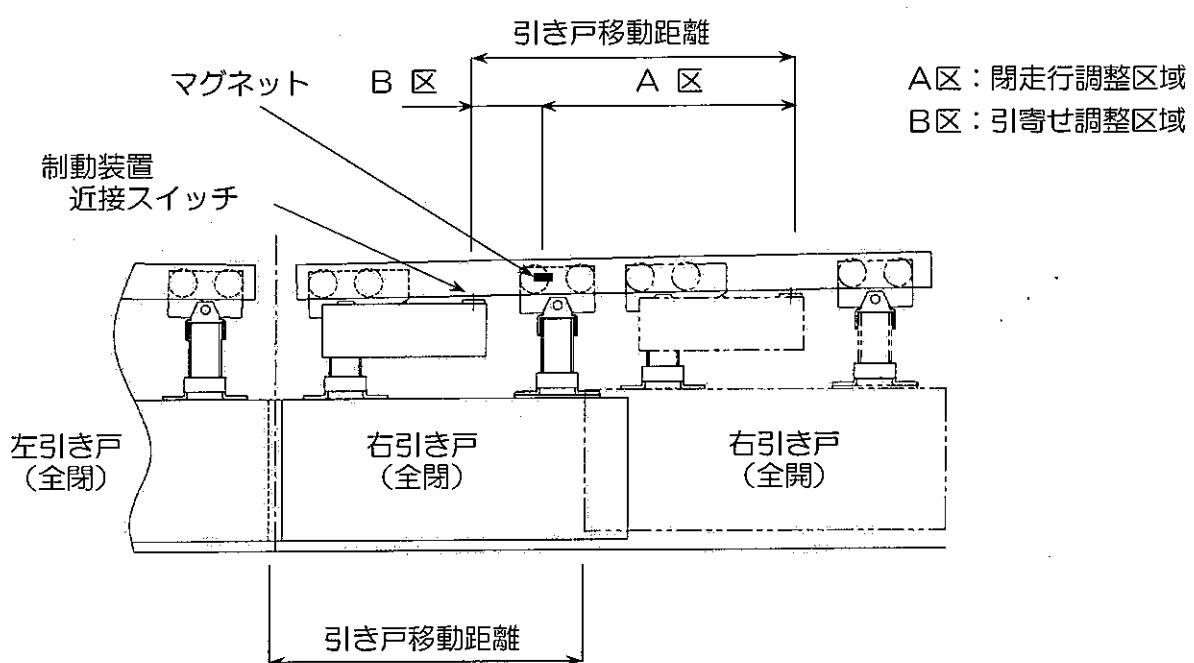
**注**○上部引寄せ機構調整は、1mm単位で前後2mm調整可能です。  
(引寄せ金具1ヶ毎、引寄せライナー t1mm×4枚付属しています。)

又、前後2mmにて対応できないときは、引寄せ当て金(P2参照)を左右に移動することにより若干の引寄せ量調整が可能です。

◎以上で引分け戸現場施工においての各部品の取付けは完了です。

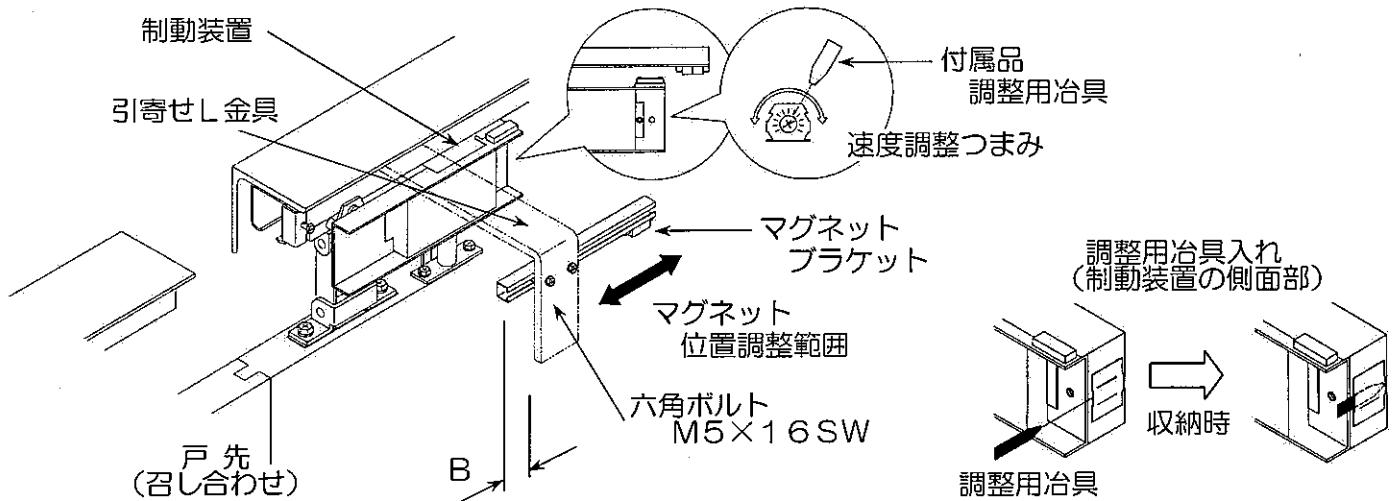
## 閉速度の制御説明

- 1) 引き戸閉走行時の動きは、つぎのとおりとなりなす。
- 2) 調整等に際して参考としてください。



## 閉速度調整方法

### A区域 および、B区域の調整



1) 全閉（閉鎖）状態になるようA区域およびB区域で調整を行う。

#### 【A区域における閉鎖速度の調整】

- ① A区域の走行速度は、12.5cm／秒（8秒／m）以下を目安とします。
- ② 全閉可能な範囲で、最も遅い速度になるよう調整して下さい。

○調整は制動装置についている速度調整つまみを、調整用治具で回転させる。

左方向回転・・・速くなる

右方向回転・・・遅くなる

○調整用治具は、制動装置の側面部にあるシールのスキマに収納して下さい。

#### 【B区域における閉鎖力の調整】

- ① B区域は上図B寸法30mmを目安とします。（0mm～90mmまで調整可能）

○調整は六角ボルトM5×16 SW（2本）をゆるめ、マグネットブラケットを左右に移動させる。

調整後、六角ボルトは確実に締め付ける。

戸先方向移動・・・閉鎖力が弱くなる（引き戸がはね返るときに移動する方向）

戸尻方向移動・・・閉鎖力が強くなる（引き戸が全閉しないときに移動する方向）

#### ② B区域における閉鎖力の調整例

○B寸法0mmの時

引き戸が全閉しない・・・施工 [1] に戻り、上部引寄せ機構の引寄せライナー1枚を増やし、再度B区域調整を行う。最大2枚増やしても全閉しない時は、引寄せ当て金（P2参照）を戸先方向に移動させる。

引き戸がはね返る・・・マグネットブラケットを戸先方向へ移動させ、再度B区域調整を行う。  
又は振れ止めローラーの寄せ位置を調整する。

○B寸法90mmの時

引き戸が全閉しない・・・マグネットブラケットを戸尻方向へ移動させ、再度B区域調整を行う。  
引き戸がはね返る・・・施工 [1] に戻り、上部引寄せ機構の引寄せライナー1枚を減らし、再度B区域調整を行う。最大2枚減らしてもはね返る時は、引寄せ当て金（P2参照）を戸尻方向に移動させる。  
又は振れ止めローラーの寄せ位置を調整する。

2) A区域およびB区域の調整後、閉鎖速度の計測を下記手順により行う。

①ドアコンの開口部床にスケールを置く。

②全開状態から1mまで（又は途中の1m）の閉鎖速度をストップウォッチ（ストップウォッチ機能付腕時計または秒針付の腕時計でも可）で計測し記録を取る。

（開口巾で1m取れない場合は50cmで行い、設定閉鎖速度は〇秒／mに換算する事。）

③手順②を3回計測し平均を出す。

④自主検査報告書の閉鎖速度欄にチェックを入れる。

## 確 認 2

- 1) 引き戸の開放が手動でスムーズにできるか。
- 2) 引き戸全閉時、引寄せられているか。(三法枠戸当たりと扉のチリは2mmが標準)
- 3) K中心で左右引き戸が確実に閉じているか。

以 上

## 〈参 考〉

引分け戸 現場施工に際して、必要な工具類はつぎのとおりです。

### □□ 必要工具類一覧 □□

工具名・規格	
引分け戸 現場施工	
④ドライバー	2番
スパナ (M5)	S8
スパナ (M6)	S10
スパナ (M8)	S13
調整用治具	梱包部品

注)○穴明け、ねじ切り、溶接および電気配線等に用いる工具類は除きます。

(株) 豊和仕様

## 取付説明書 (片引き戸現場施工用)

品名	ドアコン遮煙引き戸 駆動部 ドアコンシステム NK1型
----	--------------------------------

隨時閉鎖タイプ

株式會社 豊和  
技術部

(株) 豊和仕様

## ドアコンシステムNK1型 取付説明書

### 片引き戸 現場施工用

この説明書は、ドアコンシステムNK1型（隨時閉鎖タイプ）の片引き戸（D t : 45）の現場での施工（取付け）を説明するものです。よくお読みになりご理解されたうえで、正しく施工してください。

#### この説明書についての注意事項

- ◎ 説明文中、右引き勝手・左引き勝手と記載していますが、点検口カバー側から見て下記の通り定めています。

引き戸が右方向へ開く	—	右引き勝手
左方向へ開く	—	左引き勝手
- ◎ 添付図は、右引き勝手用を点検口カバー側から見たものを基準にしています。  
左引き勝手用は添付図の勝手違いとなります。

なお、扉吊込み前の作業はつぎのとおりです。

- 1) 3方枠の取付けおよびゴムの取付け  
(3方枠気密ゴムおよび戸尻たて枠の戸当りゴム)
- 2) ゴムポケットおよび戸尻等の吊込み後、仕上げ塗装不可部分の先行仕上げ塗装実施（別途工事：客先に依頼のこと）

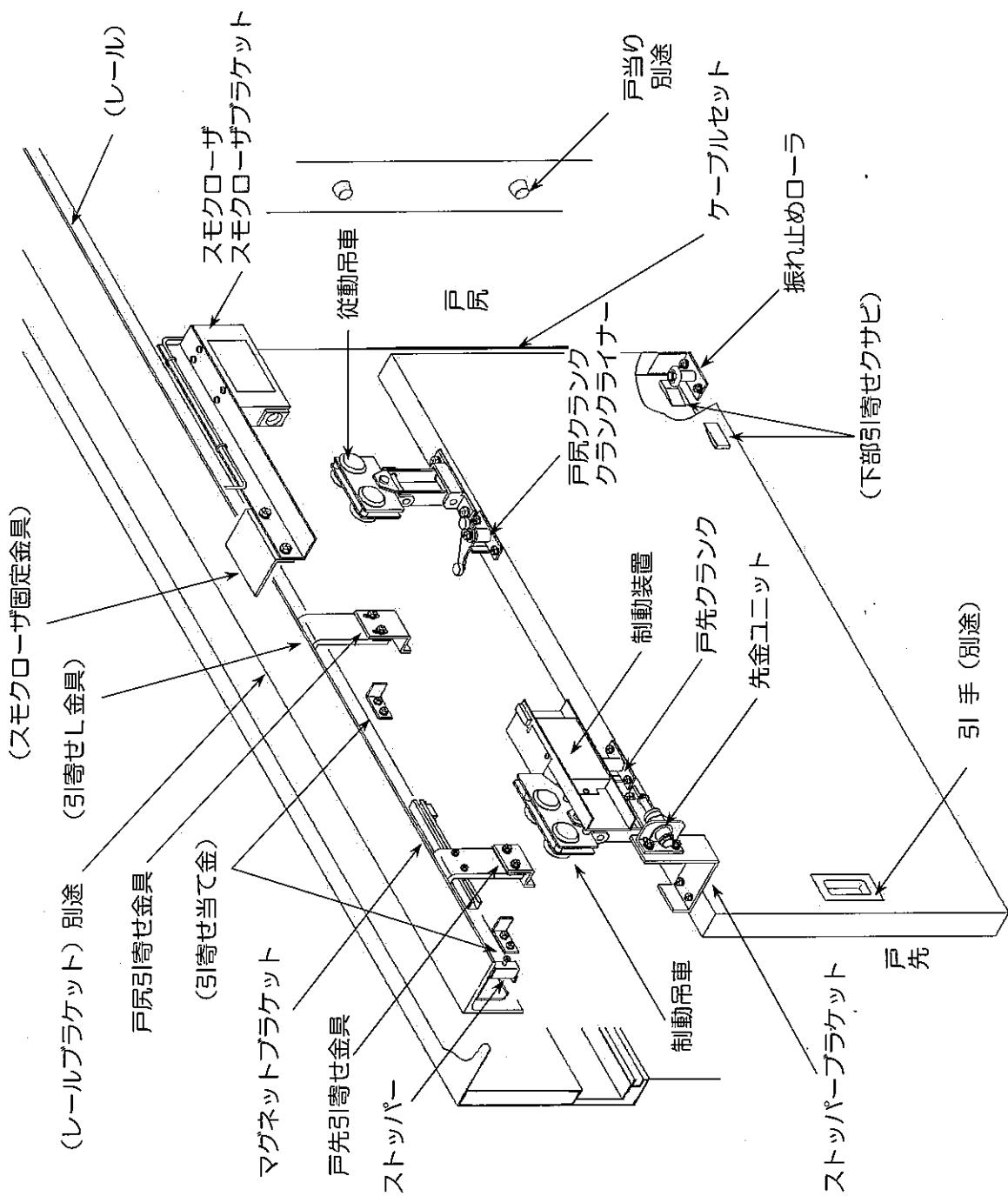
## 現場施工完成略図

(片引き戸用)

○部品名で( )内は工場施工済み品を示す。

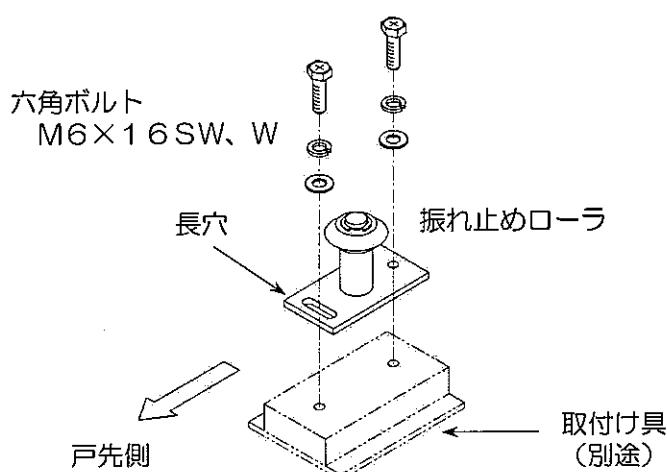
○本図は、右引き勝手を示す。

○左引き勝手は、本図の勝手違いとなる。



## 施 工

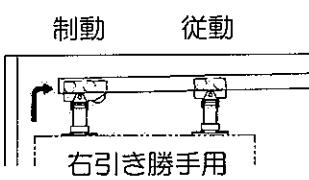
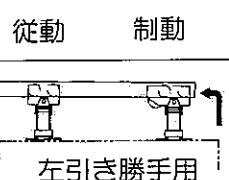
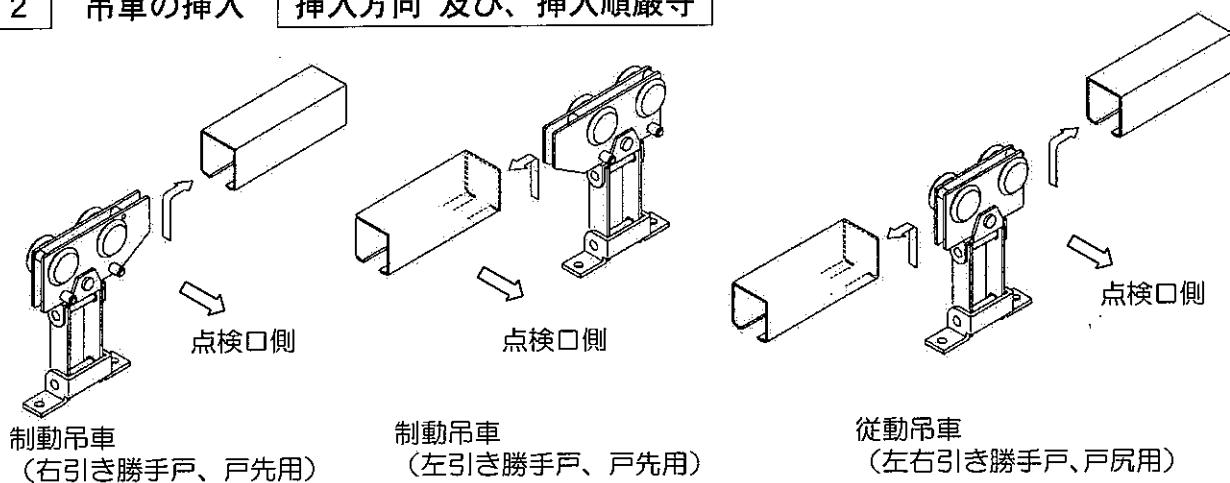
### 1 振れ止めローラの取付け



- 1) 振れ止めローラを床面の別途取付け具に固定する。長穴を戸先側にする。

**注** 取付け関係位置は長穴の中心で固定してください。(別途設計図等に合わせてください。)

### 2 吊車の挿入 挿入方向 及び、挿入順厳守



- 1) 従動吊車・制動吊車各1ヶを同順にてレールの → より挿入。

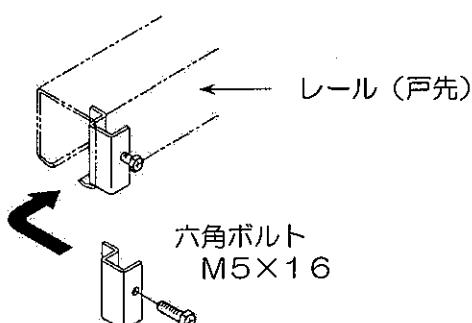
- 2) スtopperを挿入口に取付ける。

**注** 手順1) の時、レールに勾配がついているため、各吊車を落下させないようにしてください。

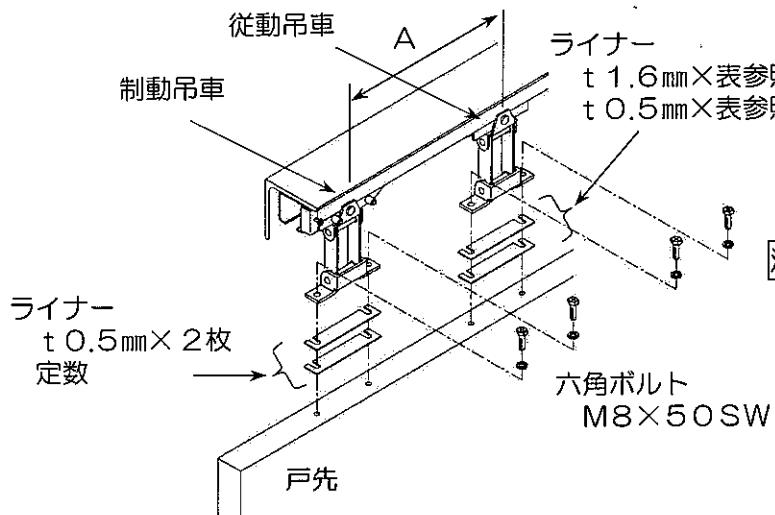
○各吊車に挿入方向、挿入順があります。

○制動吊車には歯車がついていますので、指づめ等、気を付けてください。

#### ストッパーの取付け



### 3 制動・従動吊車の取付け および、引き戸の吊り下げ



1) 従動吊車にライナーを下表の枚数差込み、吊り下げる。

2) 制動吊車に $0.5\text{mm} \times 2$ 枚(定数)差込み、吊り下げる。

- 注**
- DW寸法または、A寸法により戸尻吊車のライナー枚数は決まっています。
  - 制動吊車 每、 $0.5 \times 4$ 枚付属しています。
  - 従動吊車 每、 $1.6 \times 11$ 枚 +  $0.5 \times 2$ 枚付属しています。

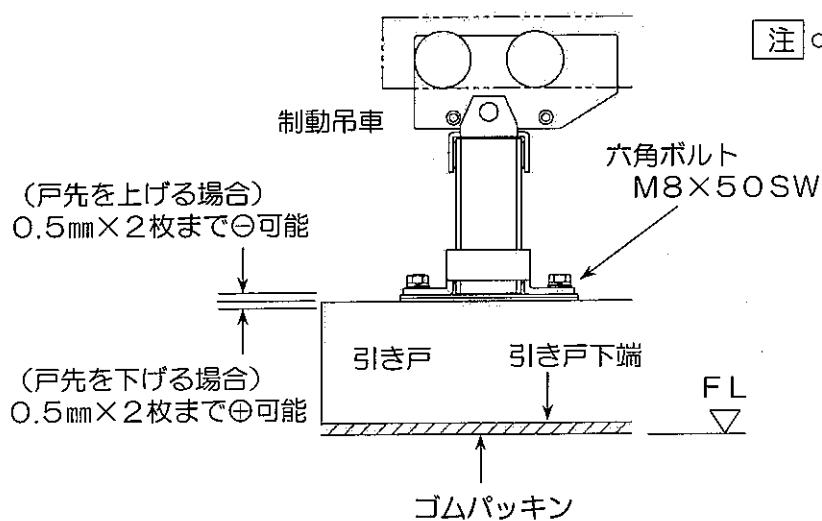
《引き戸・戸尻吊車のライナー枚数》

単位:mm

DW寸法	A寸法	戸尻吊車ライナー	DW寸法	A寸法	戸尻吊車ライナー
$850 \leq DW < 865$	480	$1.6 \times 5$ 枚 + $0.5 \times 0$ 枚	$1195 \leq DW < 1230$	845	$1.6 \times 8$ 枚 + $0.5 \times 1$ 枚
$865 \leq DW < 900$	515	$1.6 \times 5$ 枚 + $0.5 \times 1$ 枚	$1230 \leq DW < 1270$	880	$1.6 \times 8$ 枚 + $0.5 \times 2$ 枚
$900 \leq DW < 940$	550	$1.6 \times 5$ 枚 + $0.5 \times 2$ 枚	$1270 \leq DW < 1305$	920	$1.6 \times 9$ 枚 + $0.5 \times 0$ 枚
$940 \leq DW < 975$	590	$1.6 \times 6$ 枚 + $0.5 \times 0$ 枚	$1305 \leq DW < 1340$	955	$1.6 \times 9$ 枚 + $0.5 \times 1$ 枚
$975 \leq DW < 1010$	625	$1.6 \times 6$ 枚 + $0.5 \times 1$ 枚	$1340 \leq DW < 1380$	990	$1.6 \times 9$ 枚 + $0.5 \times 2$ 枚
$1010 \leq DW < 1050$	660	$1.6 \times 6$ 枚 + $0.5 \times 2$ 枚	$1380 \leq DW < 1415$	1030	$1.6 \times 10$ 枚 + $0.5 \times 0$ 枚
$1050 \leq DW < 1085$	700	$1.6 \times 7$ 枚 + $0.5 \times 0$ 枚	$1415 \leq DW < 1450$	1065	$1.6 \times 10$ 枚 + $0.5 \times 1$ 枚
$1085 \leq DW < 1120$	735	$1.6 \times 7$ 枚 + $0.5 \times 1$ 枚	$1450 \leq DW < 1490$	1100	$1.6 \times 10$ 枚 + $0.5 \times 2$ 枚
$1120 \leq DW < 1160$	770	$1.6 \times 7$ 枚 + $0.5 \times 2$ 枚	$1490 \leq DW < 1525$	1140	$1.6 \times 11$ 枚 + $0.5 \times 0$ 枚
$1160 \leq DW < 1195$	810	$1.6 \times 8$ 枚 + $0.5 \times 0$ 枚	$1525 \leq DW \leq 1550$	1175	$1.6 \times 11$ 枚 + $0.5 \times 1$ 枚

### 4 引き戸・建付けの調整

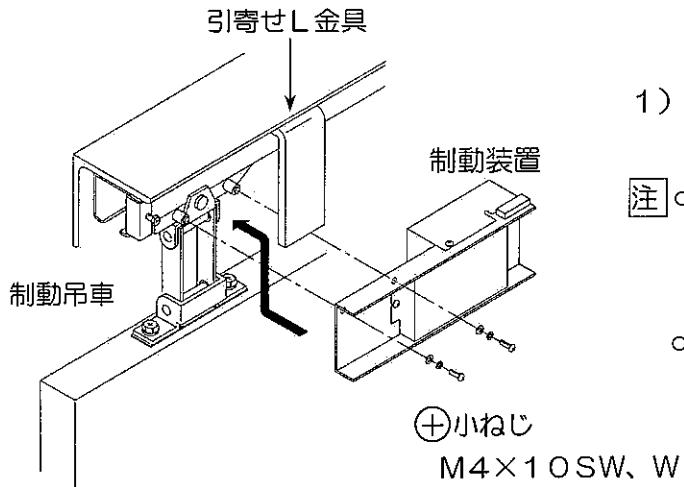
- 1) 制動吊車のライナー増減で調整する。
- 2) 引き戸を上げる場合  
六角ボルト(M8)ゆるめ、ライナー(0.5mm)を適度に取除く。(最大1.0mm調整可)
- 3) 引き戸を下げる場合  
六角ボルト(M8)ゆるめ、ライナー(0.5mm)を適度に加える。(最大1.0mm調整可)
- 4) 調整後は必ず六角ボルト(M8)を確実に締め付け固定する。



**注**

- 制動吊車に使用するライナーは  $t 0.5 \text{ mm} \times 4$ 枚付属しています。

## 5 制動装置の取付け



- 1) 制動装置を制動吊車に引寄せ L 金具をくぐらせて固定する。

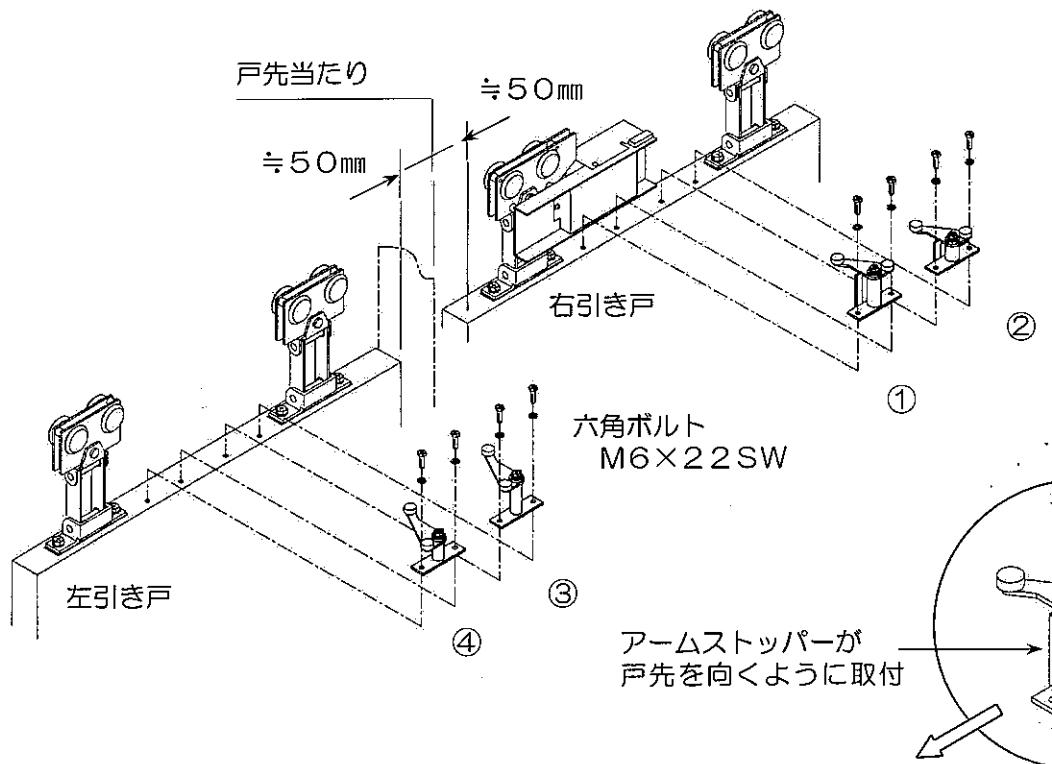
**注** ○制動装置 および、制動吊車には、歯車があります。噛み合わせを確認して取付けを行ってください。  
○制動吊車には歯車がついていますので、指つめ等、気を付けてください。

## 6 戸先・戸尻クランク (R・L) の取付け

- 1) 戸先当たりより開方向へ  $\approx 50\text{mm}$  移動した位置に、引き戸をくさび等で固定する。
- 2) 左引き勝手の引き戸は、戸先に戸先クランク (L)、戸尻に戸尻クランク (L) を固定する。
- 3) 右引き勝手の引き戸は、戸先に戸先クランク (R)、戸尻に戸尻クランク (R) を固定する。

**注** ○引き勝手により戸先・戸尻の2種類付属しています。

- |            |   |
|------------|---|
| 右引き勝手の時、付属 | ①戸先クランク (R) ……右引き戸・戸先用<br>②戸尻クランク (R) ……〃 ……戸尻用 |
| 左引き勝手の時、付属 | ③戸先クランク (L) ……左引き戸・戸先用<br>④戸尻クランク (L) ……〃 ……戸尻用 |



## 7 戸先・戸尻引寄せ金具の取付け

1) 戸先・戸尻引寄せ金具と引寄せL金具(2ヶ)の間に引寄せライナー(t 1.0mm×2枚)を差込み、固定する。

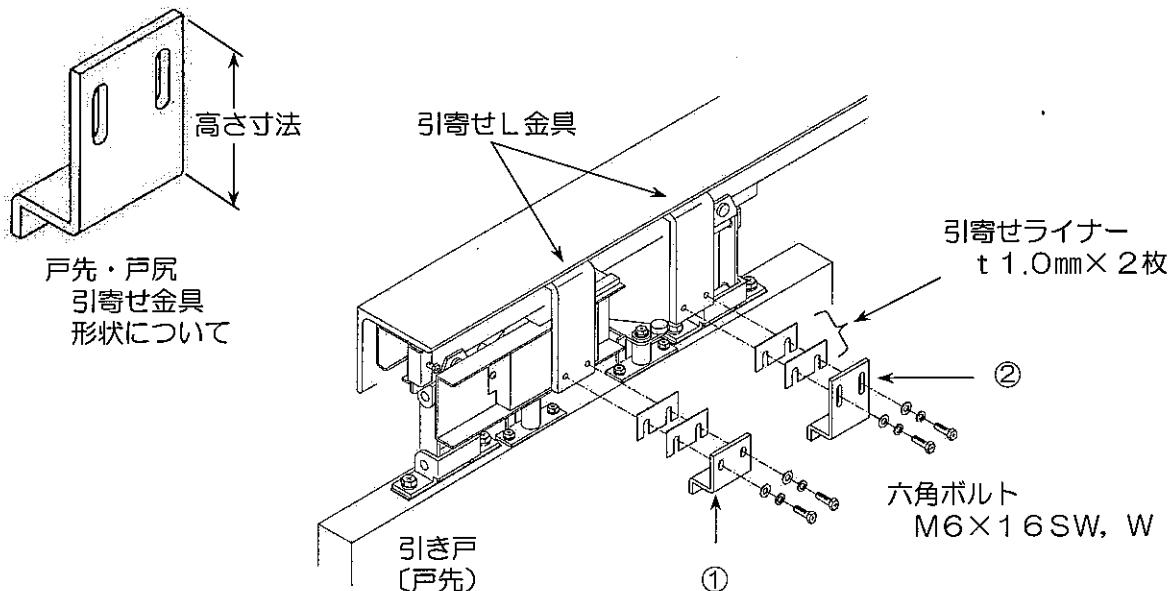
**注**○2種類の引寄せ金具を付属しています。

①戸先引寄せ金具・・・引き戸・戸先用(高さ寸法=短い)

②戸尻引寄せ金具・・・〃・戸尻用(高さ寸法=長い)

○引寄せライナーは、引寄せ金具毎、4枚付属しています。(合計8枚)

(2×2=4枚使用し、4枚は調整用の予備)



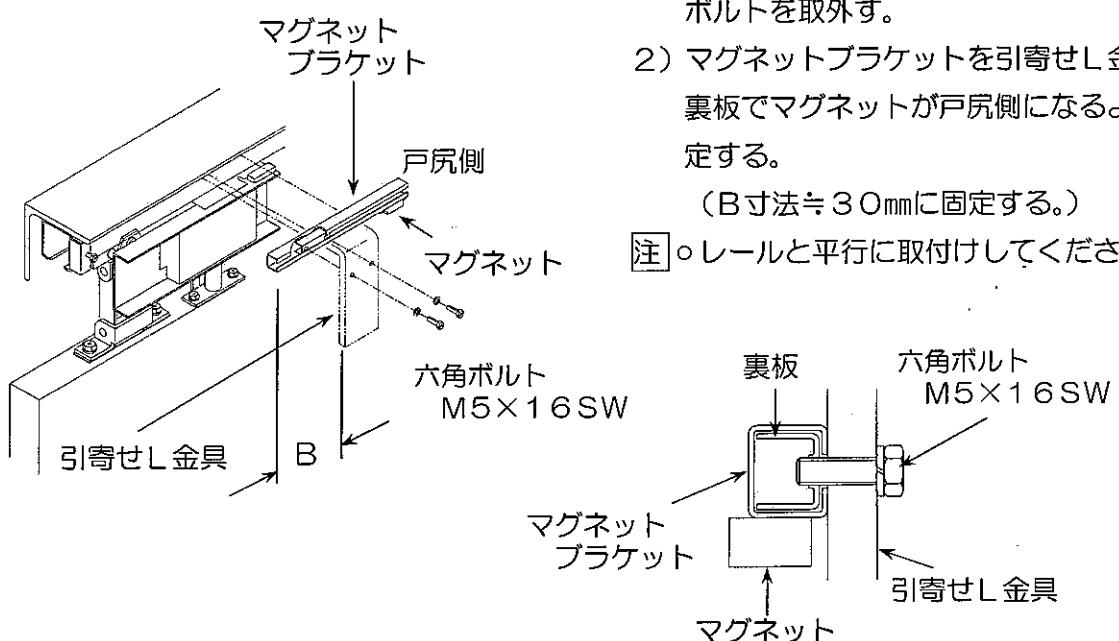
## 8 マグネットブラケットの取付け

1) マグネットブラケットに組込み済の六角ボルトを取り外す。

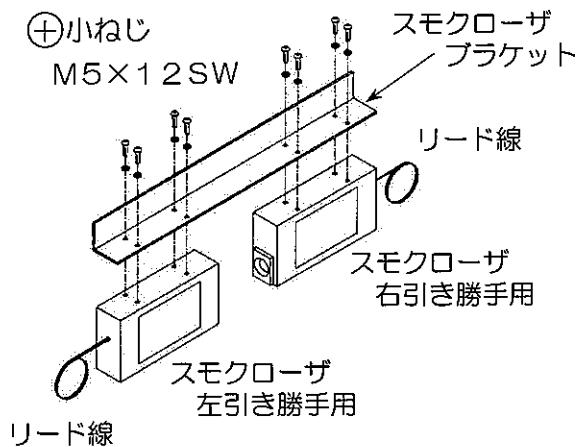
2) マグネットブラケットを引寄せL金具と裏板でマグネットが戸尻側になるよう固定する。

(B寸法=30mmに固定する。)

**注**○レールと平行に取付けしてください。



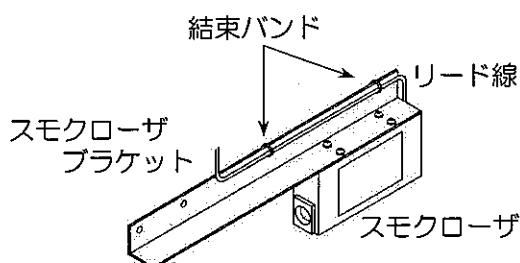
## 9 スモクローザ前組み



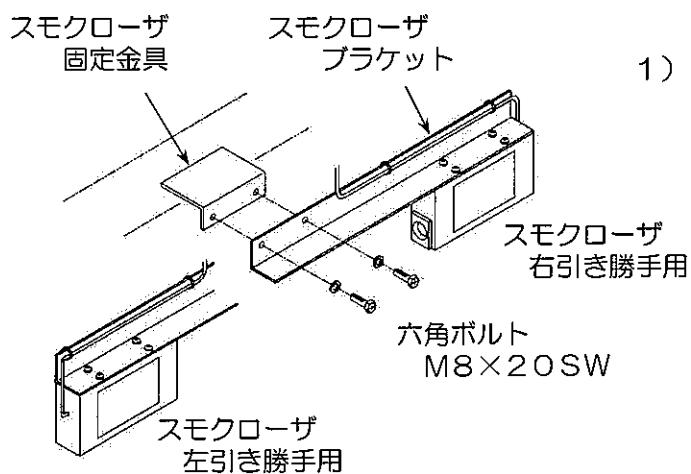
1) スモクローザとスモクローザブラケットを固定する。

2) スモクローザからのリード線を結束バンド(2本)で、スモクローザブラケットに固定する。

**注** ○リード線および結束バンドの結び目は、スモクローザブラケット手前側で行ってください。また、結束バンドの余りは切断してください。

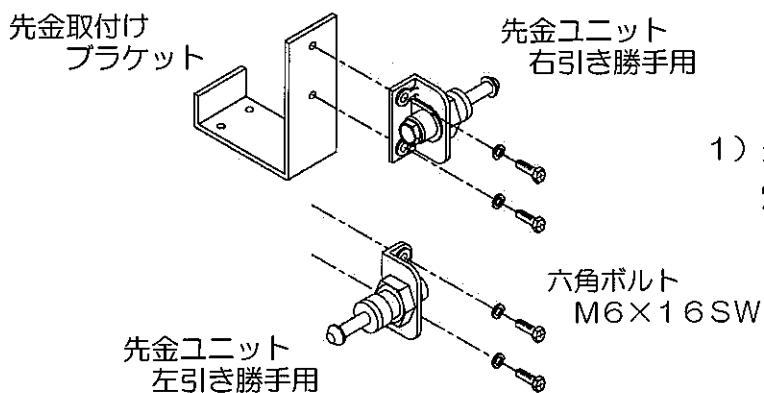


## 10 スモクローザの取付け



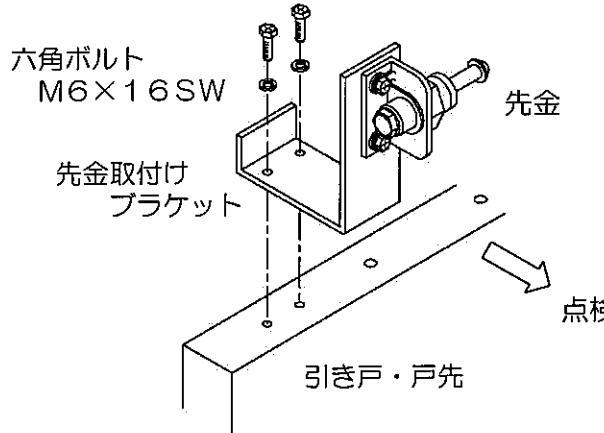
1) スモクローザ固定金具に [9] のスモクローザ前組み品を固定する。

## 11 先金と先金取付けブラケット前組み



1) 先金取付けブラケットと先金ユニットを固定する。

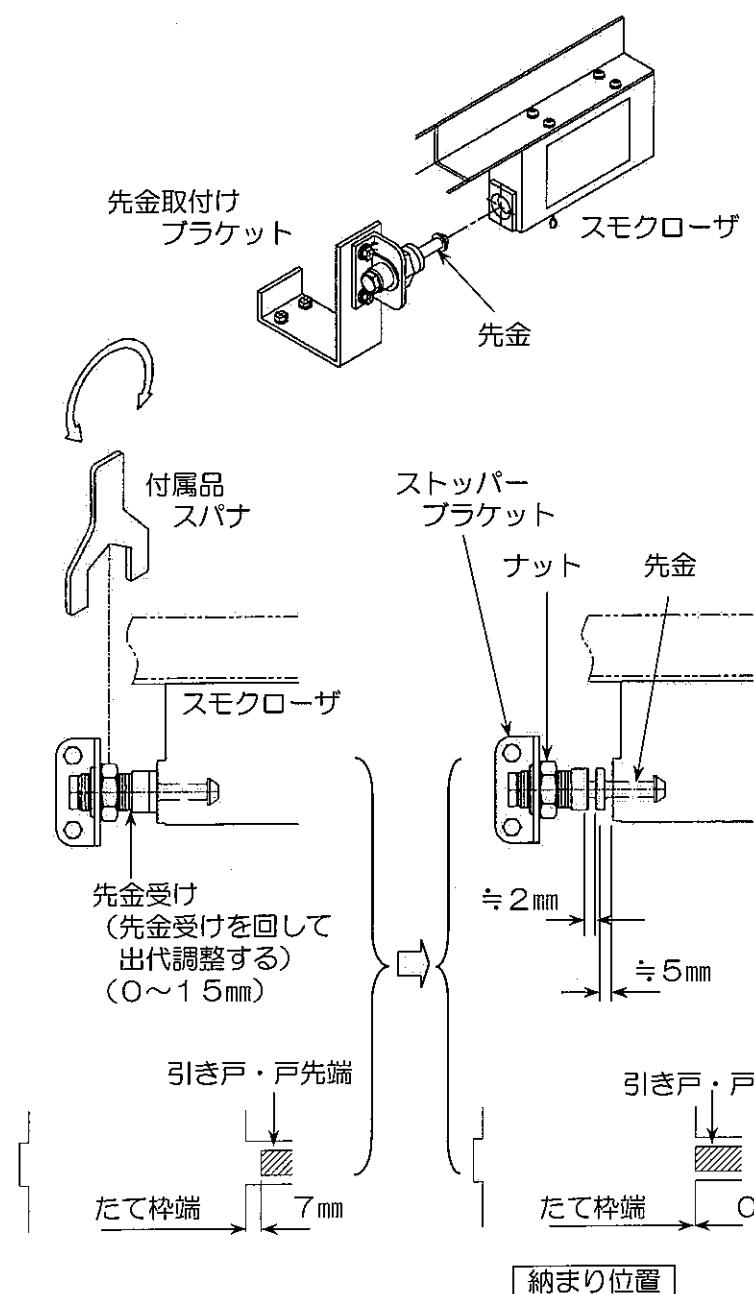
## 1 2 先金ストッパーの取付け



1) 引き戸の戸先に固定する。

**注**○先金が点検口側になるよう取付けてください。

## 1 3 先金とスマクローザの位置確認 及び 調整



### [確 認]

1) 引き戸全開直前位置の時、先金のセンターとスマクローザの先金受け口が合っているか確認する。

### [調 整]

1) 引き戸全開位置の時、戸先端がたて枠から7mm深くなるように先金受けにて調整する。

納まり位置は、7mm深くすることにより、扉の自重で戸先端とたて枠が面一の状態になります。

2) 調整後、付属品スパナでナットを固定する。

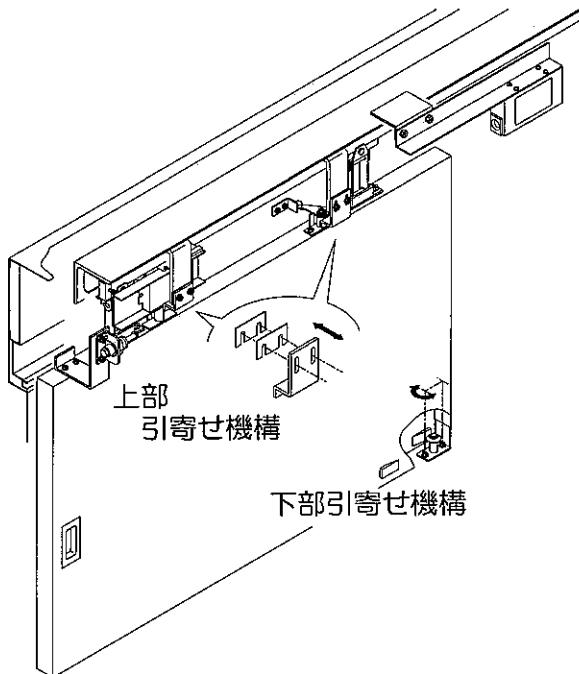
**注**○引き戸全開位置とは、先金をスマクローザに挿入した位置のことです。

○引き戸全開位置より扉の自重で戸先方向に扉が7mm移動します。

○先金をスマクローザに勢いよく挿入すると、反動で先金が保持されない恐れがあるので、ゆっくり挿入してください。

## 14 引き戸引寄せの調整

- 1) 引き戸全閉時、引き戸が枠側に5mm寄せられ、枠とのスキマが2mm（パッキン除く）になるよう調整してください。
- 2) 上部引寄せ機構調整は戸先・戸尻引寄せ金具の六角ボルトをゆるめ引寄せライナー（t1.0mm）の増減で調整してください。
- 3) 下部引寄せ機構調整は振れ止めローラの六角ボルトをゆるめ➡方向で調整してください。



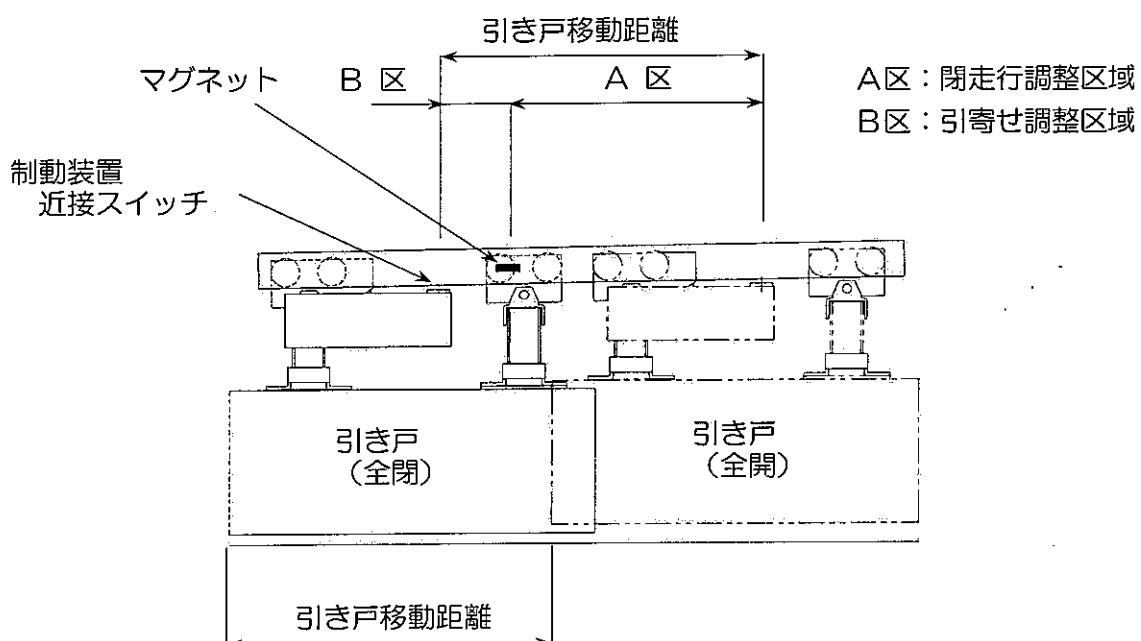
- 4) 調整後、六角ボルトは確実に締め付けてください。

**注**○上部引寄せ機構調整は、1mm単位で前後2mm調整可能です。  
(引寄せ金具1ヶ毎、引寄せライナー1mm×4枚付属しています。)  
又、前後2mmにて対応できないときは、引寄せ当て金(P2参照)を左右に移動することにより若干の引寄せ量調整が可能です。

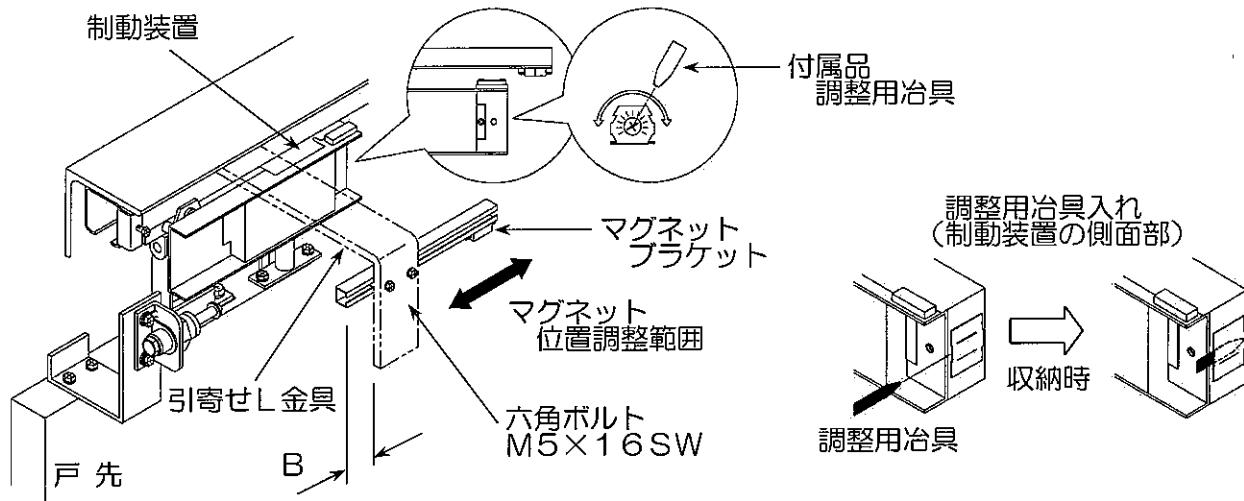
◎以上で片引き戸現場施工においての各部品の取付けは完了です。

## 閉速度の制御説明

- 1) 引き戸閉走行時の動きは、つぎのとおりとなりなす。
- 2) 調整等に際して参考としてください。



## 閉速度調整方法 A区域 および、B区域の調整



1) 全閉（閉鎖）状態になるようA区域およびB区域で調整を行う。

### 【A区域における閉鎖速度の調整】

- ① A区域の走行速度は、12.5cm／秒（8秒／m）以下を目安とします。
- ② 全閉可能な範囲で、最も遅い速度になるよう調整して下さい。

○調整は制動装置についている速度調整つまみを、調整用治具で回転させる。

左方向回転・・・速くなる

右方向回転・・・遅くなる

○調整用治具は、制動装置の側面部にあるシールのスキマに収納して下さい。

### 【B区域における閉鎖力の調整】

- ① B区域は上図B寸法30mmを目安とします。（0mm～90mmまで調整可能）

○調整は六角ボルトM5×16 SW（2本）をゆるめ、マグネットブラケットを左右に移動させる。

調整後、六角ボルトは確実に締め付ける。

戸先方向移動・・・閉鎖力が弱くなる（引き戸がはね返るときに移動する方向）

戸尻方向移動・・・閉鎖力が強くなる（引き戸が全閉しないときに移動する方向）

### ② B区域における閉鎖力の調整例

○B寸法0mmの時

引き戸が全閉しない・・・施工 **14** に戻り、上部引寄せ機構の引寄せライナー1枚を増やし、再度B区域調整を行う。最大2枚増やしても全閉しない時は、引寄せ当て金（P2参照）を戸先方向に移動させる。

引き戸がはね返る・・・マグネットブラケットを戸先方向へ移動させ、再度B区域調整を行う。  
又は振れ止めローラーの寄せ位置を調整する。

○B寸法90mmの時

引き戸が全閉しない・・・マグネットブラケットを戸尻方向へ移動させ、再度B区域調整を行う。

引き戸がはね返る・・・施工 **14** に戻り、上部引寄せ機構の引寄せライナー1枚を減らし、再度B区域調整を行う。最大2枚減らしてもはね返る時は、引寄せ当て金（P2参照）を戸尻方向に移動させる。

又は振れ止めローラーの寄せ位置を調整する。

2) A区域およびB区域の調整後、閉鎖速度の計測を下記手順により行う。

① ドアコンの開口部床にスケールを置く。

② 全開状態から1mまで（又は途中の1m）の閉鎖速度をストップウォッチ（ストップウォッチ機能付腕時計または秒針付の腕時計でも可）で計測し記録を取る。

（開口巾で1m取れない場合は50cmで行い、設定閉鎖速度は〇秒／mに換算する事。）

③ 手順②を3回計測し平均を出す。

④ 自主検査報告書の閉鎖速度欄にチェックを入れる。

## 確 認

- 1) 引き戸の開放が手動でスムーズにできるか。
- 2) 引き戸全開時、先金がスマクローザに確実にセットされるか。
- 3) スマクローザのセット解除すると先金ロックが外れ、引き戸が確実に全閉されるか。  
(手動閉鎖装置または、可能であればDC24V信号での作動でご確認ください。)
- 4) 引き戸全閉時、引寄せられているか。(三法枠戸当たりと扉のチリは2mmが標準)

### ◎引き戸復帰方法（引き戸強制閉ののち、全開に復帰させる。）

- 1) 引き戸強制閉の動きから8秒以上の経過を確認し、スマクローザへの信号電源を「切」にした  
のち引き戸を手動でゆっくり全開にする

以 上

### 〈参 考〉

片引き戸現場施工に際して、必要な工具類はつぎのとおりです。

#### □□ 必要工具類一覧 □□

工具名・規格	
片引き戸現場施工	
① ドライバー	2番
スパナ (M5)	S8
スパナ (M6)	S10
スパナ (M8)	S13
スパナ (M22)	梱包部品
調整用治具	梱包部品

注) 穴明け、ねじ切り、溶接および電気配線等に用いる工具類は除きます。

(株) 豊和仕様

## 取付説明書 (引分け戸現場施工用)

品名	ドアコン遮煙引き戸 駆動部 ドアコンシステム NK1型
----	--------------------------------

隨時閉鎖タイプ

○ 株式會社 豊和  
技術部

(株) 豊和仕様

## ドアコンシステムNK1型 取付説明書

### 引分け戸 現場施工用

この説明書は、ドアコンシステムNK1型（隋時閉鎖タイプ）の  
引分け戸の現場での施工（取付け）を説明するものです。  
よくお読みになりご理解されたうえで、正しく施工してください。

#### この説明書についての注意事項

- ◎ 説明文中、右引き戸・左引き戸と記載していますが、  
点検口カバー側から見て、下記の通り定めています。  
    引き戸が右方向へ開く —— 右引き戸  
    左方向へ開く —— 左引き戸

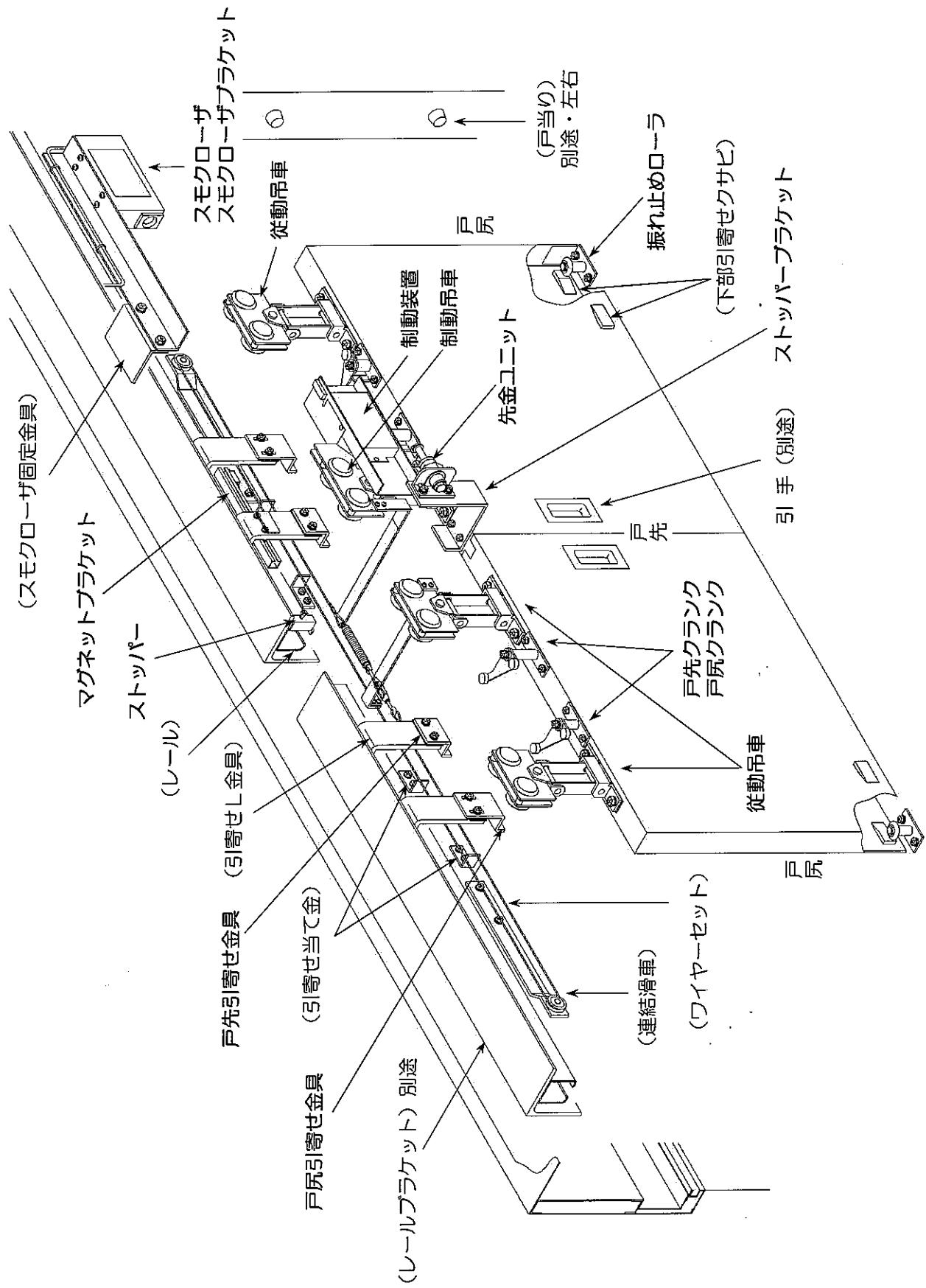
なお、扉吊込み前の作業はつぎのとおりです。

- 1) 3方枠の取付けおよびゴムの取付け  
(3方枠気密ゴムおよび戸尻たて枠の戸当たりゴム)
- 2) ゴムポケットおよび戸尻等の吊込み後、仕上げ塗装不可部分の  
先行仕上げ塗装実施（別途工事：客先に依頼のこと）
- 3) 連結滑車ワイヤー張力の確認

現場施工完成略図

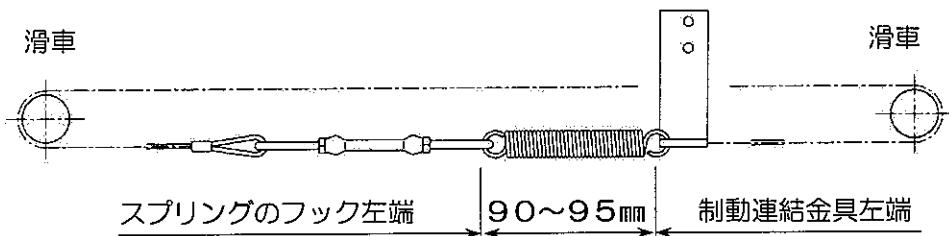
(引分け戸用)

○部品名で( )内は工場施工済み品を示す。



## 確認 1 連結滑車ワイヤーの張力

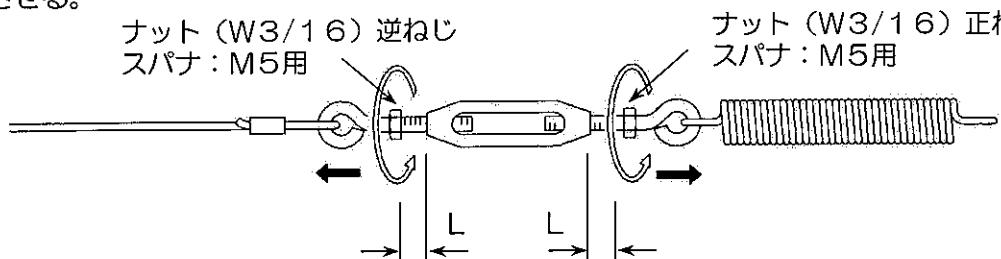
- 1) ターンバックル部分を連結滑車間中心に移動させ、制動連結金具の左端部とスプリングフック左端部寸法を測定する。寸法が90~95mmであれば適切な張り力です。



万一、不適切な張り力の場合、ターンバックル中心部を回しワイヤー張り力を調整する。

### ● 調整方法

- ① ナット(2ヶ)を 方向に回しゆるめ、さらに回して  $L = 10\text{mm}$ 以上 方向へ移動させる。



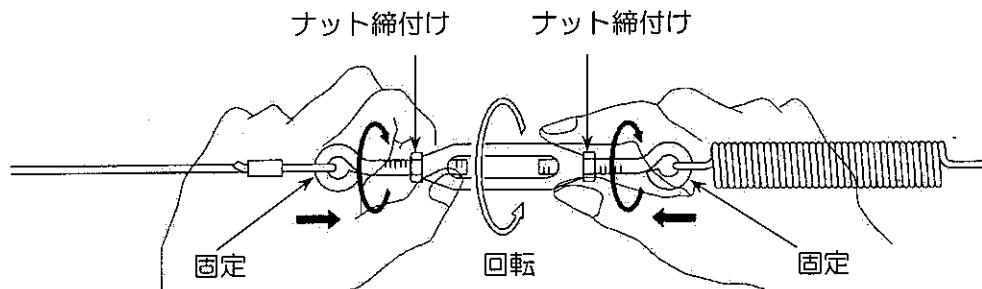
- ② 両手でターンバックルをつかみ両端部のねじ部が回転しないようにし、

- a) 張り力小(寸法90mmより小さい)の場合：

中心部のみ 方向へ回し、両端部を 方向へ縮ませワイヤーを張らせる。

- b) 張り力大(寸法95mmより大きい)の場合：

中心部をa)の逆方向へ回し、両端部を伸ばしワイヤーをゆるめる。

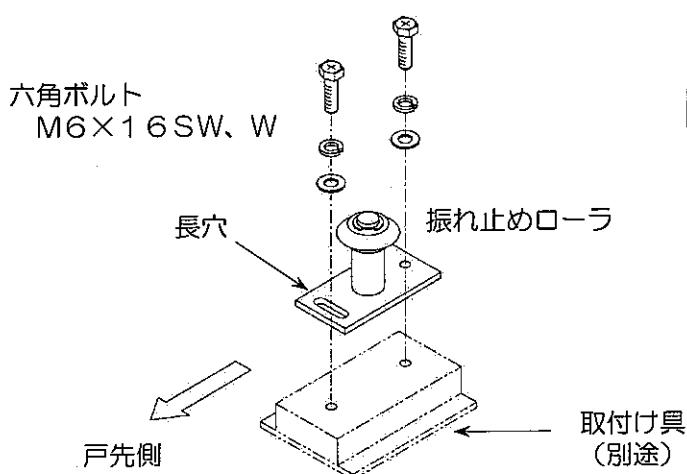


- ③ 所定の張りを確認したのち、両ナットを 方向に回し確実にロックさせる。  
(中心部スパナで固定)

注 ○調整時、ワイヤーをねじらないようにしてください。

## 施 工

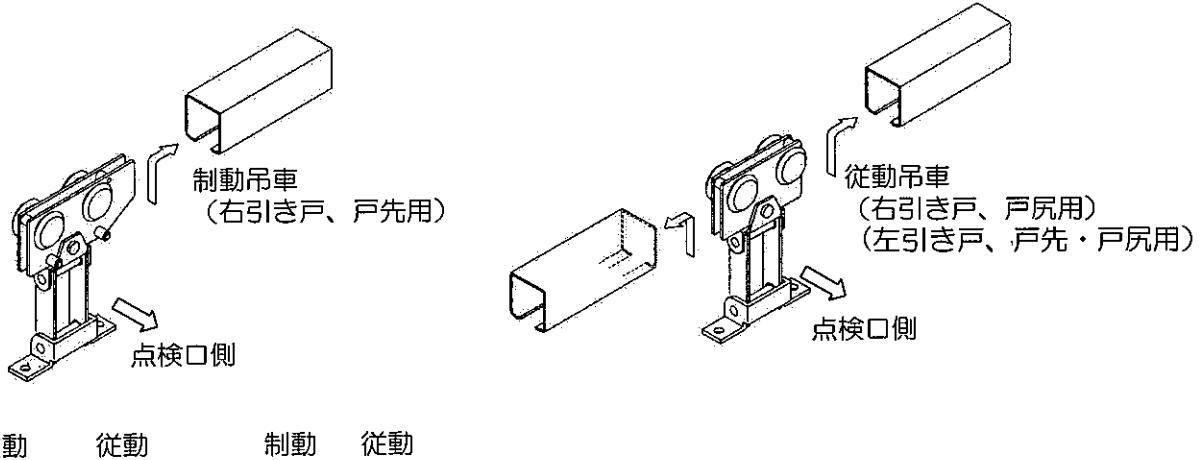
### 1 振れ止めローラの取付け



1) 振れ止めローラを床面の別途取付け具に固定する。長穴を戸先側にする。

**注** ○取付け関係位置は長穴の中心で固定してください。(別途設計図等に合わせてください。)  
○左右に各1ヶ取付けてください。

### 2 吊車の挿入 挿入方向 及び、挿入順厳守



1) 右引き戸に従動吊車・制動吊車各1ヶを同順にてレールの➡より挿入。

2) スッパーを挿入口に取付ける。

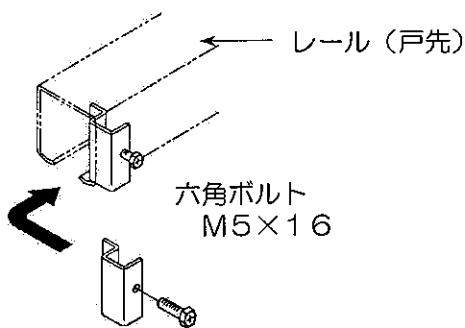
3) 左引き戸に従動吊車2ヶをレールの➡より挿入。

4) スッパーを挿入口に取付る。

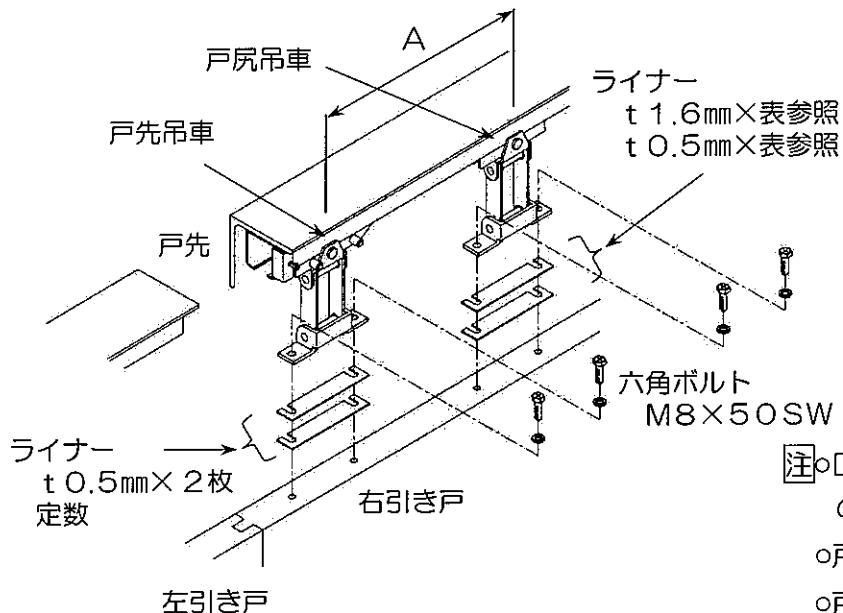
**注** ○手順1) 及び3) の時、レールに勾配がついているため、各吊車を落下させないようにしてください。

○各吊車に挿入方向、挿入順があります。

○制動吊車には歯車がついていますので、指つめ等、気を付けてください。



### 3 制動・従動吊車の取付け および、引き戸の吊り下げ



- 1) 右引き戸・戸尻側の吊車にライナーを下表の枚数差込み、吊り下げる。
- 2) 右引き戸・戸先側の吊車に  $0.5\text{mm} \times 2$  枚(定数) 差込み、吊り下げる。
- 3) 左引き戸も、右引き戸と同順にて吊り下げる。

**注** DW寸法 又は、A寸法により戸尻吊車のライナー枚数は決まります。

- 戸先吊車毎、 $0.5 \times 4$  枚付属しています。
- 戸尻吊車毎、 $1.6 \times 7$  枚 +  $0.5 \times 2$  枚付属しています。

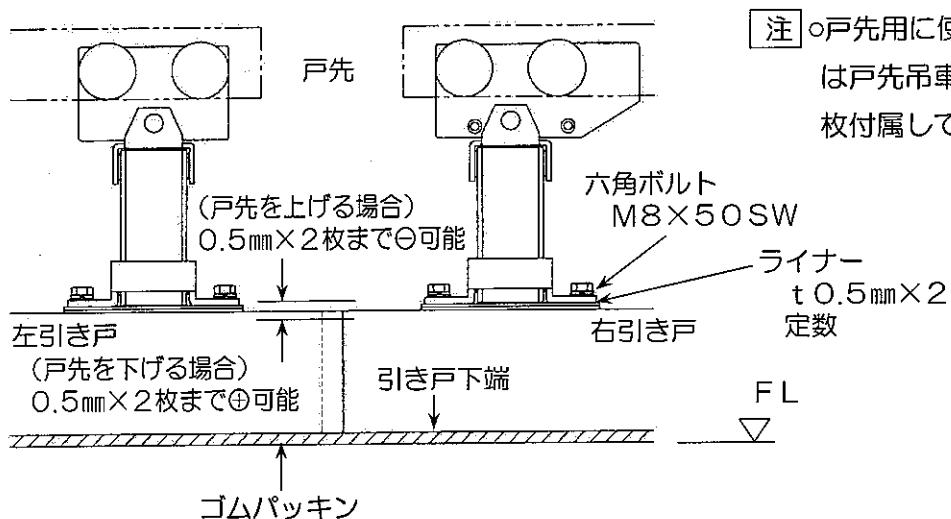
《引き戸・戸尻吊車のライナー枚数》

単位：mm

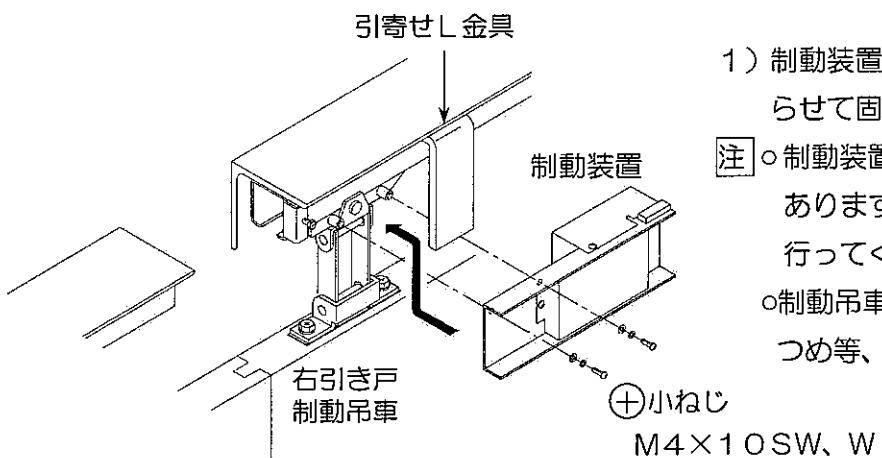
DW寸法	A寸法	戸尻戸車ライナー	DW寸法	A寸法	戸車(戸尻) ライナー
$530 \leq DW < 655$	305	$1.6 \times 4$ 枚 + $0.5 \times 0$ 枚	$775 \leq DW < 810$	455	$1.6 \times 5$ 枚 + $0.5 \times 2$ 枚
$655 \leq DW < 685$	335	$1.6 \times 4$ 枚 + $0.5 \times 1$ 枚	$810 \leq DW < 840$	490	$1.6 \times 6$ 枚 + $0.5 \times 0$ 枚
$685 \leq DW < 720$	365	$1.6 \times 4$ 枚 + $0.5 \times 2$ 枚	$840 \leq DW < 870$	520	$1.6 \times 6$ 枚 + $0.5 \times 1$ 枚
$720 \leq DW < 745$	400	$1.6 \times 5$ 枚 + $0.5 \times 0$ 枚	$870 \leq DW < 900$	550	$1.6 \times 6$ 枚 + $0.5 \times 2$ 枚
$745 \leq DW < 775$	425	$1.6 \times 5$ 枚 + $0.5 \times 1$ 枚	$900 \leq DW \leq 930$	580	$1.6 \times 7$ 枚 + $0.5 \times 0$ 枚

### 4 引き戸・建付けの調整

- 1) 各戸先吊車のライナー増減で調整する。
- 2) 各引き戸を上げる場合  
六角ボルト(M8) ゆるめ、ライナー( $t 0.5\text{mm}$ )を適度に取除く。(最大  $t 1.0\text{mm}$  調整可)
- 3) 各引き戸を下げる場合  
六角ボルト(M8) ゆるめ、ライナー( $t 0.5\text{mm}$ )を適度に加える。(最大  $t 1.0\text{mm}$  調整可)
- 4) 調整後は必ず六角ボルト(M8)を確実に締め付け固定する。



## 5 制動装置の取付け



1) 制動装置を制動吊車に引寄せし金具をくぐらせて固定する。

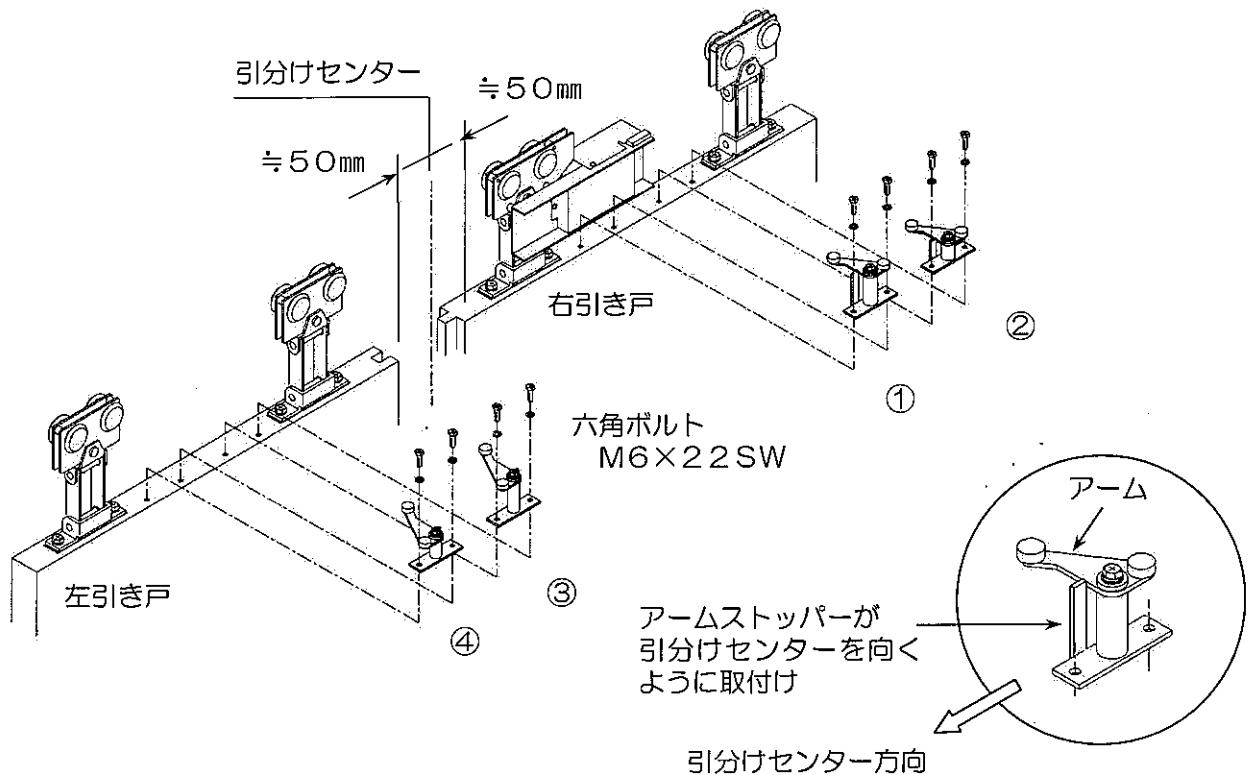
**注** ○ 制動装置 および、制動吊車には、歯車があります。噛み合わせを確認して取付けを行ってください。  
○ 制動吊車には歯車がついていますので、指つめ等、気を付けてください。

## 6 戸先・戸尻クランク (R・L) の取付け

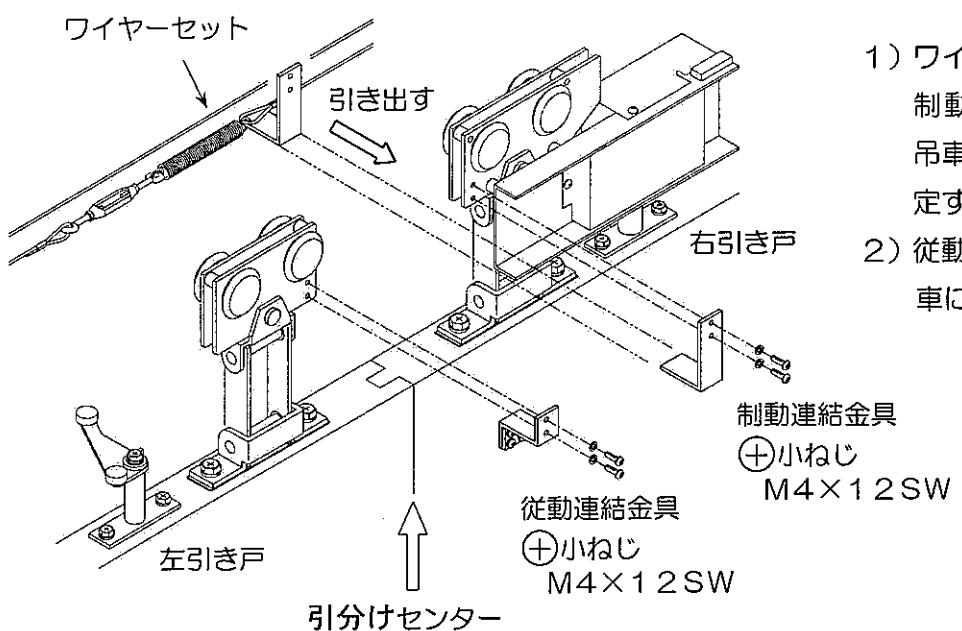
- 1) 引分けセンターより開方向へ  $\approx 50\text{mm}$  移動した位置に、各引き戸をくさび等で固定する。
- 2) 各引き戸に戸先クランク (R・L)、戸尻クランク (R・L) を固定する。

**注** ○ 4種類のクランクを付属しています。

- ①戸先クランク (R) …… 右引き戸・戸先用
- ②戸尻クランク (R) …… “ … 戸尻用
- ③戸先クランク (L) …… 左引き戸・戸先用
- ④戸尻クランク (L) …… “ … 戸尻用

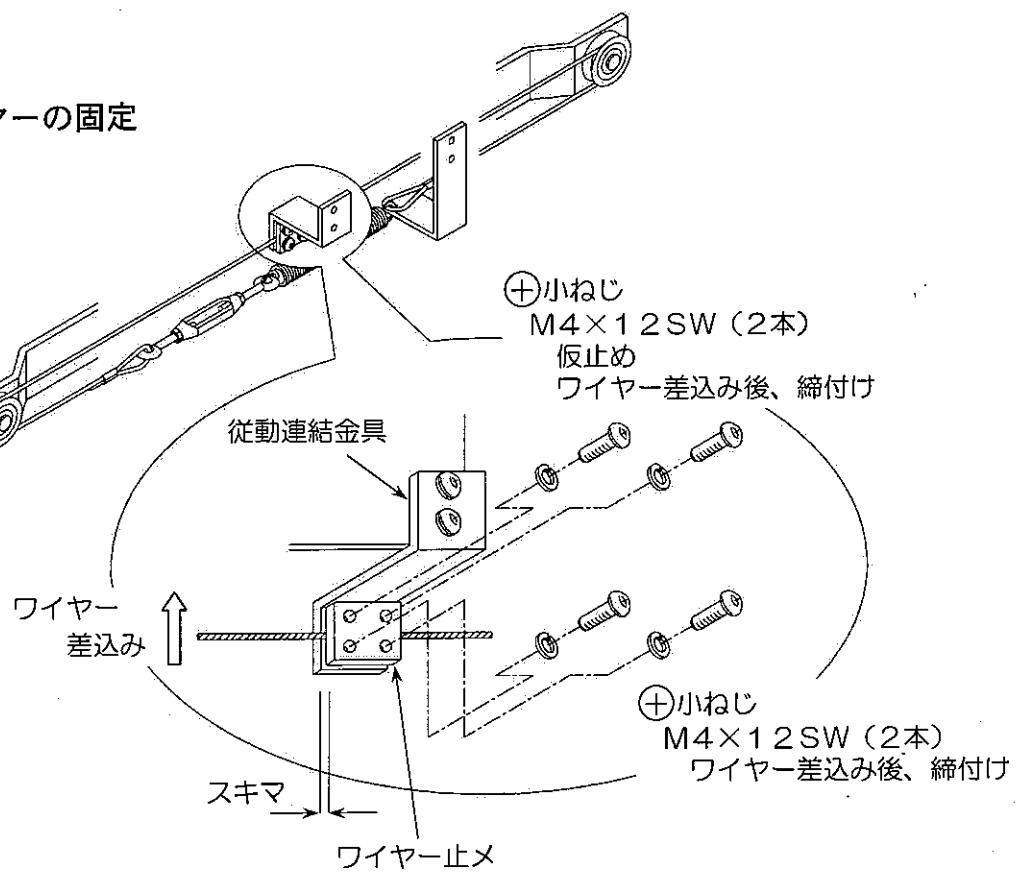


## 7 制動・従動連結金具の取付け



- 1) ワイヤーセットに付属している制動連結金具を右引き戸戸先吊車手前まで適量引き出し、固定する。
- 2) 従動連結金具を左引き戸戸先吊車に固定する。

## 8 ワイヤーの固定



- 1) 従動連結金具下端のワイヤー止メ取付ねじ $\oplus$ 小ねじM4×12 SW (4本) の内、上部2本を仮止めし、従動連結金具とワイヤー止メとの間にワイヤーがはまり込むスキマを作り、ワイヤーを差し込む。
  - 2) 上下、各2本の $\oplus$ 小ねじを締め付けてワイヤーを固定する。
- 注**○左・右引き戸の合わせは、引分けセンターの位置（全閉）でワイヤーを固定してください。

## 9 戸先・戸尻引寄せ金具の取付け

1) 戸先・戸尻引寄せ金具と引寄せし金具(4ヶ)の間に引寄せライナー( $t\ 1.0\text{mm} \times 2\text{枚}$ )を差込み、固定する。

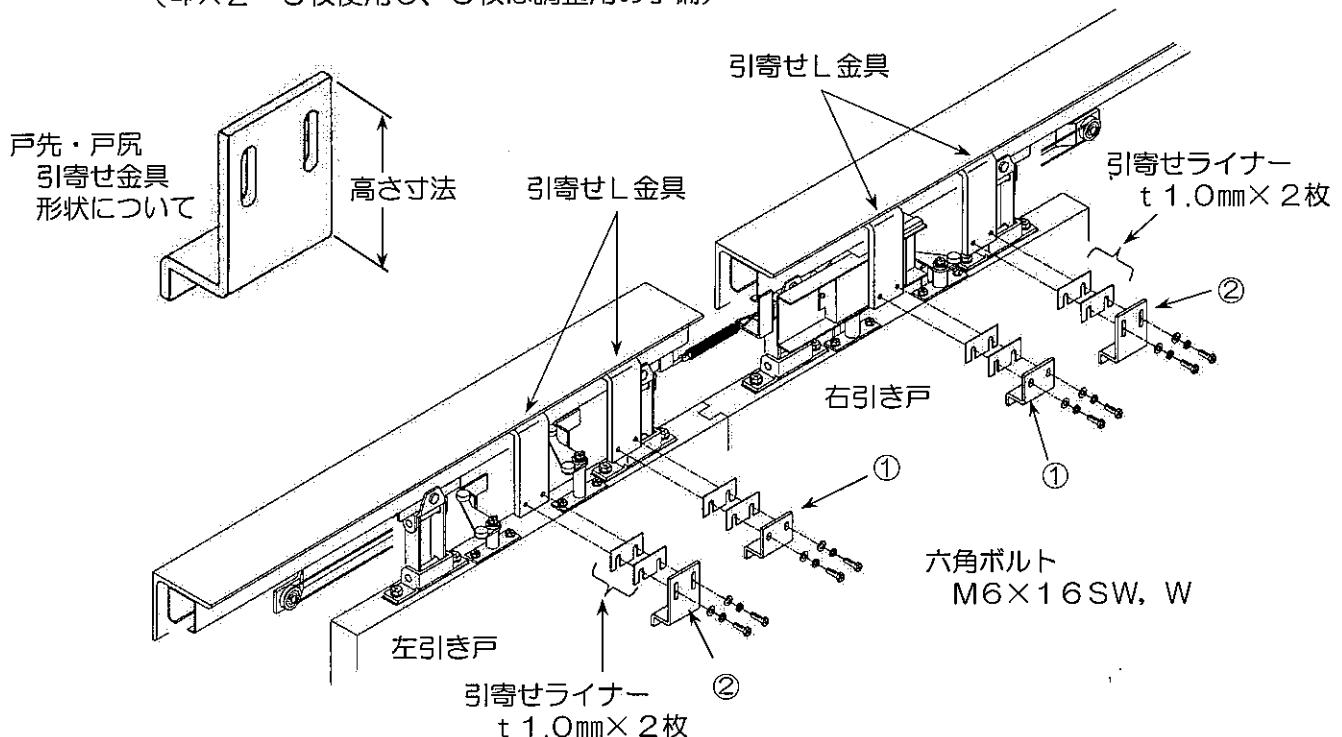
**注**○2種類の引寄せ金具を付属しています。

①戸先引寄せ金具・・・引き戸・戸先用(高さ寸法=短い)

②戸尻引寄せ金具・・・〃・戸尻用(高さ寸法=長い)

○引寄せライナーは、引寄せ金具毎、4枚付属しています。(合計16枚)

( $4 \times 2 = 8\text{枚}$ 使用し、8枚は調整用の予備)

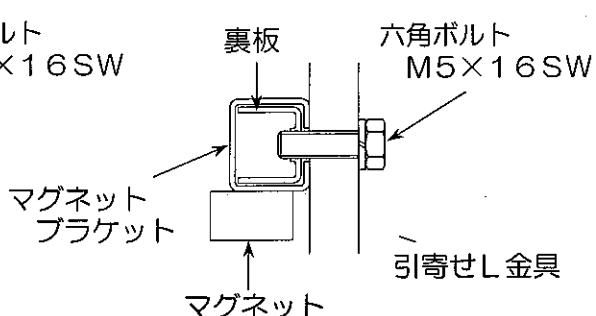
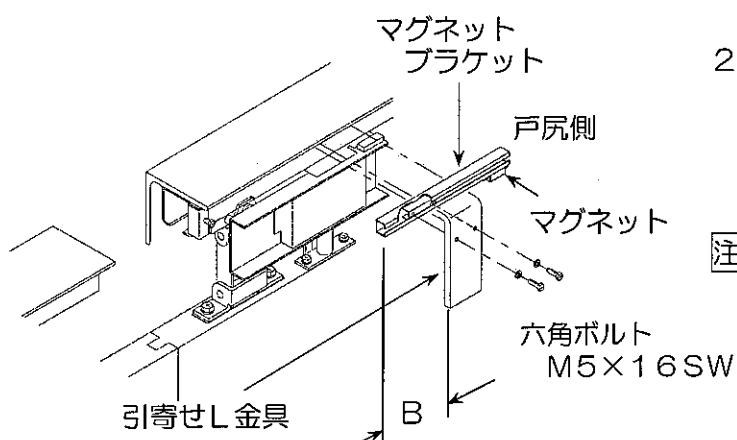


## 10 マグネットブラケットの取付け

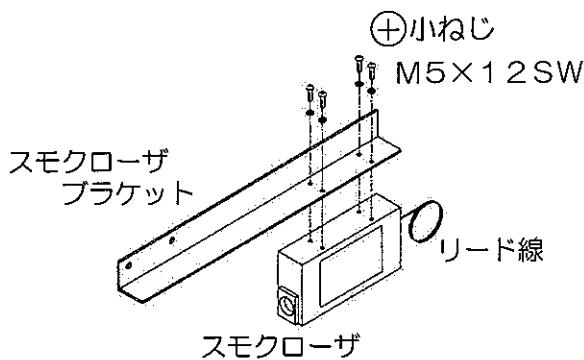
1) マグネットブラケットに組込み済の六角ボルトを取り外す。

2) マグネットブラケットを引寄せし金具と裏板でマグネットが戸尻側になるよう固定する。  
(B寸法=30mmに固定する。)

**注**○レールと平行に取付けしてください。



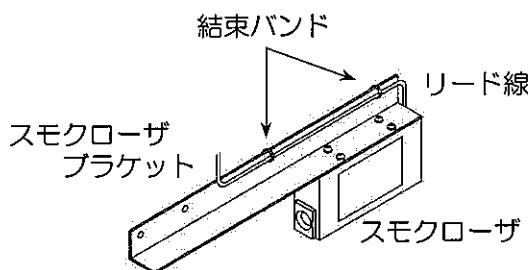
## 11 スモクローザ前組み



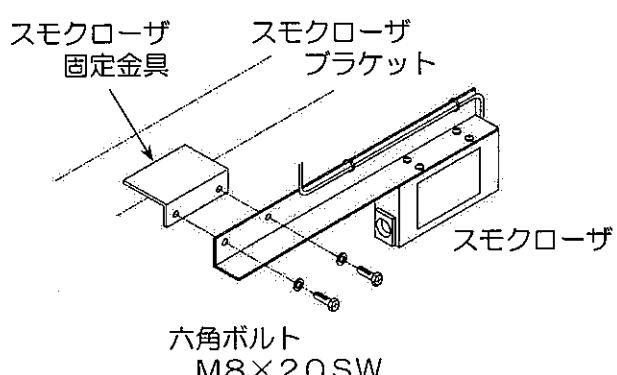
1) スモクローザとスモクローザブラケットを固定する。

2) スモクローザからのリード線を結束バンド(2本)で、スモクローザブラケットに固定する。

【注】○リード線および結束バンドの結び目は、スモクローザブラケット手前側で行ってください。また、結束バンドの余りは切断してください。

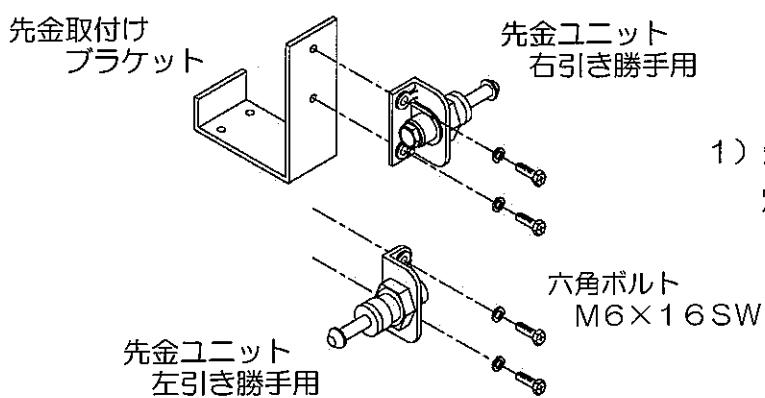


## 12 スモクローザの取付け



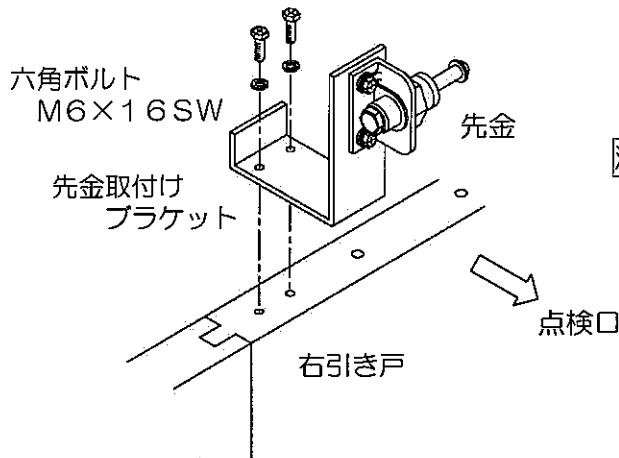
1) スモクローザ固定金具に [11] のスモクローザ前組み品を固定する。

## 13 先金と先金取付けブラケット前組み



1) 先金取付けブラケットと先金ユニットを固定する。

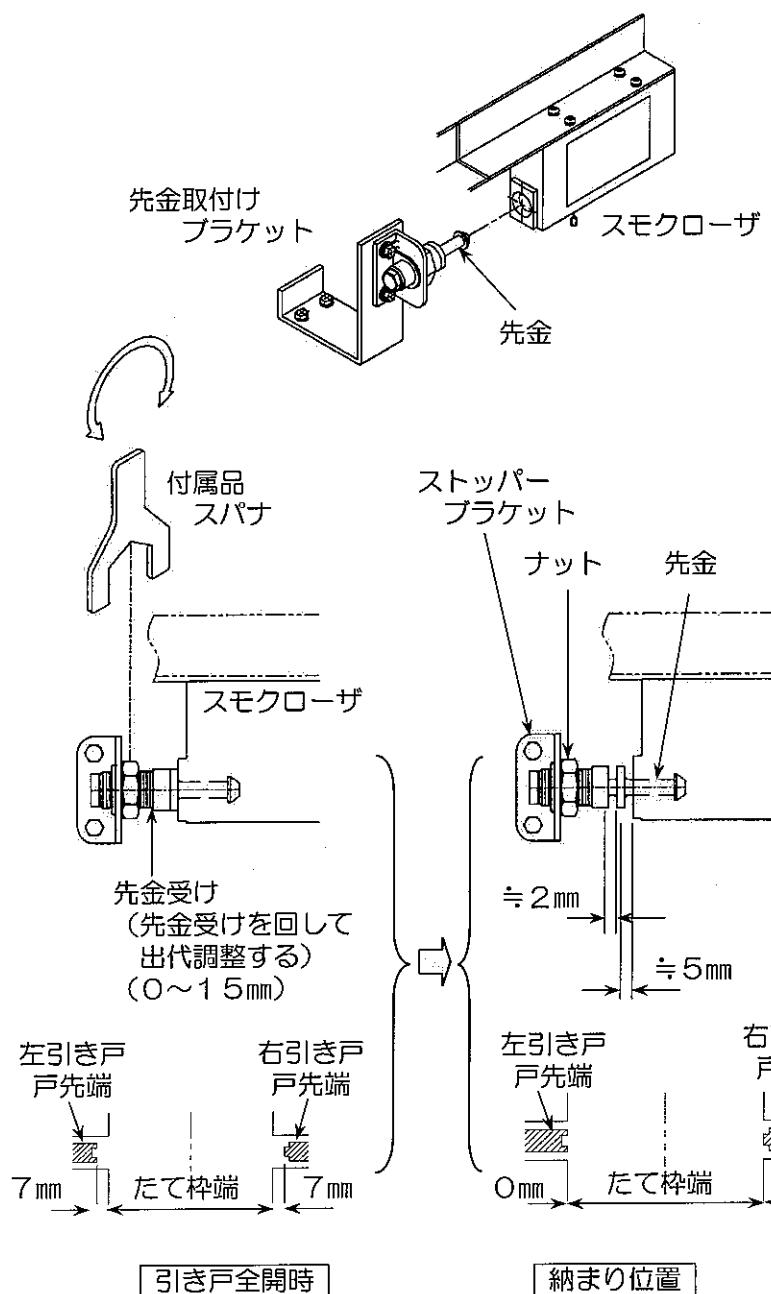
## 14 先金ストッパーの取付け



1) 右引き戸の戸先に固定する。

注) 先金が点検口側になるように取付けてください。

## 15 先金とスマクローザの位置確認 及び 調整



### 〔確 認〕

1) 引き戸全開直前位置の時、先金のセンターとスマクローザの先金受け口が合っているか確認する。

### 〔調 整〕

1) 引き戸全開位置の時、戸先端がたて枠から7mm深くなるように先金受けにて調整する。

〔納まり位置は、7mm深くすることにより、扉の自重で戸先端とたて枠が面一の状態になります。〕

2) 調整後、付属品スパナでナットを固定する。

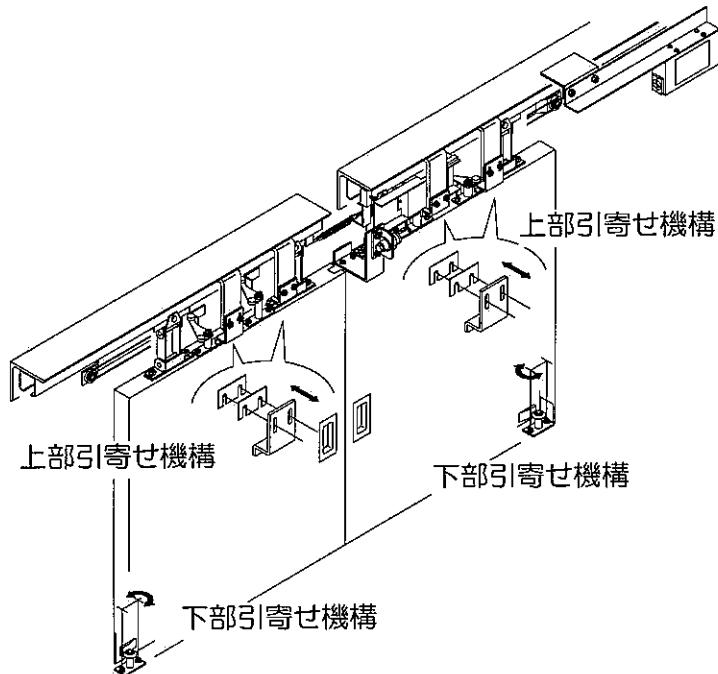
注) 引き戸全開位置とは、先金をスマクローザに挿入した位置のことです。

○引き戸全開位置より扉の自重で戸先方向に扉が7mm移動します。

○先金をスマクローザに勢いよく挿入すると、反動で先金が保持されない恐れがあるので、ゆっくり挿入してください。

## 16 引き戸引寄せの調整

- 1) 引き戸全閉時、引き戸が枠側に5mm寄せられ、枠とのスキマが2mm（パッキン除く）になるよう調整してください。
- 2) 上部引寄せ機構調整は戸先・戸尻引寄せ金具の六角ボルトをゆるめ引寄せライナー（t1.0mm）の増減で調整してください。
- 3) 下部引寄せ機構調整は振れ止めローラの六角ボルトをゆるめ ←→ 方向で調整してください。



- 4) 調整後、六角ボルトは確実に締め付けてください。

**注** ○上部引寄せ機構調整は、1mm単位で前後2mm調整可能です。

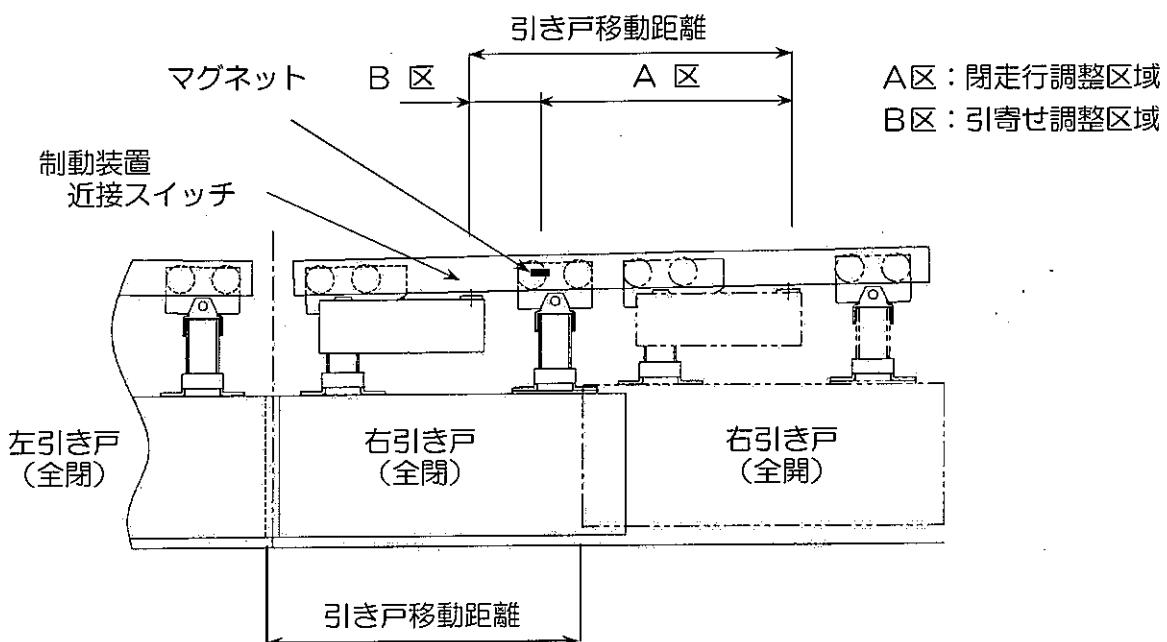
（引寄せ金具1ヶ毎、引寄せライナーt1.0mm×4枚付属しています。）

又、前後2mmにて対応できないときは、引寄せ当て金（P2参照）を左右に移動することにより若干の引寄せ量調整が可能です。

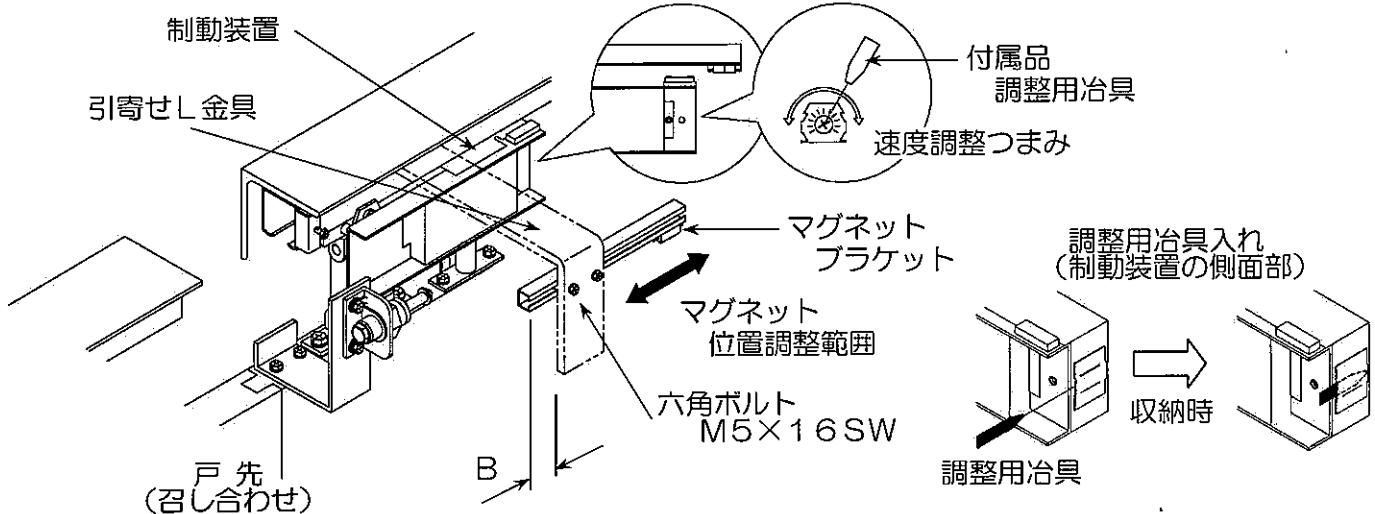
◎以上で引分け戸現場施工においての各部品の取付けは完了です。

## 閉速度の制御説明

- 1) 引き戸閉走行時の動きは、つぎのとおりとなりなす。
- 2) 調整等に際して参考としてください。



## 閉速度調整方法 A区域 および、B区域の調整



1) 全閉（閉鎖）状態になるようA区域およびB区域で調整を行う。

### 【A区域における閉鎖速度の調整】

- ① A区域の走行速度は、12.5cm／秒（8秒／m）以下を目安とします。
- ② 全閉可能な範囲で、最も遅い速度になるよう調整して下さい。
  - 調整は制動装置についている速度調整つまみを、調整用治具で回転させる。
  - 左方向回転・・・速くなる
  - 右方向回転・・・遅くなる
  - 調整用治具は、制動装置の側面部にあるシールのスキマに収納して下さい。

### 【B区域における閉鎖力の調整】

- ① B区域は上図B寸法30mmを目安とします。（0mm～90mmまで調整可能）
- 調整は六角ボルトM5×16 SW（2本）をゆるめ、マグネットブラケットを左右に移動させる。  
調整後、六角ボルトは確実に締め付ける。
- 戸先方向移動・・・閉鎖力が弱くなる（引き戸がはね返るときに移動する方向）
- 戸尻方向移動・・・閉鎖力が強くなる（引き戸が全閉しないときに移動する方向）

### ② B区域における閉鎖力の調整例

- B寸法0mmの時
  - 引き戸が全閉しない…施工 [16] に戻り、上部引寄せ機構の引寄せライナー1枚を増やし、再度B区域調整を行う。最大2枚増やしても全閉しない時は、引寄せ当て金（P2参照）を戸先方向に移動させる。
  - 引き戸がはね返る …マグネットブラケットを戸先方向へ移動させ、再度B区域調整を行う。  
又は振れ止めローラーの寄せ位置を調整する。
- B寸法90mmの時
  - 引き戸が全閉しない…マグネットブラケットを戸尻方向へ移動させ、再度B区域調整を行う。
  - 引き戸がはね返る …施工 [16] に戻り、上部引寄せ機構の引寄せライナー1枚を減らし、再度B区域調整を行う。最大2枚減らしてもはね返る時は、引寄せ当て金（P2参照）を戸尻方向に移動させる。  
又は振れ止めローラーの寄せ位置を調整する。

2) A区域およびB区域の調整後、閉鎖速度の計測を下記手順により行う。

- ① ドアコンの開口部床にスケールを置く。
- ② 全開状態から1mまで（又は途中の1m）の閉鎖速度をストップウォッチ（ストップウォッチ機能付腕時計または秒針付の腕時計でも可）で計測し記録を取る。  
(開口巾で1m取れない場合は50cmで行い、設定閉鎖速度は〇秒／mに換算する事。)
- ③ 手順②を3回計測し平均を出す。
- ④ 自主検査報告書の閉鎖速度欄にチェックを入れる。

## 確 認 2

- 1) 引き戸の開放が手動でスムーズにできるか。
- 2) 引き戸全開時、先金がスマクローザに確実にセットされるか。
- 3) スマクローザのセット解除すると先金ロックが外れ、引き戸が確実に全閉されるか。  
(手動閉鎖装置または、可能であればDC24V信号での作動でご確認ください。)
- 4) 引き戸全閉時、引寄せられているか。(三法枠戸当たりと扉のチリは2mmが標準)
- 5) K中心で左右引き戸が確実に閉じているか。

◎引き戸復帰方法（引き戸強制閉ののち、全開に復帰させる。）

- 1) 引き戸強制閉の動きから8秒以上の経過を確認し、スマクローザへの信号電源を「切」にした  
のち引き戸を手動でゆっくり全開にする。

以 上

## 〈参 考 〉

引分け戸 現場施工に際して、必要な工具類はつぎのとおりです。

### □□ 必要工具類一覧 □□

工具名・規格	
引分け戸 現場施工	
⊕ドライバー	2番
スパナ (M5)	S8
スパナ (M6)	S10
スパナ (M8)	S13
スパナ (M22)	梱包部品
調整用治具	梱包部品

注)○穴明け、ねじ切り、溶接および電気配線等に用いる工具類は除きます。

別添2

## 取扱説明書

常時閉鎖型遮煙引き戸（常閉）

# NK1型ドアコンシステム

## — 取扱説明書 —

- NK1型ドアコンシステム  
ご利用ありがとうございます。
- ご使用前にこの取扱説明書を  
必ずお読みのうえ、正しく  
ご使用ください。

●安全上のご注意	1～3
●管理上のご注意	4
●NK1型ドアコン システムの概要	4
●各部のなまえ及び その役割	5
●「？」と感じ られたとき	7
●連絡先	7

株式會社 豊和

# 安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- ここに示した注意事項は、「▲警告」、「▲注意」に区分していますが、誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容を「▲警告」、物的損害の発生が想定される内容を「▲注意」として記載しています。  
なお、「▲注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。  
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ▲ 警 告

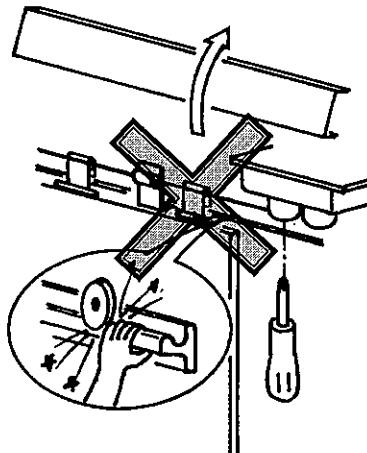
### 1. 分解・改造をしない

○点検カバーを開ける、取外しは、行わないでください。

[車輪とレールに指がはさまれる恐れがあります。]

○分解・改造・調整は行わないでください。

[ドア脱輪・落下など大変危険です。  
また、駆動部品の中は強力な巻バネ  
がセットされており、大変危険です。  
故障の原因にもなりますので、分解・  
改造・調整は行わないでください。]

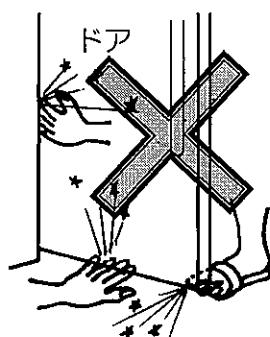


### 2. ドアと床面のすきまに注意

○ドアの下に手や足を入れないでください。

[ドア開又は閉のとき、指づめなど大変  
危険です。]

○戸袋とのすきま、ドア開のとき、指づめに  
ご注意ください。

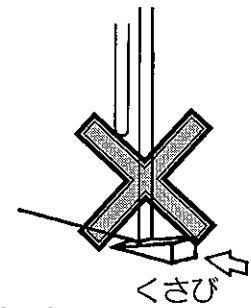


# ! 警 告

## 3. ドアの下にくさびを差込まない

○ドア下に止メ用くさびの差込み又はドア止メ具の使用は絶対にしないでください。

[ドアが浮上がり外れ、落下する恐れがあります。  
また、非常時強制閉が機能しなくなります。]

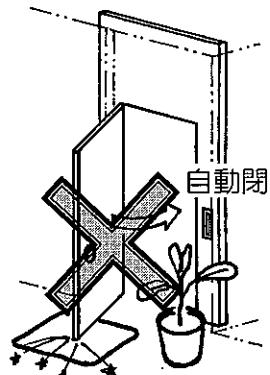
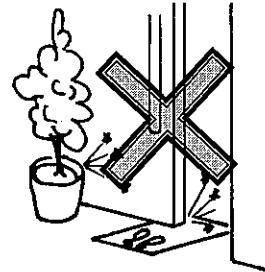


## 4. ドア開・閉部及び通路部確保

○ドアの開閉部分や通路部分に物置をしないでください。

また十分な場所の確保をしてください。

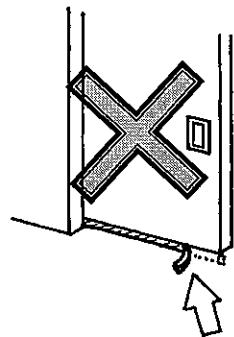
[非常時ドアの強制閉が機能しなくなったり、  
非難通路が阻害され大変危険です。  
またくぐり戸の場合、自動閉が機能しなくなる場合があります。]



## 5. ドア移動部近くの床面清掃

○ドア開閉部の床面は絶えず滑らかできれいに保ってください。

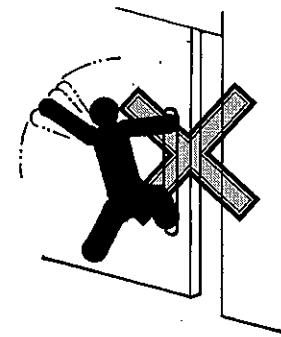
[ドア下端部には遮煙のためのゴムパッキンが取付けられています。砂や異物、床面段差等があるとパッキンの破れやめくれの原因となります。非常時遮煙機能が低下したり、ドアの強制閉ができなくなったりする恐れがあります。]



## 6. ドアにぶらさがって遊ばない

○ドアにぶらさがったり、開閉をして遊ばないでください。

[ドアの動きが急に変化して思わぬ事故の恐れが生じます。  
また、故障の原因にもなります。]

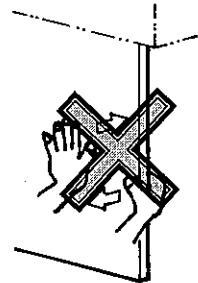


## ⚠ 注意

### 1. ドア正面を押さない

○ドア正面を強い力で押し・引きしないでください。

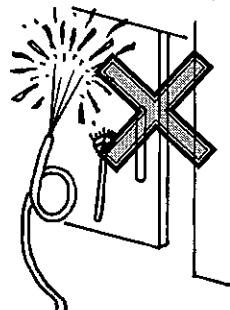
[ 変形や音なりなど、開・閉に悪影響を与えます。 ]



### 2. 水をかけない

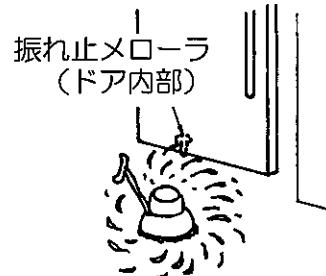
○ドア汚れの水かけ洗浄は行わないでください。

[ 装置には電気回路や精密回転部分があります。  
これらに水がかかると非常時強制閉の機能が  
働かなくなる故障が発生します。 ]



### 3. 床ワックス剤などを振れ止メローラに かけないようご注意ください。

[ 異音発生、ドア動きの不良などの恐れが生じます。 ]

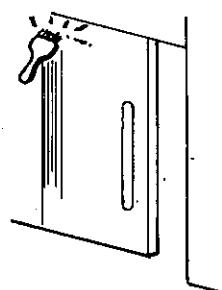


### 4. メンテナンスのとき

○壁やドアを塗装したり、別工事をされる場合

[ 回転部、レールなどにペイント付着、コンクリート粉、鉄粉などを落とさないように、また溶接火花をかけないように十分保護してください。 ]

[ 車輪やレールなどにキズや付着物が残りますと、ドアの動きが悪くなります。 ]



## 管理上のご注意

- NK1型ドアコンシステムは「常時閉鎖型遮煙引き戸」のシステムです。  
(閉動作は傾斜レールによる重力で引き戸を自動的に閉じるシステムです。)
  - ドアコンシステムは正常に作動（ドアが完全に閉まる）していますか。  
日常点検（信号で作動しますか）の励行でご確認ください。
  - ドア周辺に障害物はありませんか。（ドア開時の止メ具等の使用は禁止）  
ドア開閉部床面はいつもきれいですか。  
日常点検励行でご確認ください。
  - その他消防法等に基づき対応、管理をお願いいたします。
  - 専門業者による定期メンテナンスをお勧めいたします。

## NK1型ドアコンシステムの概要

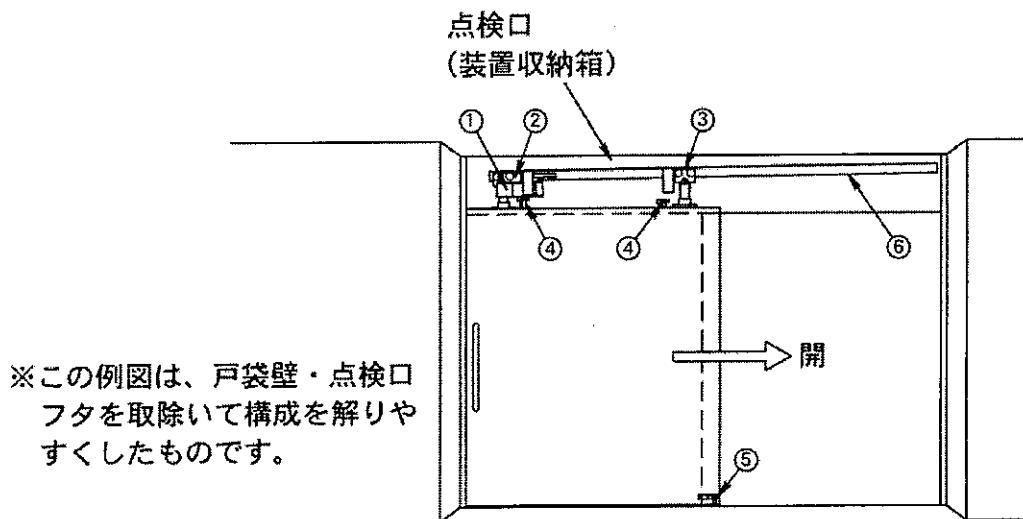
- NK1型ドアコンシステムは「常時閉鎖型遮煙引き戸」のシステムです。

1. 片引き（又は引分け）ドアで、通常は全閉状態にします。  
(常時閉鎖として使用してください)
2. ドアを開け、強制的にドアを閉鎖するときの速度は、装置内臓のブレーキ機構によりほぼ定速で閉まるため安全です。また速度調整も可能です。
3. 片引き戸、引分け戸のそれぞれの引き戸は、全閉時引き戸引寄せ装置により周囲の枠体に引寄せられ、遮煙性を高める構造です。

# 各部のなまえ及びその役割

«この図は片引き戸の例を示します。»

常閉



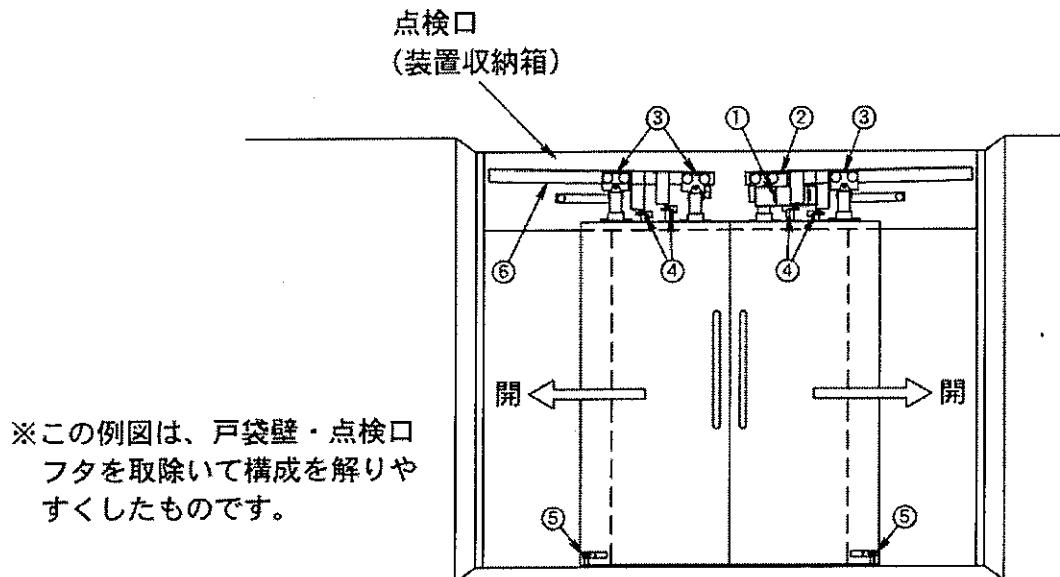
番号	なまえ	主な役割
①	制動装置	ドアの閉まるスピードを調整する装置。 (速度の調整機構も備えている)
②	樹脂製制動吊車	ドアに取付けられた⑥の中を走行する。 ドアを吊り下げている。
③	樹脂製従動吊車	ドアに取付けられた⑥の中を走行する。 ドアを吊り下げている。
④	戸先・戸尻クランク	ドアの前後振れを防止する。
⑤	振れ止メローラ	ドアの前後振れを防止する。
⑥	レール	②、③(ドア)の走行路。

※④及び⑤は、遮煙性を高めるための引寄せ機構も備えている。

# 各部のなまえ及びその役割

«この図は引分け戸の例を示します。»

常閉



番号	なまえ	主な役割
①	制動装置	ドアの閉まるスピードを調整する装置。 (速度の調整機構も備えている)
②	樹脂製制動吊車	ドアに取付けられた⑥の中を走行する。 ドアを吊り下げている。
③	樹脂製従動吊車	ドアに取付けられた⑥の中を走行する。 ドアを吊り下げている。
④	戸先・戸尻クランク	ドアの前後振れを防止する。
⑤	振れ止メローラ	ドアの前後振れを防止する。
⑥	レール	②、③(ドア)の走行路。

※④及び⑤は、遮煙性を高めるための引寄せ機構も備えている。

# 「？」と感じられたとき(故障かな？)

①ドアが完全に閉まらない。

a) ドアの閉鎖速度が速くてはね返る。。

b) ドアが完全に閉まらず途中で止まる。

②ドア下端部のシールゴムパッキンの破れ、めくれがあるとき。

③その他

また、

①強制閉時の速度を変えたい。(横引きドア、くぐり戸とも)

②点検、調整、掃除などをしたい。

など、

異常と感じられたとき、また、点検、調整、清掃を行いたいときは、必ずご連絡ください。  
お客様で分解、点検、内部清掃は行わないでください。

## — 連 絡 先 —

‰ 株式會社 豊 和 ドアシステム事業部

 0120-198-551

煙（・熱）煙感知器連動遮煙引き戸（随閉）

## NK1型ドアコンシステム

### — 取扱説明書 —

●NK1型ドアコンシステム  
ご利用ありがとうございます。

●ご使用前にこの取扱説明書を  
必ずお読みのうえ、正しく  
ご使用ください。

●安全上のご注意	1～3
●管理上のご注意	4
●NK1型ドアコン システムの概要	4
●各部のなまえ及び その役割	5
●「？」と感じ られたとき	7
●連絡先	7

株式會社 豊和

# 安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、正しくご使用してください。
- ここに示した注意事項は、「▲警告」、「▲注意」に区分していますが、誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容を「▲警告」、物的損害の発生が想定される内容を「▲注意」として記載しています。  
なお、「▲注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。  
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ▲ 警 告

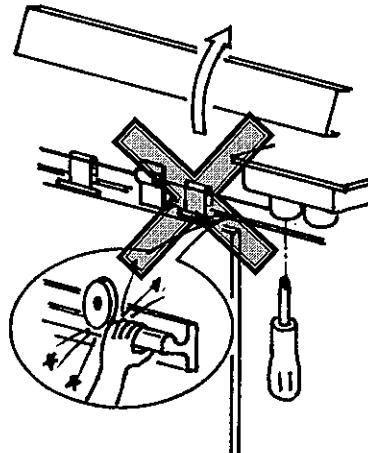
### 1. 分解・改造をしない

○点検カバーを開ける、取外しは、行わないでください。

[車輪とレールに指がはざまれる恐れがあります。]

○分解・改造・調整は行わないでください。

[ドア脱輪・落下など大変危険です。  
また、駆動部品の中は強力な巻バネ  
がセットされており、大変危険です。  
故障の原因にもなりますので、分解・  
改造・調整は行わないでください。]

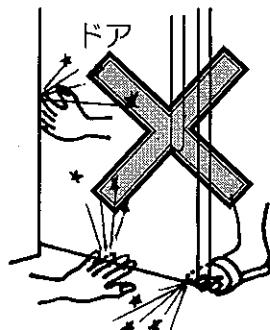


### 2. ドアと床面のすきまに注意

○ドアの下に手や足を入れないでください。

[ドア開又は閉のとき、指づめなど大変  
危険です。]

○戸袋とのすきま、ドア開のとき、指づめに  
ご注意ください。

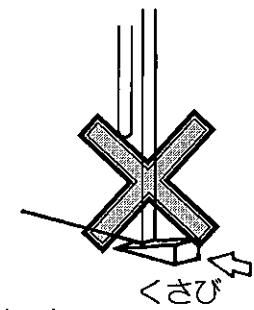


# ! 警 告

## 3. ドアの下にくさびを差込まない

- ドア下に止メ用くさびの差込み又はドア止メ具の使用は絶対にしないでください。

[ドアが浮上がり外れ、落下する恐れがあります。  
また、非常時強制閉が機能しなくなります。]

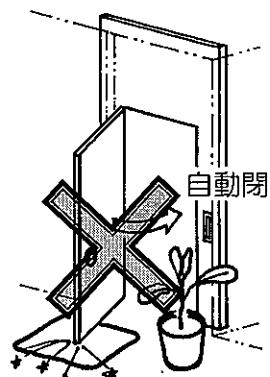
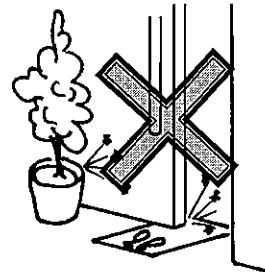


## 4. ドア開・閉部及び通路部確保

- ドアの開閉部分や通路部分に物置をしないでください。

また十分な場所の確保をしてください。

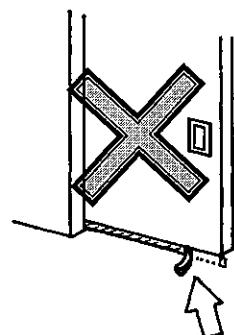
[非常時ドアの強制閉が機能しなくなったり、  
非難通路が阻害され大変危険です。  
またくぐり戸の場合、自動閉が機能しなくなる場合があります。]



## 5. ドア移動部近くの床面清掃

- ドア開閉部の床面は絶えず滑らかできれいに保ってください。

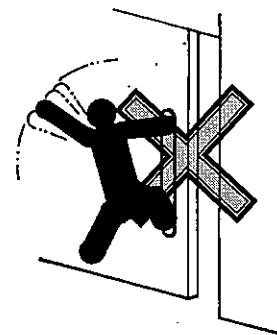
[ドア下端部には遮煙のためのゴムパッキンが取付けられています。砂や異物、床面段差等があるとパッキンの破れやめくれの原因となります。非常時遮煙機能が低下したり、ドアの強制閉ができなくなったりする恐れがあります。]



## 6. ドアにぶらさがって遊ばない

- ドアにぶらさがったり、開閉をして遊ばないでください。

[ドアの動きが急に変化して思わぬ事故の恐れが生じます。  
また、故障の原因になります。]

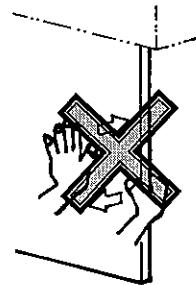


## ⚠ 注意

### 1. ドア正面を押さない

○ドア正面を強い力で押し・引きしないでください。

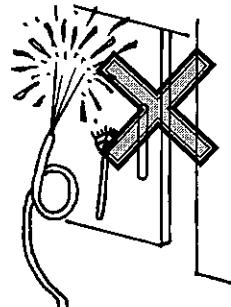
[ 変形や音なりなど、開・閉に悪影響を与えます。 ]



### 2. 水をかけない

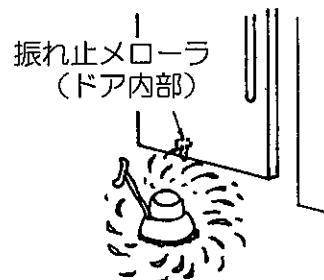
○ドア汚れの水かけ洗浄は行わないでください。

[ 装置には電気回路や精密回転部分があります。  
これらに水がかかると非常時強制閉の機能が  
働かなくなる故障が発生します。 ]



### 3. 床ワックス剤などを振れ止メローラに かけないようご注意ください。

[ 異音発生、ドア動きの不良などの恐れが生じます。 ]

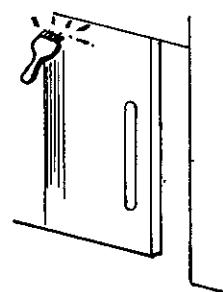


### 4. メンテナンスのとき

○壁やドアを塗装したり、別工事をされる場合

[ 回転部、レールなどにペイント付着、コンクリート粉、鉄粉などを落とさないように、また溶接火花をかけないように十分保護してください。 ]

[ 車輪やレールなどにキズや付着物が残りますと、ドアの動きが悪くなります。 ]



## 管理上のご注意

- NK1型ドアコンシステムは「煙（又は熱）感知器連動遮煙引き戸」のシステムです。非常時（火災時）、煙又は熱を感知し自動火災報知設備の受信機に信号が伝えられ、受信機からさらに当ドアコンシステムに伝えられます。ドアコンシステムは伝えられた信号によって、ドアを強制的に閉鎖させ煙の拡散を防ぎ、また延焼を防止させるものです。

- 自動火災報知設備は常に正しい状態ですか。  
日常点検の励行でご確認ください。
- ドアコンシステムは正常に作動（ドアが完全に閉まる）していますか。  
日常点検（信号で作動しますか）の励行でご確認ください。
- 扉にストッパーは付けないでください。
- ドア周辺に障害物はありませんか。（ドア開時の止メ具等の使用は禁止）  
ドア開閉部床面はいつもきれいですか。  
日常点検励行でご確認ください。
- その他消防法等に基づき対応、管理をお願いいたします。
- 専門業者による定期メンテナンスをお勧めいたします。

## NK1型ドアコンシステムの概要

- NK1型ドアコンシステムは「煙（又は熱）感知器連動遮煙引き戸」のシステムです。

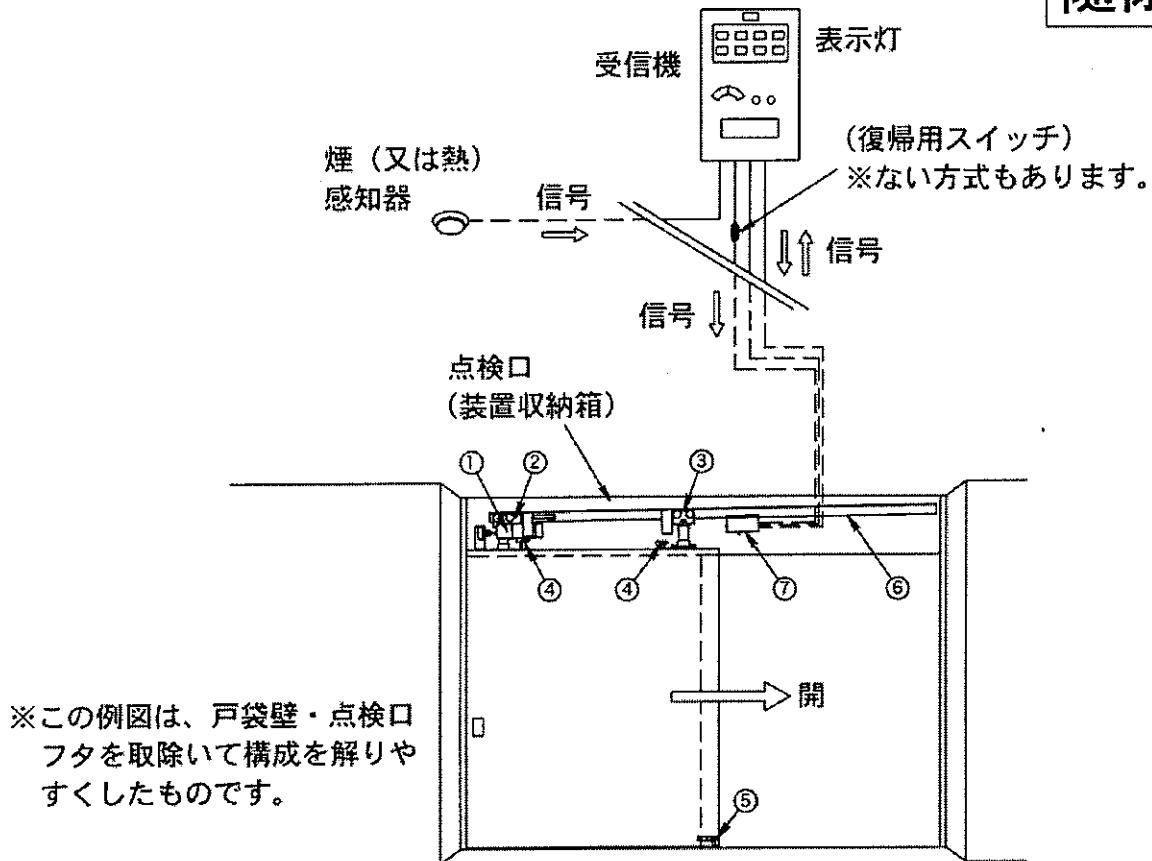
1. 片引き（又は引分け）ドアで、手動で自由に開操作ができます。  
(隨時閉鎖として使用してください)
2. 非常時（火災発生時）は、煙又は熱を自動火災報知設備が感知し、ドアコンシステムに信号を伝えます。  
※当システムは、信号を受けるとスマクローザに伝えられ、スマクローザは約3秒後に閉鎖力保持解除し、制動装置に制動されながら傾斜レールによる重力で引き戸を自動的に閉鎖させます。（手動による戸閉鎖も可能です）
3. 片引き戸、引分け戸のそれぞれの引き戸は、全閉時引き戸引寄せ装置により周囲の枠体に引寄せられ、遮煙性を高める構造です。
4. 非常時強制閉の後、引き戸の復帰は連動制御器側で一旦復帰用スイッチ当の操作をした後、引き戸を手動で全閉位置に戻すと復帰します。

# 各部のなまえ及びその役割

«この図は片引き戸の例を示します。»

自動火災報知設備

随閉



番号	なまえ	主な役割
①	制動装置	ドアの閉まるスピードを調整する装置。 (速度の調整機構も備えている)
②	鉄製制動吊車	ドアに取付けられた⑥の中を走行する。 ドアを吊り下げている。
③	鉄製従動吊車	ドアに取付けられた⑥の中を走行する。 ドアを吊り下げている。
④	戸先・戸尻クランク	ドアの前後振れを防止する。
⑤	振れ止メローラ	ドアの前後振れを防止する。
⑥	レール	②、③(ドア)の走行路。
⑦	スマクローザ	非常時は受信機からの信号で、⑥の傾斜により閉まるドアのロックを解除する装置。

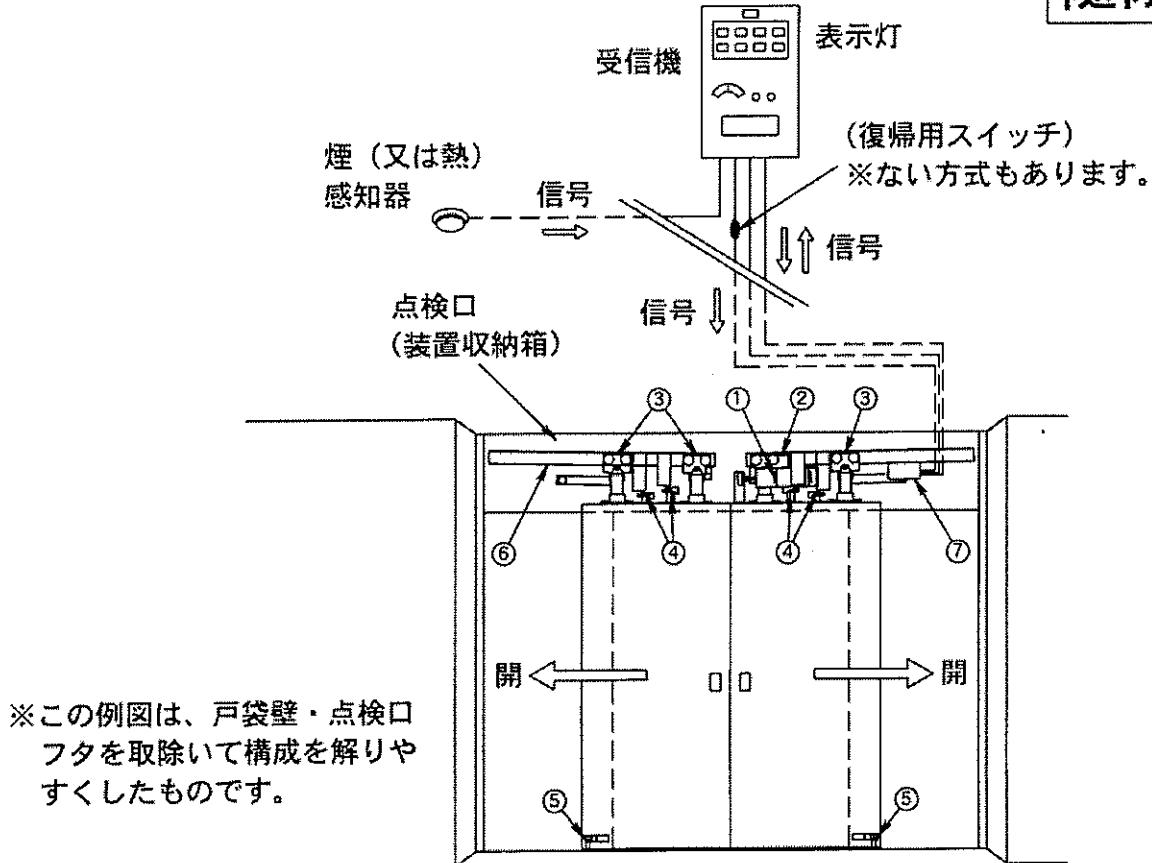
※④及び⑤は、遮煙性を高めるための引寄せ機構も備えている。

# 各部のなまえ及びその役割

«この図は引分け戸の例を示します。»

自動火災報知設備

随閉



番号	なまえ	主な役割
①	制動装置	ドアの閉まるスピードを調整する装置。 (速度の調整機構も備えている)
②	鉄製制動吊車	ドアに取付けられた⑥の中を走行する。 ドアを吊り下げている。
③	鉄製従動吊車	ドアに取付けられた⑥の中を走行する。 ドアを吊り下げている。
④	戸先・戸尻クランク	ドアの前後振れを防止する。
⑤	振れ止メローラ	ドアの前後振れを防止する。
⑥	レール	②、③(ドア)の走行路。
⑦	スモクローザ	非常時は受信機からの信号で、⑥の傾斜により閉まるドアのロックを解除する装置。

※④及び⑤は、遮煙性を高めるための引寄せ機構も備えている。

# 「？」と感じられたとき(故障かな？)

- ①非常時（点検時等）ドアが完全に閉まらない。
  - a) ドアが全く閉方向に動かない。
  - b) ドアが完全に閉まらず途中で止まる。
- ②装置復帰（非常時閉作動後元に戻す）操作をしても復帰しない。  
(ドアが閉方向に戻ってしまう。)
- ③ドア下端部のシールゴムパッキンの破れ、めくれがあるとき。
- ④その他

また、

- ①強制閉時の速度を変えたい。（横引きドア、くぐり戸とも）
- ②点検、調整、掃除などをしたい。

など、

異常と感じられたとき、また、点検、調整、清掃を行いたいときは、必ずご連絡ください。  
お客様で分解、点検、内部清掃は行わないでください。

## 連 絡 先

株式會社 豊和 ドアシステム事業部

 0120-198-551